57

44

始

ハエ3ス-74

第二回花柳病講習會講說集

57-44

帝國圖書館藏

内務省主催
第二回花柳病講習會

花柳病講說集

大正
7 6.12
寄贈

内務省衛生局寄贈本

告辭

茲に本日を以て第二回花柳病講習會を開會するに當り一言以て諸子に告くる所あらんとす

顧ふに我國に於ける花柳病は各地に浸潤して毫も減退の跡を見さるのみならず該病毒に因る死亡者の如き其の數年々一萬を超へ更に之を壯丁檢査成績に見るも亦近年却て不良の傾向を示しつゝあるは邦家の爲め深く遺憾とせさるを得す抑も花柳病は啻に現在に於ける國民の健康を傷害するのみならす其の將來に及ほす影響亦極めて大なるものあり而も本病の診斷治療や頗る困難にして醫家の之に堪能なると否とは之か豫防撲滅の上に重大なる關係を有す是れ本省か特に本講習會を開催するに至りし所以なり諸子は既に

一般醫術の技能と經驗とを有す從て講習の期間や短しと雖も諸子の熱誠を以て克く諸講師の懇篤なる指導の下に研鑽攻究を積まるゝあらむか其の得る所決して尠少ならさるへきを信す諸子の克く此の意を體して本會の効果を完ふするに努められむことを望む

大正六年一月十五日

内務大臣男爵　後藤新平

内務省主催
第二回花柳病講習會

花柳病講說集

目次

一 性慾教育と花柳病豫防……内務省衛生局長……中川望
二 花柳病豫防に關する制度……法學士……山田準次郎
三 皮膚病並花柳病學……醫學博士……櫻根孝之進
四 花柳病と婦人科病……醫學博士……緒方十右衛門
五 眼疾患と花柳病……醫學博士……宮下左右輔
六 花柳病と精神神經病……醫學博士……和田豐種
七 遺傳黴毒……醫學博士……松浦有志太郎
八 檢黴並驅黴院監理……防疫官……上村行彰
九 花柳病治療示講附檢黴示講……警察醫……中野生清
十 ワッセルマン氏反應檢査法……大阪醫科大學醫學士……山田司郎
十一 化學的療法……醫學博士……有馬頼吉
十二 性慾觀念の變遷……醫學博士……佐多愛彦
十三 花柳病の豫防に就て……内務技師……野田忠廣

開講式告辭……内務大臣男爵……後藤新平
終了式式辭……同
終了式挨拶……内務省衛生局長……中川望
祝辭……大阪府知事……大久保利武
講師總代祝辭演說……大阪醫科大學長醫博學士……佐多愛彦
答辭……講習員總代……河合團次郎

講習科目
講習會員名簿
附錄　英國に於ける花柳病狀況

性慾教育と花柳病豫防

内務省衛生局長　中川望

一

私は『性慾教育と花柳病豫防』と云ふことに就てお話をすることになつて居りますが、講習の期間が短かいのでありますから、科目の撰擇に就ては種々講究を致したのでありますが、先年花柳病豫防協會に於て講習會を開催したときの科目を參酌して、昨年第一回の時に實行致したのでありますから、昨年の經驗に基いて又本年お手許に廻して居るやうに時間を定めたのであります。

其の時間の中で專ら大學の先生にお願ひするのは皆さんの專門の醫學上のことに就て最新の學理のお話を願ふ積りであります、私のは少し夫れとは懸隔れて居つて、皆さんの直接の專門のことゝは關係ないやうでありますが、併ながら花柳病豫防及び撲滅と云ふことに就ては是非聲を大にして其の目的を達しなければならぬ、其の目的を達するに就ては、此事に最も關係の深い、且つ常に考慮を廻らされる方々が世間に向つて大聲叱呼して豫防、撲滅の急務なることを說示して戴かぬと云ふと目的を達することが困難であります、夫故に花柳病のことに就て最も專門の智識を有

せらるゝ、又是れが診斷治療に從事せらるゝ諸君が花柳病豫防のことに卒先して御盡力ある樣願ひたいのであります、此の花柳病の豫防、防止と云ふことに就ては種々の方法もありませう、大別致しますること云ふと、一面には諸君の直接關係せらるゝ醫學の應用に依つて此の花柳病なるものを病理的に治療する、或は撲滅を圖ることゝ第二には一般に行政上或は法政上花柳病の豫防に關して必要なる制度を定めることと、第三には教育上及び道德、宗教其他社會的の施設に依つて花柳病の豫防撲滅を圖ると云ふこともあります、斯う云ふことで各方面からして同じ步調に進んで行かなければ、花柳病の豫防撲滅に就て功を奏することは困難のことゝ考へるのであります、偖て時局開始の當時內務省に於ては製藥事業を奬勵致しましたが、其の時分に、我國には古來各地方に於て種々家傳の藥とか、種々此の地方々々に昔からの賣藥其他の藥を實際用ゐて居るものがありますから、さう云ふ種類を集めて見ました時分に何れの地方にもあるのが花柳病の特効藥と稱するものであります、何所の田舍に行つて見ても花柳病の特効藥と云ふものが、或は家傳と稱し、或は賣藥で以てあるのでありまし、此點から見ても花柳病なるものが昔からある、古來何れの山間僻地に於ても此病に苦しんで居つたと云ふことは一般に證明せらるゝのであります。

二

そこで是れが豫防撲滅と云ふことは、果して根本的に出來得るものであるか、何う

か、中々他の傳染病と異つて容易ならざる問題であらうと思ふのであります、單に治療藥が發見されて……六〇六號なるものが發見されて、之れに依つて黴毒が治癒されると云ふことになつても、亦六〇六號以上のものが發見せらるゝに至りましても果して黴毒なるものを根絕することが出來るか何うか、是れは餘程疑問であらうと思ふのであります、何となれば病となつてから治癒するよりも、病に罹るべき原因を絕つて行かなければならぬのであります、然るに此の原因を斷つと云ふことが餘程困難であります、土木の事業では水害があると云ふと、復舊工事と云ふものをやつて居ります、復舊工事なるものは是れは是非やらなければならぬ仕事であつて、堤防が破壞せらる、河身が荒されると云ふことになると、將來の危害を除くため、或は其の危害を薄らけるためには何うしても復舊工事が必要であるが、併ながら根本の目的としては御承知の如く治水政策を執らなければならぬ、山には樹木を植ゑる、水源の涵養をする、土砂の流失を防ぐ、砂防の設備をすると云ふことにして、河水の氾濫を防ぐと云ふ事から始めて行つて、それから此度は河身の改修をすると云ふやうに、根本的の治水策を施して、初めて水害なるものが豫防することが出來るのであります、花柳病に對しても諸君の自ら知らるゝ所の此の醫術上の治療と云ふことは、詰り復舊工事であります、既に病に罹つたものを癒して以前の如く健全にすると云ふことに就て諸君の手を煩はすものであります、故に此他に所謂根本の治水策に當るものとし

て、國家として法政上或は行政上其他社會的の施設を盡し、教育、倫理、宗教と云ふやうなものゝ各種の方面から手を盡さなければならぬのである……と云ふのは元來急性及び慢性の傳染病に致した所で、細菌學が如何に進歩しても此の社會の設備に缺陷があり、また社會の設備が充分になつても、今日の所では我々が如何に注意して居つても、何時肺結核菌の侵入があるかも知れぬのである、之れを完全に防ぐと云ふことは最も困難なことであります、又窒扶斯或は赤痢のやうなものにしても何時其の細菌の襲來を受けるか分らぬのであります、是等の傳染病に對する豫防策は餘程困難であつて、此の病氣に冒さるゝ場合は多くの場合天災と諦めなければならぬが、併ながら花柳病に至つては、花柳病に對する個人衛生の注意と云ふものはやつて行はれぬことはないものであろうと思ふのであります、自ら其の危險に觸れなければ花柳病の侵害を蒙らぬ、花柳病に罹らずに濟むことであらうと思ふのであります、ところが是れが困難である、人間として……動物として一方性慾なるものがあるために之れを抑制することが出來なく、或は社會の誘惑に依り、或は社會の缺陷に依り、其他種々の原因に依つて其の病毒に觸れることになるのであります、觸れざらんと欲せば觸れざることを得るのでありますが、人間の弱點として觸れる機會が多いからして隨つて傳播する、尤も場合に依つては全く天災と同じこと、何等のことを知らずして、正當なる結婚に依つても夫からして花柳病の傳播を受けて、何も知らずに一生を

過すと云ふものも非常に多いから、さう云ふ場合もありませうが、多くの場合に於ては花柳病を豫防すると云ふことは各個人の注意如何に依つて絶對に出來ぬことはありませぬ、花柳病に罹ることを以て天災とまで云ふのは如何であらうと思ひます此點は他の傳染病とは餘程趣を異にして居ります、斯うして見ると力の入れやうに依つては花柳病の豫防と云ふことは或程度までは行ひ得る、他の傳染病よりも行ひ易いと云ふても宜からうと思ひます。

三

茲に於てか性慾教育なるものが近頃非常に世間の問題となつて居るのであります、性慾教育と云ふことを近頃新聞雜誌其他坊間にても往々散見するやうになりましたが、是れは歐羅巴に於ても左まで古い問題ではないのであります、尤も一般に此の性慾教育なるものは、歐米に於ては餘程進んで居つて大分行はれて居るやうに思はれても居りますが、實際に於てはまだそれほど確定したるものではないのであります、先年より既に問題とはなつて居るのでありますけれども、漠然と想像したよりも確定したものになつて居らぬのであります、併し何故に性慾教育なるものゝ問題が盛になつて來たかと云へば、是れは後ちに各講師より種々の統計的のお話もあるだらうと思ひますが、兎に角花柳病の不知不識の間に浸潤して居ると云ふことは何れの國に於ても中々盛なものであります、之れを歴史的に云ふても隨分花柳病と云

ふことに就ては種々な時期を變遷して居るものであつて、例へば花柳病に罹らないと云ふと男らしくないと云ふやうな風にまで思はれるやうな時代もありました、日本でもさう云ふ時代があります、外國でも諸威の軍人倶樂部は花柳病に罹つて居るものでなければ入會することを得ずとまでせられた時代もあります、何か武藝の心得でもあるやうに、或は勳章でも持つて居るやうな風にまで思はれた時代がある譯で、中々浸潤の程度がひどかつたものであります、併ながら今日では民族衛生なるものが非常に重きを置かるゝことになりました、國民の力、國民の元素、將來の國民の改良と云ふことに就ては……所謂『ユゼニック』に就ては是等國民の改良に障害を與へる所の疾病は總て豫防を圖らなければならぬことになつて、花柳病の豫防撲滅と云ふことは先年來重きを置かれて居ります、現在性慾教育が歐米に於てどれほどの程度まで行はれて居るか、之れに就ては種々なる問題も起りますので、性慾教育なるものは施して宜いのか何うかと云ふことも未だ決定せられぬ問題である、世間には此頃大分性慾教育と云ふ標題で種々著書もありますが、中には此種の花柳病其他人体に關係ある書物に於て本當に世間を思つてするのと、單に營利のためとあつてたゞ新奇の名を以て其の著書の澤山に賣れることのみを目的として出版するものもあります、甚だ無責任な著書もあるやうであつて、夫等の著書に於ては性慾教育なるものを論じて居りますけれども、却つて惡い結果を來すやうな書き方のものもなきに

しもあらず、歐米に於ても性慾教育なるものが必要か何うかと云ふことは常に問題になつて居ります、若し性慾教育を施すべしとするならば第一に年齢は何年頃から始めるが適當か、又如何なる場所に於て爲すべきか、學校に於てすべきか、家庭に於てすべきか、場所の問題がありまして、又何人が其の説明の衝に當るべきや、何人が性慾教育を施すべきや、人の問題も是又非常に研究すべき材料であります、又如何なる形式に於て如何なる程度まで解説すべきか、是れも餘程重大なる問題であつて、若し話す場所、話す人、如何なる程度、如何なる形式、是等の事を等閑にして性慾教育なるものを施したならば、却つて豫期以外の反對の結果を及ぼすものであります、全く無智なるもの、或は無垢なるものに惡しき智識を與へると云ふやうな結果を來すことが往々にしてあるのであります。

四

それで是等のことが實際に於て如何に歐米諸國に於て行はれて居るかと云ふことを簡單に云へば、英吉利、獨逸、或は獨逸の普魯西、丁抹、瑞典とか云ふやうな所は性慾教育の盛な所でありますが、夫等の國に於ても實際は左まで盛になつて居りませぬ英吉利でもまだ學校で以て性慾教育なるものを學校の課程として教へて居る所はありませぬ、我國の學習院に當るイートン大學の如きも其所の校長及び舍監が個人的の資格を以て、青年が墮落の危險に瀕する場合に、之れを訓誡すると云ふやうなこ

ことにしてやつて居りますが、學校の課目として之れを教へては居らぬのである、それからミッシヨンスクール其他の宗教學校にても生徒の兩親に指導に資するために定期刊行物を發行して時々子弟に注意を與へるやうに進んでは居りますが、學校で直接に生徒に對して性慾教育を施すことまではなつて居らぬのである、父兄に對する注意を與へて居るに止まる、父兄をして兒童に適當な注意を與へしむることゝ云ふことになつて居ります、それから獨逸、殊に普魯西は何うなつて居るかと云ふに、此所でも性慾教育のことを學校で教へることゝ云ふことは極めて稀で殆んどないと云つても宜しい、たゞ中學程度……御承知の如く大學まで進む大學の豫備でありますギムナジユームと云ふ九箇年程度の學校に於て此の性慾教育を其の最上級のものにのみ課して居る所があります、一番上級の卒業の年の生徒にのみ此の性慾教育を施して居りますが、それも學校長、教授若くは醫師が之れを擔當することになつて居る、即ち此の說明者を校長、教授、醫者と云ふことにして、而も課目としては隨意課目になつて居るのであります、それで此の講義の目的とする所は性慾の攝生と云ふこと、攝生の實行と云ふことを切實に說くのでありまして、不自然なる性慾の遂行若くは不正なる性交は甚だ危險なものであると云ふことを說いて、生徒をして近付かざるやうに恐れしめると云ふことゝ、それから酒類の濫用の弊を說いて居りますが、其の講義を印刷にして頒布することもあります、それから師範學校でも只今申したやうな性慾教

育の講義を學校卒業の際に卒業生に持たせてやると云ふ所もあります、其他隨時行はれて居るものとして、學校以外で行はれて居るのは獨逸の花柳病豫防協會の支部等で地方の父兄或は職工等のために施して居る例があります、それから丁抹或は諸威等に於ても一般的に學校で行はれて居ると云ふことにはなつて居らぬ、又强制的にも行つて居らぬのでありまして、一部特種の所で往々行はれて居ると云ふやうな程度であります、また瑞典にしても小學校で之れをやつて居る所はない、中學の最上級の生徒……普魯西のやうに中學の最上級の生徒、殊に女生徒に對して隨意課目として之れを課して居るくらゐであります、殊に之れを隨意課目としても課する課さぬは校長の任意として居つて、別に文部省が嚴重に督勵もせぬやうなことになつて居ります。

全体何う云ふことを性慾教育で教へて居るものであるかと云ふに、是れも種々其の方法があり、又其の方法が餘程六つかしくありまするし、總ての此の生活狀態の異る各國の間に於て、或一定の方法が必ずしも他の國に其儘適合すると云ふ譯には參らぬ次第であつて、夫等の點は餘程考慮を要しますが、一ッ最も普通に行はれて居るものゝ筋書を一寸御紹介しまするとゝ、芬蘭のヘルシングフオルスの教授マックス、オカー、ブロム博士の著作で極めて小さな册子であつて有名な短篇物であります、其の標題は『醫師なる叔父が自分に如何にして性慾のことを教へしか』と云ふやうなこと

であつて、自分の叔父さんは醫者であつたが、其人は自分に性慾のことを何う云ふ風に敎へて吳れたかと云ふ、子供の記錄のやうにして極く簡單にしてあります、是れが二十餘國の言葉に譯されてありますが、一例として其の筋書を云ひまするこ、其の子供は小さい時分に父親に別れて母親の許で育つて居る、それが都會に住んで居るのですが、夏期の土用休暇中に動植物の標本を採取して來るやうにと云ふことが宿題として課せられました、之れに就ては丁度自分の叔父さんが近所の田舍に獨身で下宿住居をして居りますから、叔父さんの所へ行つて土用休暇を過すことゝなりました、そこで每日其の附近の村落や野原や山に出て動植物の採取をして居りました、叔父が時々外へも連れて行つて吳れる、種々動植物の說明をして吳れる、花には雄雌の別がある、雄蘂、雌蘂と云ふものがある、さうして實を結ぶ、或は山を歩いて居ると栗鼠が出て來る、或は下宿屋の犬が子を產んだと云ふやうなことで、種々每日目擊する所のものに就て生殖の關係、それから子供を生產すると云ふことの問題が日々起るので、其の叔父さんが自分の甥に種々學問的の說明を與へて居るのであります、さうして結局土用休暇を終へて都に歸つて來るときに叔父さんは『人間も亦動植物の如くにして生れるものであるが、それに就ては一言云ふて置かなければならぬ事がある、お前さんは腹の前に小便の出るものを持つて居るだらう、それはお前さんに取つて非常に大事である、大事なものであるから濫にそれに手を觸れちや可かぬ、お前の友

達がそれを弄ぶと云ふやうな事を敎へても決して其の言葉を用ゐては可かぬ、それから寢所の中に入つたら手を必ず外に出して寢よ、朝眼が覺めたら直ぐ起るやうにせよ、決して其所を弄ぶものでないぞ、此事はお前のお父さんがお前に充分話すことであつて、お父さんの命としてお前は守らねばならぬが、不幸にしてお前はお父さんに早く別れて居るから私が話す、吳れ〴〵も忘なよ』と云ふやうなことで論じて居りますが、それに依つても諸君がお分りになる通りに、我々日本人などに取つては何う云ふものでありませうか、知らないものに敎へると云ふことは最も大事なことで、根本的に了解して危險に觸れざると云ふことが大事なことでありますが、西洋人は日常の生活なり、親が子供に向つて物を敎へるに就ても、其の敎へ方が日本人と西洋人との間には區別があります、喜怒哀樂の表情に就ても彼我異にして居ります、倫理の敎へ方、宗敎上の敎へ方も違つて居ると云ふやうな所では、たゞ物理的に、化學的にさう云ふことを注入して、其の了解に依つて性慾を抑制することが果して出來るか何うか、是れは餘程考へ物と思ひます、併ながら現に米國等に於ては種々な花柳病豫防協會其他種々社會的の婦人會の仕事として花柳病豫防のことに就て努めて居るのもあります、又は公娼に對する私娼の撲滅と云ふことを目的にして居る種々の團体等があつて、種々實驗もある、また米國の兒童裁判所の婦人判事が調べた例がありますが、一夜の中に九時から翌日の三時までの間に、紐育で百五十名の若い娘が淫賣の

嫌疑で捕まつたのを段々調べると其中には是等の性行……淫賣と云ふことが何う云ふものであるかと云ふことを嘗て何人からも聞いたことがない、若しもさう云ふことを母親からでも聽かされて居つたら、決して斯んなことをするのでなかつたと告白するものが多い、卽ち是等貧民の子女の淫賣に陷るものは母親の許にあつてさう云ふ話を聽く機會がない、母親が又之れに對して適當な敎育を施すことが出來ぬ母親夫れ自身がさう云ふ智識を持たぬと云ふことのために淫賣に陷り、さうして終生回復の出來ぬやうな花柳病に陷ることがあるのであります、活動寫眞に行つて、僅に五錢拾錢の金を以て不良少年に陷れられたと云ふ例が是等の調の中に澤山ありますが、夫等の如きは全く何も知らなかつたので不良子女に陷つたのである、若しもそれが危險、それが惡い事と知つたら之れを制することが出來るだらうと思ひますから、是等から云つても性慾敎育は必要なりと思ふ、卽ち必要と云ふことはさう云ふ點から論じて居るのであります。

五

性慾敎育の各國に於ける例は概略右に申した通りでありますが、其他種々極端な例としては裸体倶樂部と云ふやうなものも獨逸邊りにあります、ホーレルと云ふ人のやつて居る裸体倶樂部ですが、是れは警察と協議してやつて居る、どれほどまでの協議か詳細分りませぬが、詰り裸体を見馴れると云ふことが必要と云ふのでありま

す、さうすれば性慾を刺戟することが少なくなるから、子供のときから裸体を見馴れる、裸体に馴れると云ふことが必要と云ふことを唱へて居ります、それでホーレルと云ふ人は裸体倶樂部を設けて裸体で舞踏會を催して居る、男女入亂れて而も妙齡のものが舞踏をやつて居るのですから、初は何れも羞恥心と妙な感情を起して居りましたけれども、馴れるに從つて何等の感じがなくなると、マア斯う云つて居りますが併し夫れまでのことにしなければ馴らされぬものか、又果して裸体倶樂部を設けてそれが總ての所に應用されて、それで果して良い結果の實を結ぶか、是れも冒險の試と思ひます、尤も裸体を見馴れしむると云ふことは幾らか眞理はありませう、支那の學生が日本に來ると不品行に陷り易い、と云ふのは東京にも澤山の支那留學生が來て居りますが、支那人は御承知の如く婦人は一家の中に於ても奥まつた室に閉ぢ籠つて居る、人に會はない、のみならず戸外に出るときも土耳其婦人ほど顔を隱さぬが人に面を見せぬ、ところが日本に來て電車に乘ると乘つて居る人の腕が見ゆて居る腋の下を見せて居る、殊に東京のやうな風の强い所では紅い下着が見ゆるので意外に强き刺戟を與へることもあるそうであります、併し日本人のやうに米搗きの裸体を見馴れたものは餘り人の裸体を見ても感じがありませぬから、是れも一部の眞理はありませうが、强ひて裸体に馴れしむると云ふことは何うでありませうか、是れも餘程考へ物であらうと思ふのであります、で學校に於て敎へるよりも寧ろ安全なの

は父兄をして家庭で教へしむるにある、此點は各國共意見、異議のない所であつて、例へば獨逸や或は瑞典の當局者の如きもさう云ふ意見を發表して居るので、今日の所ではまだ性慾教育なるものは學校の問題でない、家庭の問題であると云ふやうなことも申して居るのであります、それで家庭の問題にするに就ては花柳病豫防協會の如きに於て父兄を集めて、さうして父兄に花柳病に關する智識を與へる、花柳病の恐るべきものであると云ふことの智識を與へる、卽ち如何にして子供に性慾教育を施せば最も危害が少ないだらうか、是れは子供の素質にも依ることであります、日夕左右に居る所の親が子供の性情に對して日々總ての事に注意を拂つて居つて、さうして其間に適當な方法で適當な機會に注意を與へる、例へば最も缺ぐべからざる事は女子に對しては月經なるものゝあつた其時に於て、婦人の心得を嚴重に話すと云ふやうなことが、最も適當なことであると云ふやうな點は略歐米に於ても議論のない所であるやうです、で一言に性慾教育と云つても歐米に於て是れが總体盛に行はれて居ると云ふのではありませぬ、先年東京に於て或私立の中學に於て性慾教育を施す必要あると云ふ議論から、醫師を聘して生徒に話をしたことがありますが、併ながら其の結果は宜くなかつたと云ふことになつて居ります、多くの人を集めて其所で性慾教育を與へると云ふことは、各家庭を異にするに從つて生徒の日々の生活狀態が違つて居るし、何等の智識を有せぬものと、又年齢に不相應の智識を有して居る

ものであるから、何所を標準にして是等の教育を一般の人に同時に教へて宜いか困難であるために多くは失敗するものであります、偶々良いことがあつても、寧ろ失敗に於ける弊害の方が却つて多くないかと思はれるのであります、それで性慾教育を施すに就ては兎に角目的が第一である、マルクスと云ふ人が申して居りますが『性慾に關して獨り智的教育のみで沮止し得べきものと思ふのは誤解である、性慾教育を施したとさへしたら間違ひないと云ふのは誤解である、自然的衝動は智識的に依つて左右せらるべき譯でない、精神の修養こそ性慾教育の基礎たるべきであつて、殊に其の智識を有して居るものにあつては智識以上に必要を認める、卽ち誤つたる性慾教育を施すと云ふと、其者の自然の衝動を抑制すると云ふことは、全く智識のないものを抑制するよりも餘程困難である、一層大なる精神修養、意思の鞏固と云ふことを要するのである』と斯う申して居ります、是れは私は全く其通りであらうと考へるのであります、性慾に關する教育に依つて却つて妄想を描かしめたり、或は好奇心を誘發せしむることが往々あるのであります、而も自然的の衝動を抑制することは疑ひもなく可能的である、出來ることである、而して今日に於ては性慾の抑制なるものが醫學上から論じても、決して人体に害を與へるものではない、此事は今日醫學者に於ても意見の一致して居る所であります、さうなると必ずしも性慾の何者なるかを知らしむると云ふことを前提とするの必要はなく、たゞ無意的であると或は故意的で

あるこを問はず、精神を鞏固にして、或は一面道德上の倫理觀念こ云ふこと、性慾を抑制するこ云ふここが基礎こなるものであらうこ思ふのであります、それで私は特に此の性慾教育なるものを標題こは致しましたけれども、此の性慾教育なるものは今日歐米に於ても充分定まつた教育こして御紹介するここは出來ませぬ、歐米に於ても研究中であります、況んや歐米こ生活を異にする我國に於ては尙更性慾教育を施すに就ては餘程講究の餘地があるこ云ふここを寧ろ申上げたいのであります、こころで夫れに就ては往々世間には只今申したやうに種々な事情があるに拘はらず、性慾教育こ反對の教育を兒童に對して與へて居るやうな場合が非常に多いのであります、それで青年以下幼年者の性慾を挑發せしむべき社會的事實の二三を擧げて論じて見たいこ思ふのでありますが、是等のここを研究して參りまするこ、自から如何なる點を注意すべきであるかこ云ふここも畧了解が出來るこ思ふのであります。

六

御承知の如く我國に於ける兒童の發育も歐米こ左までの大差はなく、兒童こして は十二三歳こ云ふ時であつて、男子は十四から十五歳、女子は十二、十三歳の頃から發育の最も盛なこきであります、其の時分が身体の變るこきになつて居ります、日本の小學校に於ける兒童の發育を見てもさう云ふここになつて居る、其頃が丁度春機發動期に相當して參るのでありますが、尤も是れも兒童の境遇に依つて非常に違ふも

のである、例へば女學校に於て女子の所謂成熟の時期こ云ふものが家庭から通學するものこ、寄宿舍のものこは大いに異つて居るこ云ふここを聞いて居ります、殊に寄宿舍に於ても年長者こ同居する部分の生徒が割合早期に成熟するこ云ふここも幾多の寄宿舍に於ける實驗でありまして、毎日の生活狀態こ云ふここが餘程此の身体上にも影響して來る如く思はれるのであります、世間には青年以下のものに取つて性慾を挑發せしむべき事實の一こして、中流以下の家庭に於て雜魚寢こ云ふここがありますが、是れは大きく申すこ中々大問題であつて、歐米に於ても社會問題こしての最も重大問題の一ッこせられ、家庭の改善こ云ふここが大なる問題こなつて居つて夫等のここから田園都市の計畫も起つて參り、各自盛に是等の計畫を盡し、殊に勞働者の家屋の改善こ云ふここは社會政策の一の重大事項こして、各國共研究が行はれて居るのであります、中流以下殊に貧民勞働者になるこ、狹き一室の中に父母兄弟其他種々のもの、性を異にし、年齡を異にするものが一箇所に雜居して起居を同じくし寢食を同じくして居りますが、其の日常の生活の間に性慾を挑發するやうな機會が頻々こして起るやうな譯なのであります、殊に是れは單に貧民者、勞働者の陋屋だけに限らない、夫れ以上の家庭に於ても日本の昔からの慣習で能く此の同衾こ云ふここが同性者の間に於ても大分行はれて居ります、殊に寒國地方に於ては然りである御互ひに懷爐でも抱くやうな積りで、蒲團の經濟を圖るこ云ふやうな生活上の已む

を得ざる場合もありますが、さう云ふことが甚だ多い、是れは殊に年少者に取つては年長者と衾を同じうすることは、種々其間に性慾に關する不良なる智識を與へらるゝことが多い、同性既に然りでありますから、況んや異性の間に於ては往々にして意外の弊害を來すこともあるのでありますそれで同性間或は異性間に於ても殊に幼者に對して衾を同じうする……同衾と云ふことは性慾に關係しては甚だ宜しからざる習慣と思ふのでありますが、殊に此の勞働者社會に對しては單に花柳病或は風俗上の問題のみならず、傳染病防止の上から云つても、亦國民の改善から云つても、家屋の改善が最も必要なことで、既に歐米の各大都市に於ては十九世紀の末葉から今日にかけて畧其の目的を達して居ります、從來大都會の貧民窟は傳染病の巣窟、風俗廢頽の巣窟となつて居りましたが、之れを都市で以て貧民窟の家屋を買收して其所へ公費で理想的の貧民長屋を建てゝ、之れを勞働者に貸すやうなことにしてからは市區改正に依つて其の土地の價格は高くなり、さうして其所に住む勞働者は綺麗な家に住んだと云ふことのみに依つて生活が變り、樂みを家庭に求むると云ふことになる、其の結果自から風儀が改まり、或は賭博、酒色に耽ることも少なくなり、犯罪も少なくなり、傳染病も少なくなると云ふ成績を擧げて居ります。

第二には此年長者の不心得と云ふことですが、是れも大いに等閑に附すべからざるものであらうと思ひます、何所の家へ行つて見てもありまして、殊に田舍に多いや

うに思ひますが、老人或は親類の中には必ず一人くらゐ『面白い小父さん』と云ふのがあります、是れが來ると其家は非常に賑やかで面白い、毎度面白い話をすると云つて是れが非常に野卑な話を露骨にします、さうして人を笑はせると云ふ老人がありますす、昔の自分の若い時の道樂話をする、是れが入つて來ると實に面白いと云ふことが澤山ありますが、是れが何も知らない清淨無垢の子女に非常なる惡しき性慾教育を施す機關となつて居るのですから、是等のことは大いに注意して貰はねばならぬ、殊に是等のことは酒を飲む人、或は飲んだ場合に於て非常に能くあることであつて、隨分立派な人、聖人の如き人でも、或は學者でもさう云ふ事の話は一向構はずして、子供の前で話をする人がありますが、私は是れは大いに注意すべきことで性慾教育の必要を認める世の中には是等のことは第一に改めて行かなければならぬことゝ思ひます、斯う云ふことは西洋と日本とは日々の生活が違ひますから、一層注意しなければならぬ、西洋人は例へば晩餐のときでも子供は直ぐ食堂から寢床に入る、食堂のストーブで話をして居るときにはもう子供は居らぬ、一家に於ても子供の出る幕と、出ぬ幕とハッキリ區劃がありますが、日本では襖一重で隣の部屋の話も聞ゐるから尙更夫等のことは注意しなければならぬと思ひます、それから第三には讀物でありますす、此の讀物は最も大事なものであつて、私は今日我國に致しても新聞雜誌の如きものが、もう少しく其の筆を改めて呉れたら、我國の國民の教育と云ふことなり、また道

德と云ふことも大いに面目を一新する所があるだらうと考へるのであります、今日識者は我國民の道德が如何なる狀態にあるかと云ふことに就て憂慮して止まぬのでありますが、其の一の原因は確に新聞雜誌が分擔しなければならぬ責任を持つて居るものと思ふのであります、昨年十一月東京に於て時局講演會なるものがあつたのであります、御大典の際京都に於て道德大會の第一回を開き、其の第二回として時局講演會を開きましたが、其際に一の問題として揭げられたのは、新聞雜誌及び小說其他讀物の改良と云ふことでありました、其の問題は私が提出したので其の說明の衝に當つて決議をして貰つたことでありましたが、私は今日の世の中に於て我國の新聞雜誌等の書きッ振りが大いに我國の國民風俗、殊に道德に影響して居る所があるだらうと思ふのであります、此頃は讀物も非常に多くなつて、先年ブラッセルに世界博覽會があつたときに、其の世界博覽會の中で殊に獨逸等は獨立館を建てゝ非常に張込んで博覽會に種々なものを出しましたが、其時子供の讀物に就ては大いに世間の注目を惹きました、各國共子供の讀物は非常に多數あつて、是れが改善に就ては大いに意を用ゐたのでありますが、其の當時我國に於ては子供の讀む物は殆んぞない、淺草の中見世邊りには貳參錢で活版の不明瞭なお伽話のやうなものはありますが、實に讀むに堪へざるもの、見るに忍びざるやうなものを賣つて居るだけで、少しも兒童のためになるやうなものはなかつた、歐米なぞでは各種のものが整つてあつて

デパートメントストーアへ行つて見ると、子供の讀物で一の部屋が塞がつて居るくらいである、尤も我國でも近頃は子供の讀物も多くなつた、此點は最も賀すべきであつて、豆本等も流行して來ました、小學校の生徒等でも袂の中に之れを入れて居りますが、併ながら此の豆本なるものが內容は頗る如何はしいものが中々多くなつて來たのであります、此の讀書の與へる感化と云ふものは非常に重大なものであつて、內務省に於ても此頃は餘り大仰に官報に載せて居りませぬが、風俗壞亂に關する雜誌印刷物の發賣禁止を命ずることが實に頻繁であつて、每日々々當局者を煩はして居るのであります、中には却つて風俗壞亂で以て發賣禁止になると、其の發賣禁止になつたと云ふことが其の雜誌なり、本なりの廣告をして居る場合があります、或は甚だしいものになると、內務省に納める納本には、當局者の注意に依り、又は自ら注意して○○○と云ふやうなので出して置いて、實際賣るときは、此所が何頁の○○○に當ると云ふ風に、其物だけ別に刷つて置いて之れを附けて賣つて居ります、さう云ふ惡辣な遣り方までもやつて居る、成程內務省に來たときは○○○であるから……例へば昔の近松のものゝやうな種々元祿時代には卑猥なことを露骨に書いてありますが內務省に來るものには其の露骨な所を取つて○○○としてあるから、當局者は安心して居りますが、實際賣つて居るときには之れを別に刷つて附けて賣るから、之れを貼つて讀むとハッキリ分る、實に此の取締は困難であつて、每日警保局の當局者も之

れには頭腦を惱まして居ります、或は又中には發賣禁止になりさうな怪しいものは最初に先づ本屋にやつて終つて置いて、さうして納本を少し遲らす、さう云ふものは本屋でも高く賣る、拾錢の物を貳拾錢、參拾錢と高くして、それを轉々して居ることもありますが、世間のものはさう云ふものを又好んで讀むので、惡いものほど普及するのであります、それで此の俗惡文學の取締と云ふことは各國共最も苦心して居る所であつて、千九百十年巴里で以て是れがために萬國會議まで開いたのでありますが歐羅巴になると、殊に其國の取締だけでは足りぬのであります、獨逸で賣出したいものは佛蘭西で發行して、それから獨逸へ持つて來ますから、國際間に聯絡を取つて相互に敏活なる報告をしてお互ひに取締ることが必要であります、之が爲めに國際會議を開き其決議に基いて各國首府に中央事務所を拵へてお互ひに氣脈を通じてやつて居りますが、一寸獨逸に於ける例を云ひますること、獨逸では是等俗惡文學の跋扈の甚だしい時代があつて、三文小說『ヒンテルトレツペンローマン』又『ニックカルテル』と云ふ所謂ジゴマ式の讀物が隨分澤山ある、是等は紙も惡く、內容も惡い物を出して世の中の好奇心に訴へて營利を圖つて居るものが多いのである、千九百七年から八年までの一年間に此の種類の賣上は五千萬馬克、二千五百萬圓の賣上をして居ります、其後は取締が嚴重になつて千九百十一年には二千馬克乃至三千馬克に下りましたが、それでも尙ほ夫れだけの本が出て居ります、それで種々な少年の犯罪者が頻發

するので、其の原因を見ると、さう云ふ俗惡文學から智識を得て種々の不良行爲、或犯罪までを行ふことが多くなつたのであります。

七

之に對し獨逸に於ては何う云ふ取締をやつたかと云ひまするに、第一には法律上の取締で、刑法上で以て猥褻なる文章、圖書等を販賣陳列したるものは体刑又は一千馬克以下の罰金に處すると云ふことにして取締り尙ほ營業條例中に於て是等のものを購入、或は行商販賣を禁ぜられたものを營業するときは營業を停止することにして取締つて居りますが、我國でも是等のことは充分取締をして居ります。

第二に行政上の取締としては、各聯邦の文部內務の兩省で俗惡なる……俗惡文學と稱する程度に就ては前申した法律上の取締で以て充分ですが、俗惡まで至らぬ、たゞ低級趣味の不良なる書物もありますので、是等は專ら行政手段で行ふと云ふことの方針を取つて居りまして、書店、製本屋、文房具店で兒童の德性を害する誘發的、挑發的の印刷物、繪はがきを陳列することを禁止し、若し命を守らなかつたなれば、兒童をして學用品を其店から求めしめないやうにすると云ふ行政上の手段を取りましたが、殊に當局の大臣は教育者に對して訓令を發して是等の世間に行はれて居る所の書册其他の印刷物が如何なる狀態のもので、如何なる內容のものが出て居るかを教育家に充分知らしむる、また師範學校三年生以上に對しても、現存して居る俗惡文學

を指摘して其の性質其の害の及ぶ所の點を了解せしむる手段を執り、それに就ては校長自身其の衝に當るやうに訓令して居るのであります、我邦に於ける教育家も如何なる不良の書册が行はれて居るかを知らず、又唯地方の青年會が夜學會を催すだけを聞いて居り、或は種々本を讀んで居るだけを聞いて、マア遊んで居るより宜い、此頃は讀書熱が盛になつたと考へて居ると、爲んぞ知らん、其爲めに世間の風紀が廢頽することになつて居るのであります、それを知らずに濟むことがあるから、よほど注意しなくてはならぬ、獨逸ではさう云ふ點にまでも着目して、何う云ふ害があるか、或はあつたかと云ふ實例を教育家に知らしむることになりました、伯林に近いシャロッテンベルヒでは兒童に有害な繪はがき其他の物品を販賣せざることの條件を以て露店認可を與へることになつて居る、是れは政府若くは市町村當局のやつて居ることですが、第三にはそれ〳〵民間で地方の委員會を設けて、市の吏員或は參事會員教育家、其他名譽職の階級から委員を出して、時々會合を致して働くと云ふのもありまして、夫れ〳〵俗惡文學や不良書物の撲滅策を圖つて居る所もあります。

次には父兄に對する注意、俗惡文學に對する警告書を學校から兒童に渡して、それを父兄に送達せしむる、又は先刻云ひましたやうに地方の各種の委員會で人目に觸れ易い場所に斯う云ふ不良なものがあると云ふことを掲示して警告致すこともして居りますが、不良なるものを讀ませぬと同時に、それに代るべきものを紹介する意

味から、通俗圖書館、兒童圖書館の設立をも大いに奬勵して居るのであります、それから夫れと矢張り同じ意味ですが、良書の普及を圖る、最も安く利益になる本を出版して、さうして之れを青年兒童に廉價に讀ませると云ふことを圖つて居るのですが、此種の物に就ては又澤山出版されて居つて、著名なものが隨分あります、我國でも御承知の通り文部省に於ては先年來通俗教育に重きを置きまして、斯う云ふ出版物に對しては文部省に審査會を設けて置いて、普通青年の讀物として適當なものと云ふ審査の決定を與へて居るのでありますが、又各種の團体に於ても、例へば私等も關係して居る青年團本部……又は報德會各地方の青年團の修身機關ですが、是等に於て青年の讀物を集めて置いて、さうして地方からの依頼に應じて、斯う云ふことの參考書の讀物がないかとの問合せがあれば、是れが宜いからと云ふ、適當なものを選んで殊に出版元と特約して其の青年會に供給することをして居ります、是等も必要な事と考へます、伯林なぞでも職工組合で巨額の資金を置いて、伯林市内到る所の職工組合に貸出場を置いて巡回圖書館をやつて居ります、我國でも府縣郡に於て之れを設けて一の函に適當な良書のみを入れて地方に廻すと云ふことをやつて居ります、近頃は此の良書と云つても論語や大學のみの鹿爪らしいものでは青年は讀みませぬから、青年の嗜好に投ずる工夫をして其の方の研究をして居りますが、如何にせば青年は喜んで讀むかと、讀んで利益になるものを苦心して居ります、それから殊に

私は獨逸の中にて痛快に感ずるのは、俗惡文學に對して出版業者が大いに活動した例があります、是れは我國の當業者にも奬勵したいと考へて居る、一般の出版業者の品位にも關係する問題になつて來たから、卑猥な文學の出版者を彼等共同の敵と目して、獨逸の書籍業者、取引所、協會と云ふやうな會の如きは、全く是等の卑猥なる文學を出版する當業者とは一切の取引をしないと、斯う云ふ盟約を結んで、詰り俗惡文學に對するボイコットをやりましたが、流石に獨逸のことですから是れが司法上の問題ともならぬのみならず、一般の學者並に高等行政裁判所の判決でも共に是等のボイコットは不法行爲でないと云ふ判決を幸に與へて呉れたのである、で不良の俗惡文學の本を賣らない店だけの一の店名簿を作る、白色の名簿を作つて他のものとは取引をせぬと云ふことが出版業者の間に訂結されたのであります、それから尙ほ俗惡文學の展覽會をも開きました、是れも如何なるものが出版されて居るか參考になる、但し是れは兒童青年の見ることを許さぬ、大人卽ち父兄のみをして縱覽せしむる大体斯う云ふ風にして俗惡文學に對する取締を勵行しましたが中々此の取締を嚴重にすると、又化面を被つて尙ほ跋扈跳梁を逞しうする例があります、例へば此の性慾に關係するもの、種々な學術上の名目を藉つて、男女の生殖に關する科學的の研究とか何とか云つて惡しき教育を施す、人の好奇心を唆ると云ふやうな俗惡なものを出すものもあるから、中々容易なことではない、學問上から論ずると、如何にも取締が

出來ぬと云ふやうな程度にして、間髪を容れぬと云ふ風に書いて居るのもあります固より是等は其の書いた趣意から見ても學術に忠なるものでないことは明かである、是れは出版業者及び筆を執る人の猛省を請はなければならぬ、是等は何うしても當業者の反省を求むるのが必要ですが、また讀者の側でも大いに注意しなければならぬことであらうと思ひます、固より是等のものは營利を目的とするのですから、讀者で之れを受付けなかつたら、決して利に敏き當業者はさう云ふものを出さなくなる、新聞の如きにしても或有名な新聞ですが、其所の社長は自分の所で出す新聞は自分の家庭に入れぬと、事實は知りませぬがさう云ふことを云つて居るものもあります、自分が出して居る新聞だが、それを自分の家庭に入れぬ、子供に質問されたら困るやうな新聞を出して居るものが世間に實際あります、全く營利本位で事業を經營して居るからさうなるのですが、併し新聞なり、或はさう云ふ當業者の陳述を聞くと、世間の大勢に反して自分等は書かぬと云ふてゐる……例へば三面記事の書き方一つで以て發賣數に影響するから、好ましくないが、自分等の營業を計る上から世間向きのことを書くのである、卽ち世間が歡迎しなかつたら書かぬと云つて居るから、卽ち世間の嗜好が昂まつて來ると云ふことも大事ではなからうか、一面に於ては行政上の取締も必要ですが、世間の人が受付けない、彼の新聞は下等だ、家庭で讀めぬ、子供に質問されて答辯の出來ぬものは入れぬとなつたら、當業者も反省すると思ひます、是

等のことも大いに風俗の改善上注意しなければならぬことゝ思ひます、それから次に讀書と同等の關係があるのは野卑なる藝術である、小說、演劇、活動寫眞……活動寫眞は藝術と云はれぬが、近頃は藝術らしくなつて居りまして、是等も俗惡文學と同樣の取締を要する。

八

殊に活動寫眞の取締の如きは最も必要であつて、活動寫眞ほど近世に於て世界を風靡したものはないと云つても宜いと思ふのであります、活動寫眞は今を去る僅に二十年前の明治二十九年、卽ち千八百九十六年佛蘭西の里昂の人デユメーと云ふ人の發明したもので、僅か二十年の間に發展したものである、統計は少し古いのですが大正三年の春に於ける世界の主なる國の活動寫眞の趨勢を見ると、常設館の數が獨逸に於ては約三千、英吉利は六千、米國は一萬二千、露西亞は千二百、墺太利は四百五十と云ふ活動寫眞の常設館があると云ふことであつて、之れを一週間にどれだけの人が觀るかと云ふに、是れも概數ですが、獨逸に於ては一週間に一千萬人、英吉利に於ては八百萬人、米國に於ては七百萬人の人が之れを觀る、それから一年間の入場料は獨逸は一億五千萬馬克、米國は四億圓と云ふことであつて、總ての興行物に於て是れほど成功して居るものはないのであるから、夫れだけ又活動寫眞の與へて居る影響なるものが大なるものである、今此のフイルムの內容に就て申して見ると、米國に於て

調べたのを見るに二百九十のフイルムの中で窃盜に關するものが一三・四%、殺人に關するものが一・三一%、醉狂に關するものが一三・一%、猥褻暗示に關するものが八・二%、家屋打破に關するものが七・二%、猥褻思想に基く結婚に關するものが六・五%、家庭の不行績に關するものが六・八%、有害なる惡人に關するものが五・八%と云ふ風に、有害と認むるものが殆んど半數以上を占めて居るのであります、それから又もう一ッ參考までに獨逸のマクデブルヒで二百五十のフイルムに就て調べた例がありますが、それを見ても姦通が五十一、自殺が四十五、殺人が九十七、誘拐が二十二、誘惑が十九と云ふやうな恐るべき分類を示して居るのでありますが、斯う云ふフイルムであるから其の感化なるものが各種の方面に於て實現して參るので、不良少年の增加の如きものは活動寫眞が大いに與つて力ありと云はれて居る、それで此の取締を如何にすべきか、如何にして居るかと云ひまするとと、第一には消極的の取締としては法律上の取締であつて、是れは他の文學などゝ同じく猥褻に亘るものは公法で禁じて居ります、それから第二にはフイルムの檢閲をやつて居る、內務省或は警視廳で警察令を出して、さうして檢閲を行つて居りますが、之れに就ては獨逸等では裁判も起りましたが判決は何れも檢閲を相當と認めて居ります、それから第三には活動寫眞觀覽に對する制限として種々の例がありますが、一は十四歲又は十六歲未滿の者は父兄の同伴なくては觀覽せしめぬと云ふ制度を取つて居るものもある、或は兒童には適當

なフイルムに限りて觀覽せしむる、或は兒童の觀覽時間を制限して居るフイルムの制限と時間の制限を行つて居る所もありますが、是等は東京に於ても或は大阪に於ても警察署に於てフイルムの取締と云ふことは餘程苦心して行つて居るのであつて、東京に於ては初は各署に委してありましたが、統一せぬために……或區で禁ぜられたものが他の區で行はれると云ふ所から、今日では警視廳に於て統一して、殊に此事に重きを置いて部長が親しく檢閲を行つて居ります、それから又各國では不良なるフイルムを廢して善良なるフイルムを供給すると云ふことを努めて居つて、我文部省に於ても殊に戰爭に關するもの、其他種々有益なるものゝフイルムを集めて參考に供して居りますが、是れはまだ充分に行渡つて居りませぬ、それで種々各國の實例もありますが、要するに私は最も是等興行物、殊に活動寫眞に就ては我國に於ては行ひ難いことではありませうが、之れを觀る兒童の年齢を制限することは最も大事なことではないかと思ひます、幸に歐米諸國に於ては夜間は之れを觀せぬと云ふ、夜間兒童の劇場或は活動寫眞等に入場することは禁じて居る、芝居には決して夜間子供は入れぬものとなつて居る、或は亞米利加に於ては先年カーフエーと云ふ一種の制度が出來て午後八時後になると子供は一切外へ出してはならぬと云ふことを勵行したことがあります、夜の八時が來ると寺院は鐘を鳴し、工場は汽笛を鳴して市民に警告して其以後は子供を外に出さぬことに致しました、如此夜分は一切子供を外

に出さぬことにするか、左なくとも少とも夜分活動寫眞其他の觀劇、寄席等に年少者を出さぬことにするのが一番宜いことではありますまいか、猥褻……極端なる俗惡なものはないにしても子供として觀て惡いものが澤山あります、複雜なもの或は甚だしく人情の極端に亘るもの、大人が觀ては最も文學上の趣味のあるものでも、子供に取つては害惡があるものがあります、幼少なる者の神經を甚しく刺戟するものもありますから、之れを大人と小兒とを一緒にするは間違つて居る、それに就ては時間を制限する、殊に未熟なる少年が夜間晩くまで神經を使ふ活動寫眞或は芝居を觀ることは頭腦の發育にも非常に惡影響を及ぼします、數時間活動寫眞の前で淫猥な、或は殺伐なことを見て、さうして寢床に入ると、必ず恐ろしい惡夢に襲はれ或は妄想を逞しうする、不安なる睡眠をする、夫等の結果性慾にも種々關係することがありますから、兎に角性慾のみならず道德上から云つても夜間の興行物を兒童に觀覽を許すと云ふことは甚はだ好ましくない、是れは舊來の慣習を打破することであつて困難であらうと考へますが、先づ順序としては日曜日或は土曜日に兒童だけの觀るものを先づ與へる、歐羅巴でもやつて居るやうに、學校から入場券をやつて、殊に土曜日、日曜日だけ子供に見せるものをやる、さうすると其の週間には觀たことになるから、他にやらぬでも宜いやうになる、斯くして子供を段々夜間外へ出さぬやうにして、漸次惡慣習を打破することにしなければならぬと思ひます、是等のことも大いに注意を

要するこゝを考へます。

九

それから此の性慾を挑發すべき事實としては種々な事柄がありますが、花柳界と云ふものが是れも兒童の性慾を刺戟する重大なるものである、或町に花柳界と云ふ一の部落があるとすると、其の附近に居る兒童と、それと遠かつて居る所の兒童とは日常の見聞が違つて來る、藝妓町の傍の湯屋で以て子供が泣くか、不行績をすると、母親は何と云ひます『お前泣いたら大きくなつて藝妓になれぬぞ』と云つたら直ぐに泣きやむ、日常見聞する所、綺麗な衣服を着て朝から風呂屋に行くと云ふことを女としては理想的に考へ、其所に標準を置きますから日常の見聞に依つて其者の性行に非常の影響を與へて居るのであります、他の兒童が全く耳にせざることを花柳界に接近して居る所の子供は耳にして居るから、大人が聞いて驚くべきことを彼等は憚からず口外することもあるのであります、又花柳界から一層進んだ遊廓でも、例へば或一ッの場所を限定して、遠方にある、日常の用を足すに其前を通らぬ所なれば兎に角ですが、東京でも新宿、品川と云ふ所は表通に遊廓があるのであります、殊に新宿の如きは其前を電車が通る、子供が學校に通ふにも其前を通る、娼妓病院も其通りにある檢査日には娼妓が其前を往來して居ることがある、毎日已むを得ず目擊して居りますが、子供が是れは何だらうと質問しても答辯に窮する、さう云ふ事が矢張り子供の

頭腦には非常に影響を與へるものであるから、斯う云ふ花柳界の誘惑なるものは餘程恐るべきものであつて、其爲めに兒童が此の花柳界に足を入れると云ふやうなことも存外早いものであります、不良少年で遊廓に通つたもの、例へば感化院等に行つて調べて見ますると、感化院に收容されて居るものは多くは既にさう云ふ巷に足を踏込んで居るものが多い、不良少年は性慾が非常に……奇体に發達して居りまして或人の調べた例がありますから參考に供しますが、三百餘名の不良少年に就て調べたのに、年齢別にして見ますると

十三歳	三人	十四歳	八	十五歳	一七	十六歳	一〇	十七歳	二七人
十八歳	一九	十九歳	二二	十歳	三				

と云ふことになつて居る、之れを百分比例に致すと十六歳が二十七人と云ふことになつて居りまして、十六歳が一番多いですが、併ながら算へ年の十三歳と云ふものでは既に遊廓に足を踏入れて居るやうな例があります、それからもう一ッ異性との關係是れは遊廓でないが、小田原の幼年囚に就ての調に依つて見ますると、年齢十五歳が、

十五歳	十六歳	十七歳	十八歳	十九歳	計
					三三

らのものになりますが

藝妓	一	一	一	三
娼妓	三	七	一四	四三
酌婦、白首	五	二	一四	三九
工女	三	一	一六	三
下婢、其他	一	一	二	一二

卽ち娼妓が一番多い、四十三人、私娼に關係したものが三十九人、工女三人、藝妓が三人下婢其他が十二人、斯う云ふ風な統計になつて居りますが、是れが大正三年から四年に亘る新入者三百二十三人に就ての研究であります、尙ほ大正五年卽ち昨年の一月から同五月二十日までの統計に依ると、幼年囚として入つた六十三名の中で、二十三名が既に此の方面に關係して居つて、三割三分が既に此の惡所に足を入れて居ると斯う云ふ風な比例になつて居りますが、中には却つて娼妓若くは私娼の誘惑に依るものも多いのであります、惡辣な者になると、或少年が地方から少し金を持つて來てそれか宿屋に泊つて居ると、金を持つて居ることが分つたら、其所の女將が宿屋の女中に化け込んで二三日世話して居る間に、うまく關係を附けて其の金を捲上けて終つたと云ふ惡辣なものもあります、或は淺草の千束町を歩いて居る間に呼掛けられて、それ以來惡所通ひをするやうになつたと云ふものも其中に多いのであります、是れは不良少年、殊に監獄の世話になるやうな類のものでありますけれども、而も此の

以上に單に良家の子弟なるがために、若くは年齢が幼いからと云ふために警察だけで免除になるもの、說諭で歸るものが非常に此の以外に多い、所謂不良少年として新聞に顏を出すものが、單に是等の私娼其他に關係するのみならず、或は進んで良家の子女を侵すものもあります、是等の害は非常に驚くべきものがありまして、意外に幼年者が惡所通ひをする例があるのであります、是等も大いに注意を要するものと思ふのである、現に東京に於ては私娼撲滅と云ふことに全力を盡して居ります、其上に吉原等に於ても學生の遊興者は嚴重に調査して學校に通知をすると云ふことになつて居る、地方に於ても市長等が此事に從事して、或は敎育會の手で以て學生の遊興を摘發すると云ふ方針を以て防いで居りますが、學生中で既に花柳病に冒される例は御承知の如く我國でも徵兵檢査の成績に依れば、二十五或は二十七％と云ふ結果を示して居るのであります、殊に子弟に對する花柳病の豫防は近年非常に注意して居るに拘はらず、著しく減退を見ぬのであります、のみならず十年前と比べて增して居りますから、是等のことは大いに注意をしなければならぬ、或縣の如きは自轉車の流行に依つて、非常に其の地方の人が活躍して來たと思つて喜んで居る間に、夜になると自轉車で友人を誘ふて、今まで滅多に行かなかつた都會の遊廓を進擊すると云ふこともある、それがために此の地方に花柳病が蔓延したと云ふ例もあります、それから我國には所謂地方に種々の舊慣、所謂陋習があつて、其中にも最も忌むべき習慣

の行はれて居る所があります、殊に風俗に關する惡習慣のある所がある、或は『こまりや』と稱して青年處女が其所で夜間夜明しをする、其所には青年が自由に出入する、或は盆踊りに會して、其日は地方の青年に取つて解放されたと云ふやうな惡習慣の所もあります、又年中行事に於て非常に是等の性慾に關する自由なる惡風俗の行はれて居る所もある、或地方に於ては蠶の祭をすると云ふことで、蠶を載せる俵を御宮に納める其のお祭の夜に、其所の桑畑には幾組も〳〵俵の上に蠶の組合ひが出來る、種々さう云ふ例を集めて見たら、お話の出來ぬやうな實例が澤山ありますから、是等のことも大いに改めて行かなければならぬ、又場所に依つては地理的關係からして非常に此の兒童の性慾に影響を與へる所があります、例へば船着場の如きですが、昔から船着場とか、宿場とか云ふ所は最も地方の習慣としては改良を要する、殊に青年のためには改良を要するのであります、又土木工事、鐵道の敷設とか其他隧道の開鑿、河川の改修等で勞働者の集る場合には、其際に其の地方の風俗が忽ちにして一變して結局道路が開通し、隧道が出來た頃には花柳病患者が其所に續發すると云ふ結果を來すことがあります、或は溫泉場、避暑地、種馬所のある所は是れも昔から種馬を作るときには、一向地方では取締をしませぬが、其地方には必ず風俗が惡くなることがある、それから又不健全なる工場に於ける青年男女の口にして居る歌、是等も性慾を刺戟することは甚だ大なるものがあります、埼玉縣の如きは先年大水害の後で專ら經費

を輕減するために、地方の部落より其の土地の老若男女を其の工事に從事せしめましたが、其時に、御承知の如く彼所は水害には苦き經驗を嘗めて居つて、每度其後には風俗上に惡慣習を殘して居りますから、此度は縣に於て彼等の口にする歌を改良させて、改良歌を唄はせたら大いに良き成績を擧げたと云ふ例もあります、文部省に於ても地方の子守歌、地方の俗謠等の改善に就ては大いに注意して居りますが、是等も等閑に出來ぬものであります。

＋

其他青年團体の如き、今日は內務、文部兩大臣の訓令に依つて青年團の意義を明かにして、青年團は將來の國民、將來の自治國民を造る所の主要團体として、身体の鍛練のみならず、專ら精神の訓練に重きを置いてやつて居りますが、昔の若衆組と云ふものは非常に此の風俗の破壞者になつて居つたのである、是等のことも今日は大いに此の矯正をやつて居りますが、總て只今申したやうな事柄なり、事情なりと云ふものは何れも惡しき性慾教育を施して居る道具になつて居るから、是等のものを改善して性慾の刺戟を少なくする、殊に春機發動期に接して居るもの、或は其の時期の青年に向つては彼等の自然的の衝動を抑制する刺戟する總ての原因の排除に努めると云ふこと、それが最も必要であります、さうして夫れには彼等の精神を其の方に向けて居る時間を、他の方に向けしむると云ふことが最も容易な途であります、感化院に於て

も不良少年を感化するに就ては是れが最も有効であります、讀書や說論は左まで彼等の耳に入らぬ、馬の耳に念佛となり勝ちであるから、彼等を化して行くには彼等の身体をして休む間なくさせる、所謂『小人閑居して不善を爲す』から、他の空想を遏しうする時間をなくする、一日の中の大部分は職を與へて身体を動かす、汗を流させて日中は困憊し切るほど働かす、自分の力のなくなるほど疲れさす、さうして食事をさして夜に入れば直ぐ眠らす、さうすると熟眠をする、熟眠した朝に限つて眼覺めも宜しいから、其時には直ちに床から飛上らす、號令で飛起きさして直ぐ新鮮の空氣に當つて深呼吸をさし、掃除をさします、出來得るだけ身体を活動さす、さうして惡い事を考へる餘裕を與へない、身体にも餘裕を持たさず、ドシ〳〵働かさして物質的に疲れさし、物質的に身体を改善しますること、自から不良なる習性が改まつて精神的の感化も受けます、是れが感化院に於ける秘術でありますが、最も不良なる兒童すら斯の如き方法で行けるのですから、況んや夫等のことに就ては何も知らぬ無垢なる青年に對して只今申すやうな風に之れに体育を奬勵する、さうして身体を疲れさす、或は冒險的なことを行はせる、或は武術の練習をさす、或は宗教に熱心さす、若くは精神的教育を受けさすと云ふやうな導き方をしたら、好んで危險なる性慾教育を施さぬでも、或はヨリ以上の効果を擧げ得ることではないかと思ひます、相當の年齢になつて來れば自から此の性慾教育は自然了解して來るものであります、其の時分に不自然なる

性慾の逐行は非常に身体を害すること、或は花柳病なるものは如何に恐るべきものであるか、肉体的に又精神的に自分一個のみならず、一家の家庭に於ける不幸、子孫に及ぼす惡影響、是等のことを說き聽かせまして、其の危害に出來るだけ接せぬやう、總ての誘惑に打勝つだけの決心を持つやうにと云ふことが最も大事であらうと思ひます、如か致しますれば一般の場合に於て花柳病に罹る虞はなくなります、併し又大体から觀て、若い者が性慾を遂ぐると云ふことに就ては或は已むを得ず此の公娼の制度を設け、又事實私娼の存在を認めなければならぬやうになつて居りますが、是等のことも種々の手段を盡して、一面に於ては娼妓の健康診斷を充分にする、或は私娼の撲滅を圖る、私娼をして善良なる民に化せしむることに力を施したら、花柳病の豫防撲滅も前途に望を抱き得ることになると思ひます。

まだ種々申したい事もありますけれども、初日ではありますし、兎に角私は此の花柳病の豫防撲滅と云ふことに就て、技術以外に社會的一般の注意と云ふことを申述べるに止まります、而して是等のことは大体から云ひますること、近頃各地方に於て衛生展覽會を設けられますが、衛生展覽會に於ても此の花柳病に關するものは餘程地方の人に恐を與へて居るやうで、恐るべきことを餘程吹込んで居るやうに思ひますから、說明宜しきを得ば尙ほ一層の効果があるだらうと思ふのであります、決して花柳病の豫防に努めると云ふことがあつても、花柳病患者が少なくなつて、其爲めに

諸君の御醫業に不繁昌を來すと云ふ虞は萬々ないことゝ考へます、花柳病の恐るべきを說明するに及んで益々皆さんのお世話になるものが多くなると思ひます、賣藥や其他で苦痛を忍んで居るものが少なくなる、皆さんに賴らなければならぬものと思ふやうになつて來ますから、諸君が起つて花柳病の豫防を唱道せらるゝことは諸君の御醫業をして益々繁昌を來さしめらるゝことになると思ひます、一言此事を申上げて置きます。

花柳病豫防に關する制度

法學士　山田準次郎

花柳病は廣く傳播せる疾患にして、結核及酒精中毒と共に三大庶民病と稱せられ現在並に將來の國民を毒するの甚だしき、或は之を往時のペストに比し(Alfred Fournie re: Im Verein mit der Alkoholvergiftung und der Tuberklose kann man die Syphilis als die Pest der Gegenwart ansehen.)佛國人は又花柳病及之と密接の關係ある賣淫を稱して、une plaie sociali(社會の腫物)と云へり、之が豫防及撲滅の方法を講ずるは刻下の急務たり、然るに正確なる學問的研究に基く花柳病豫防方法の講ぜらるゝに至りたるは、歐洲に於ても極めて近時のことに屬し、花柳病及賣淫に對する戰鬪は猶初期に屬するを免れず、近來に至り漸く醫學、社會學、教育學、倫理學は相提携して所謂plaie sociale(社會の腫物)の病根を衝かんとするの方針に進めり、固と plaie sociale の治癒は單に外部に表はれたる患部の治療のみを以てしては到底其根治を期し難く、內部に存する病根を除去することゝ最も必要なり、此の點より見れば倫理、教育、社會學的方面の活動は却て醫學衛生的方面よりも一層必要なりと云はざるべからず、以下花柳病豫防に關し概說する所あらんとす。

花柳病は其多數は賣淫に依り傳染するものなるが故に、患者が之を祕密に付する

こゝを努むるのみならず法制の上に於ても他の疾病と其取扱を異にすることある
を見る、例へば獨逸疾病保險法は其改正以前に於ては放縱なる性交の結果として、罹
病せる者に對しては疾病金の全部若は一部を交附せざることを決議するの權を市
町村に與へ、又獨逸海員法は千九百二年の改正迄は花柳病に對しては、海員の疾病の
看護及治療に要する費用を船主に於て負擔すべき規定を適用せざりしが如し、或は
更に進んで花柳病は之が撲滅を謀るべきものにあらず、何んとなれば花柳病は不行
跡に對する相當の神罰なるが故なりとさへ考ふるものあり。

花柳病を以て不行跡に對する神罰なりと爲すの觀念は、以前歐洲に廣く行はれたりしが現時
に在りては此の思想は大に衰へたりと雖も、猶未だ全く其跡を絶つに至らず、例へばアレキサ
ンダー、ワイルは『戀愛の法則と神秘』(Gesetze und Mysterien der Liebe)と云へる著書の内に『花柳病豫
防の爲め如何なれば斯くまでに頭腦を惱すや、凡そ害毒を除かんとするには先づ其原因を究
めて之を除かざるべからず、原因にして除かれなば害惡は自ら消滅せん、蛇にして殺されんか
其毒は最早や何等の害をも爲さぬものなり、現今の如く賣淫公認せらるゝ有樣にして、梅毒の
原因は如何でか之を除去することを得ん、其原因は天則の違反に在るを知らざるべからず、假
に今日凡ての梅毒を治療し得たりとするも天則に反すること止まざる間は明日更に新なる
形を以て同樣の疾病發生すべし、ヨード又は水銀を以て治療に從事することは寸効なきこと
なり、何んとなれば新なる天則の違反は更に新なる疾病を引き起すものなればなり、世人が皆

堅固なる意志を以て天則を遵守するに至りて始めて之を除去することを得べし』と云へり
然れども此の議論の誤れるは繋說を要せず、花柳病は主として不行跡に依り傳播
するものなれども其他責任なき原因に依り傳染するもの亦稀ならざるは醫學の證
明する所なる上に、花柳病に罹ると否と其輕重の程度とは必ずしも不行跡に比例す
るものに非ず、不幸なるものは僅か二三回の不行跡にて花柳病……しかも重症なる
……に侵さるゝものもあれば、又數百回に上ぼる不行跡を敢てして、しかも該病を免
るゝものもなきにあらず、故に花柳病は之を不行跡に對する刑罰としては公平なる
ものにあらず、且つ花柳病は社會に及ぼす害毒容易ならざるものあるが故に、論者の
如く冷眼を以て觀過すること能はざるものとす、例ば伊太利、デンマークの如き花柳
病は無料にて治療するの規定を爲すのあり。

花柳病傳播の狀況に付ては正確なる統計を缺くと雖も、之を壯丁檢査の結果に徵
すれば左表の如くにして、明治三十七年に於て壯丁千に付き一二・二二なりしもの時
に例外なきにあらざれども、逐年急速の增加をなすの傾向あるは憂ふべき傾向なり
と云はざるべからず

年次	壯丁千に對する花柳病患者數
三十七年	一二、二二
三十八年	一五、五八
三十九年	一六、八三
四十年	二一、七四

四十一年	二二、六九	四十五、大正元年	二五、三二
四十二年	二四、三五	大正二年	二七、〇九
四十三年	二六、五〇	大正三年	二五、九二
四十四年	二五、一八	大正四年	二四、九八

然れども花柳病中梅毒のみに付て見れば、三十二年の壯丁千に付五・四六より三十九年の四・四九に減少したるを見るは稍喜ぶべき現象なり、猶壯丁檢査の際に於ける梅毒と他の花柳病卽ち痳病及軟性下疳との割合は左表の如くにして、梅毒は花柳病總數の約五分の一に相當し、最も多きは痳病なりとす。

	明治四十二年	同 四十三年		明治四十二年	同 四十三年
梅毒	二四、四二%	一八、一三%	軟性下疳	一八、九六%	一九、七六%
痳病	五六、六二%	六二、一一%			

Rapmundに依れば花柳病は大都市、港、兵營所在地、大學所在地等に多く農村には概して僅少なり、社會的階級に依りて區別すれば教育ある社會に多く伯林に於ける1895の統計に依れば20-25才の兵卒が4%職人が9%商人が16%士官及學生が25%なりき。

花柳病傳染の巢窟は賣淫なり、故に先づ賣淫制度を論じ、次ぎに其他の花柳病豫防方法に付き序述すべし。

花柳病傳染の最も主要なる原因は、婚姻外の性交殊に賣淫なりブラシユコーが賣淫は花柳病傳染の交叉點なり(Knotenpunkt der venerischen Durchseuchung)と云ひジヨリーが花

柳病傳染の叢淵(Der Hauptherd der Ansteckungen)は賣淫なりと云へるは誠に理由ありと云ふべきなり、ブラシユコー氏の研究の結果に依れば、四百八十七名の梅毒患者中にて三百九十五名卽ち八一・一%は賣淫婦より傳染し、猶二十三名卽ち四・七%は賣淫婦に近き酌婦より傳染せるものなることを發見せり、ドクトルブロフオ氏が賣淫なければ花柳病なしと云ひ(Keine Prostitution, keine Geschlechtskrankheiten mehr.)ドクトルワイル氏が『花柳病に罹れる賣淫婦に對する戰爭が卽ち花柳病傳播防止の爲めにする戰爭なり』(Denn der Kampf gegen die geschlechtskranke Prostitution ist im wesentlichen zugleich der Kampf gegen die Verbreitung der Geschlechtskrankheiten.)と云へるは、强ち誇大の言と云ふべからず。

Rapmundに依れば性交外より來る花柳病は10%を越ゆること稀なり、只僅少なる國民露西亞小亞細亞の該地方に於ては extragenitale Übertragung が梅毒傳染の普通の經路を爲し此等の地方に於ては梅毒は Familienkrankheit の性質を供へ之が侵襲を受けざるもの殆んど稀なりと言ふ。

賣淫とは女子が不特定の人に對して營利の目的を以て性交を許すことを云ふ、營利の目的に出づること、不特定の人に對すること及女子なることを其特徴とす、外國語にて賣淫をプロスチツーチオン(Prostitution)と云ふ此の語を最も廣く解するものは營利の目的を以てすると否とを問はず、凡て婚姻外の性交を總稱して用ゆれども一般の用例に反するものなり、此の用例はクリスト教義に基くものにして、凡て婚姻外

の性交を罪惡なりと爲すの觀念に出づ、然れども如斯『不正の性交』と云ふ意味にプロスチツーチオンと云ふ語を用ゆるならば、不正の性交は必ずしも單に婚姻外の性交のみに限らるゝものに在らず、婚姻上の性交にても子孫の繁殖を目的とせず單に性慾を滿足することを目的とするもの……例へば姙娠中の性交の如き……は嚴格の意味に於ける正當の性交なりと稱することを能はず、故に單に婚姻外の性交のみをプロスチツーチオンと稱するは正確に非ず、通常外國語にてもプロスチツーチオンと稱するは斯く廣き意味には用ゐられずして、我國の所謂賣淫にして營利を目的とする者のみに用ゐられ、營利を目的とせざる婚姻外の性交は姦通又は私通にして賣淫にあらず。

次ぎに賣淫は不特定の人に對するものなることを要す、妾の如きも營利を目的とする性交なるが故に、賣淫と稱する文字を廣く解すれば賣淫たるに相違なけれども之れ亦普通の觀念に反するものなり、賣淫は不特定の人に對し營利の目的を以て性交を許すもののみを指稱するものなり。

最後に賣淫は女子なることを要す、外國の書物等にも稀には Die männlich Prostitution(男子の賣淫)なる語あれども、賣淫は女子なるを其觀念とし男子の行ふ場合を想像せざるを普通とす、特別に männlich(男子)と云ふ形容詞を付したる場合は格別、然らずして單に賣淫と云ふときは女子のみを云ふものと解するを常識に合するものと云ふべき

なり、獨逸の刑法第三百六十一條第二項には密賣淫を爲したる女子と明に規定し居れども、我警察犯處罰令第一條第一項第二號は此の點を明言せざれども同樣に解すべきこと勿論なるべし。

賣淫は風俗上、術生上又個人の經濟上少からざる害毒を流すものなれども、全然之を禁止撲滅することは能はざるは歷史の證する所にして、敎會の父と稱せられたるアウグスチヌスは『賣淫を壓抑せんか淫風は全社會を瀰漫すべし』(Unterdrücke die Prostitution, und die Sinnenlust wird die ganze Gesellschaft überschwemmen)と云ひ、又聖トーマスは『賣淫は宮殿の便所なり』(Die Prostitution ist wie die Kloake eines Palastes.)と云へり、便所は單に長屋に必要なるのみならず宮殿と雖も之を缺くこと能はず、若し之を缺かんか室內庭園何れの場所か不潔物を以て穢さるゝことを免るゝ能はず(Verstopft sich diese, so wird das Hause stinkend und unrein.)賣淫も亦此の如し、如何に社會が進步するも賣淫なかるべからざるは、猶宮殿と雖も便所を缺く能はざるが如し、若し之を缺かんか却て社會の善良の風俗を害するものなりと云ふの意なり、賣淫を稱して必要的害惡(Die Prostituution ist ein notwendiges Übel)なりと云ふも亦此の意に外ならず、古來賣淫の絕滅を謀りたるは其例に乏しからずユダヤ人は娼妓を追放しバルバロツサは之をサラシモノと爲したる上笞刑に處し又マリヤ、テレシアは之を殺戮し若は國外に追放したれども、其結果は常に良好ならずして公娼を壓抑すれば從つて秘密のものとなり、却つて危險の程度を加へた

り、千七百年普國が貸座席規則(Das Bordellreglement)を制定するや既に此の關係を觀破し幾分賣淫を許容(dulden)するは已むを得ざる所なりとし說明して曰く『伯林に於ける賣淫を全滅せんとするの計畫は屢々繰返されたる所なれども過去幾世紀の經驗は歷々として其常に失敗に終りたることを示す、賣淫を禁止すれば從つて密賣淫(Winkelhurerei)を增加し、風俗、安寧及衞生上に及ぼす害毒の一層甚だしきを加ふるの狀況なり、而して如何なる刑罰又は懲戒を以てするも密賣淫は之を絕滅することを能はず、何んとなれば彼等は最も周密なる警察の目をも巧に逃るゝの途を知ればなり、玆に於て二個の害毒の內に就て其最少なるものを選擇する爲めに賣淫を或る程度まで許容し之を警察の監督の下に置くは賣淫を無理に抑壓せんとして失敗するより遙に優れり』と蓋し賣淫には重大なる弊害を伴ふものなれども、其存在するには將に存在すべき理由ありて存在するものなるが故に、其本を除かずして末を去らんとするが如きは到底不可能のことたるを免れざるなり、其存在すべき理由とは賣淫に對する需要あることと及之れに對する供給あることこれなり。

トルストイ、ベエルンソン等は健康に障害を及ぼすことなくして性慾を制することを得る人士の少からざることを論據として、道德の力を以て賣淫を絕滅し得べきものなりと爲せども、之れ普通人(Durchschnittmenschen)を知らざるものにして、賣淫に對する此の需要と供給とを社會より除去するに在らざれば賣淫は到底之を撲滅するこ

と能はざるべし。

賣淫に對する需要の重なる原因は人類に於ける性慾の發動の時機と婚期と一致せざることなり、殊に社會の進步に伴ひ一般の生活向上し生存競爭は激烈となり一家の生計を支持することと困難に趣くべきが故に、婚期は益々遲るゝの傾向あり、故に道德心の養成益々發達するに非ざれば、賣淫に對する需要は漸時增加すべし、要するに賣淫に對する第一の需要者は未婚の男子なり。

未婚の男子が賣淫の主要なる需要者たるは其根源を又現今の社會に於ける道德的觀念に有するものなり、假令未婚の男子と雖も婚姻外に於て女子に接するは不道德として排斥せらるゝには相違なけれども、之を未婚の女子が男子に接するに比すれば同日の論にあらず、若し未婚の女子に斯くの如きことあらんか、少くとも相當地位ある社會に於ては其制裁の强烈なる殆んど之を社會より葬り去るに在らざれば已まざるべし、然るに男子に對しては之を責むることと此の如く甚だしからず、此の不權衡の結果は性慾の滿足を求むる男子の需要と之に應ずる女子の供給との間に一致を缺き、玆に賣淫存在の素地を生ずるなり、若し社會の道德的觀念が男子を責むることと女子の如く甚だしからば、蓋し賣淫は存在せざるべく、或は又女子を責むることと男子の如く寬ならば、私通の惡風甚だしく悲しむべき社會狀態を出現すべしと雖も賣淫は其存在の要なかるべし。

賣淫に對する主要なる需要者は未婚の男子なることと前述の如しと雖も、既婚の男

子にも亦全く其の需要なきに非ず、卽ち妻の疾病、妻ゝの不和、子女多きに過ぐるこゝ……我國に於ては未だ幸に其例を聞かざれゞも外國にては子女の養育困難なるが故に、子女多きに過ぐる者は妻も同意して夫をして賣淫に依り性慾を滿足せしむるものさへありゝ書物に見ゆ……之等は皆其需要の原因ゝなるものなり。又或は疾病の遺傳を惧れ子孫を望まず、若しくは身體虛弱にして長生の見込なく、一家を爲すも徒に寡婦孤兒をして悲慘の運命に陷らしむるこゝを虞るゝ雖も、絕對に制慾するこゝ能はざるものにして、賣淫に依り僅かに其情を慰せんゝするが如き、其情に於て誠に憐むべき者もなきに非ず。

次ぎに賣淫に對する供給の重なる原因は經濟上の理由なりロンブロゾー、タルノウスキー等は此の點に反對し『處女をして凡ての忠告及理性に反して不潔なる生活に沈めしむるものは、彼等が道德宗敎の原則を知らざるが爲めに非ず、職業を得さるが爲めに非ず、家なきが爲めに非ず、又貧窮の餘にも非ず、卽ち社會的事情に基くものに非ずして、其內部精神の組織が如斯に出來居るが故なり』ゝ賣淫者の內には身體上智性上及道德上其發達完全ならずして、殆ゞ病的狀態に在る者鮮からずゝ雖も、其經濟上及其他の社會的事情にして惡しからざりしならば、賣淫者ゝならざりし者も亦多數なるは事實なるが故に一概にタルノウスキー派の議論は採用し難きものなりゝす、經濟上の原因は種々なる形ゝなりて表はれ生活の困難なるこゝ、美服を纏ひ度

きこゝ、兩親が金錢調達の方法に窮したるこゝ、賣淫の媒介に依り利益を得んゝする者があらゆる手段を弄して誘惑するこゝ等、其重なるものなりゝす。

賣淫は是等の需要供給の關係に基きて存在するものなるが、是等の關係は多衆の集合より成り道德上及經濟上の點に付き弱者鮮からざる現今の社會に於ては、全然之れを除去するこゝ困難なるべきが故に、徒に理想に走る能はざる實際の方策ゝしては或る程度まで之を認許し、之れより生ずる害毒を可及的鮮からしむるの策を講ずるの外なきものゝす、只一言注意し置き度きは、余が賣淫は社會より全然除去するこゝは不能なるものなりゝ云ふこゝは、賣淫は惡しきこゝに非ずゝ云ふ意味には非ざるこゝなりゝす、賣淫は惡しきこゝにして苟も士君子の口にするだも耻づべきこゝなるは勿論の事なれゞも、社會の凡ての人に士君子たるこゝを望む能はざるは社會の實況なるが故に、客觀的に觀察して賣淫は之を絕滅するこゝ能はずゝ云ふまでの事なり、盜賊は之れを絕滅するこゝ能はずゝ云ふこゝが、盜賊を爲すも差支なしゝ云ふ意味ならざるゝ同樣なり。

賣淫の社會より除去し難きこゝ前述の如く而して其風俗上、衞生上又經濟上社會に害毒を流すこゝ鮮からざるは、何人も異論なき所なるが故に、之れが害毒の除去方法に關しては、從來學者實際家の研究を忘らざる所なり。千八百三十六年の出版に係るパラン、デュシャール(Parent-Duchalt)の不朽の大著パリーに於ける賣淫(Die Prostitution in

Paris)は賣淫に對する學問的研究の嚆矢にして、其研究の精細周到なる現今猶斯界獨歩の好著として推さるゝ所なるが、彼は其著書の最後に於て述べて曰く『賣淫は恐らく之を剿絶すること能はざるべし(Es wird sich Vielleicht nie ausrotten lassen)然れども剿絶し能はざるが故に之を放任すべしとは云ふべからず、其範圍及之れより生ずる危害を少からしむるに餘力を剩すべきに非ず、其關係は恰も教育家、立法者及醫師が罪惡、犯罪人又は疾病に對するに等しきものなり、教育家は罪惡を防止せんとし、立法者は犯罪を豫防せんとし、醫師は疾病を治癒せんとす、彼等とは雖も其目的とする所に完全に到達せんことは到底不可能なるを知らざるに非ず、しかも猶敢て熱心に之に從事する所以のものは、幾分にても之を輕減することを得ば、弱き人類に對しては大なる効績を爲したるものなることを確信すればなり云々』と。

賣淫に對する害毒の除去方法として實施せられ若くは提案せらるゝ方策は之を二種に大別することを得、一つは賣淫を道德的社會病理的現象として之れに應ずる方策を講ずるものにして、他は社會衛生的方面(花柳病の豫防)より之れに對する政策を究めんとするもの之なり、而して從來賣淫に對する制度として主張せらるゝものの中、重なるものは左の四なりとす(一)取締主義(Reglementierung)(二)遊廓主義(Kasernierung)(三)社會教育主義(Sozialpädagogik)及放任主義(Abolitionismus)之なり。

一、取締主義　此の主義は賣淫を爲す者を登錄し其登錄を受けたるものに對して

は衛生及風俗上の監督を爲すものにして初めてパリーに行はれ現今歐洲諸國多數の採用する所なり、一例として左に獨逸の現行制度を略說すべし。

獨逸刑法第三百六十一條第六項は規定して曰く『賣淫を業とするが故に警察の監督の下に在る女子にして、衛生及公共の秩序風俗の保持の爲めに發布せられたる警察規則に違反したる者、又は警察の監督の下に在ることなくして賣淫を業としたる女子は拘留に處す』と此の規定あるが故に、登錄を受け衛生上及風俗上の點に於ける警察の監督を受くる者は、其警察規則に違反せざる限り賣淫を營むも處罰せらるゝことなし、之を公娼とす、之れに反して登錄を受くることなく警察の監督の下にあらざる者は、賣淫を業とするときは處罰せらるべし、之を密娼とす、公娼に對する衛生上の監督は、定期の檢診及花柳病に罹れる者の强制治療に存す、而して獨逸に於ては妓樓を禁止(刑法第百八十條第一項)し居るが故に、公娼と認むれども全然散娼制度なり取締主義は登錄を受くることなくして賣淫を爲すことを禁止し、賣淫を營む者は凡て登錄を受けしめ、警察の監督の下に在らしむるを理想とすれども、凡ての賣淫者を登錄して餘す所なからしむることの到底不可能なるは、實驗の證する所なれば、登錄せられたる賣淫者の外に多數の密賣淫の竝び存在するは不得止のことに屬す、從つて登錄せられたる者のみに對し衛生上の監督を爲すも、多數に上ほる密娼は之を如何ともすること能はざるが故に、花柳病豫防上此主義のみを以て充分なりと稱する

こと能はず、猶登錄を受けたる公娼に對しても、其檢診及治療の遺漏なきを期するは困難なる事情なきにあらざるが故に、歐米の學者の中には取締主義を採用するが爲めに、花柳病を減少し得べきやに就き疑念を懷くもの少からず、惟ふに此の主義のみにては花柳病豫防上不完全なること勿論なれども、一方策を以て完全に花柳病を豫防せんとするが如きは、實際不可能のことなれば、此の他各種の方策と併せ行ふに於ては幾分の効果あるべきことを信ずるなり。

花柳病豫防及賣淫に關し最近に至り最も細密の立法を爲せるはイタリー及デンマークなり。

伊太利に於ては千九百〇五年六月二十七日の勅令に依り此の點を規定せり、其の大意左の如し。

花柳病は癩病、梅毒及軟性下疳なれども傳染の慣なき病狀に在るものは法の適用を受けず醫師はAmme より傳染せる梅毒を屆出でざるべからず、豫防の爲めに左の施設を爲す。

一、貧困者に對して無料治療及投藥を爲す

二、必要と認むる場所に對し特別のDispensarienを設置す

三、傳染の虞ある病狀に在る花柳病患者に對し入院治療を爲さしむ

人口四萬以上の市街地に於ては特別のヂスペンザリーンを設置せざるべからず、而して其の長となる醫師は花柳病の診察治療に對し特別の經驗ある者ならざるべからず。

ヂスペンザリーンの數は市町村と內務大臣の同意の上にて之を定む若し其協議調はざる所は內務大臣が夫々衞生會議に諮問の上之を決定す。

ヂスペンザリーンの費用に對し內務大臣は市町村の資力と花柳病蔓延の程度を參酌して補助を與ふ(其の他補助の方法に關する規定あり)

人口四萬未滿の市町村と雖も土地の特別の事情又は特別に花柳病の傳播さるゝ如き場合にしてヂスペンザリーンの設立を必要と認むる場合には內務大臣は相當の機關に諮問して其の設立を命ずることを得、此の場合の費用の補助は人口四萬以上の都會と殆んど同樣に爲すことを得。

以上に述べたる以外の市町村に於ても進んでヂスペンザリーンを設置せる場合には補助を受くることを得。

花柳病患者は一般若は公立病院の花柳病科又は花柳病專門病院に入院することを得之に要する費用は國が之を負擔す。

花柳病科の設置に就ては內務大臣は病院と協議するも病院は其の設置の要求あるときは之を拒むことを得ず、但し一定の他の患者の診療を目的として設置せる者及慈善團體にして其の定款又は寄附行爲に依り梅毒の診療を除外する場合に關しては此の限に非ず、醫察醫及開業醫にして、病院に無料收容證を交附するの權能ある者は傳染性花柳病に罹れる貧困者に對し證明書の交附を拒絕することを得ず、市町村長は之を證明せざるべからず。

妓樓の主人は治安警察法及其の他法令に依る義務の外に猶娼妓(其の家に居住すると通勤

するとに拘らず)の花柳病を監視するの義務あり、妓樓の主人は醫師を雇入れて花柳病の監視に任ぜしめ醫師より其の職を引き受けたることと及衛生官權の命ずる施設は嚴格に遵守すべき旨の證書を提出せざるべからず。

縣廳は此の證書を檢査し、醫師の身元を調査し適當と認むるときは之を認容し又必要と認むる條件を追加することを得。

此の醫師が娼妓にして傳染性花柳病に罹れるものを發見したるときは屆出ざるべからず。

妓樓に住居し又は出入する婦人なりと雖も又其の婦人にして花柳病に罹れる疑ひある者と雖も其の意に反して檢診を爲すことを得ず、但し其婦人に對する處置は花柳病患者と同視せらる、妓樓に住居し又は妓樓に出入する婦人にして花柳病に罹り又は花柳病に罹れる者と看做されたる者は妓樓より遠けらる而して其の遠けらるゝに當りては無料治療券を交附せらる。

醫師にして其の治療に對し責任を持つべきことを書面にて宣言するときは警察署の許可を受け妓樓に於て之が治療を爲すことを得。

此の娼妓は花柳病全治するか又は少くとも傳染の慣ある症狀の消失せる後にあらざれば再び稼業に就くことを得ず。

妓樓の主人は故意又は醫師の監視を等閑に附したるが爲めに傳染の慣ある花柳病に罹れる娼妓を雇入又は一時滯在することを許したるときは處罰せらる。

衛生官吏は妓樓を監視し必要あるときは娼妓の檢診を爲すことを得。

縣廳は規則を遵守せざる等一定の場合に於て妓樓の閉鎖を命ずることを得。

之を要するに伊太利に於ては妓樓を認むるも其の他の娼妓に關する取締規定なく衛生官吏が監督するのみ、花柳病豫防の中心な治療機關に置けり。

デンマークにては公娼を廢止し妓樓を禁止せり。

花柳病に罹れる者は其の治療に要する費用を有すると否とに拘らず公費を以て治療を受くるの權利を有すると共に他の醫師の治療を受けつゝあることを證明するにあらざれば其の治療を受くるの義務あり、患者の狀況に依り隔離するにあらざれば其の傳染を防止することを能はずと認むるとき又は患者が傳染豫防の爲め制定せられたる規定を遵守せざるときは治療のため入院せしむることを得。

公費の補助を受くるものにして花柳病に罹れるときは入院せしむ。

疾病の治療に際し又は治療の終れる後に於て傳染豫防上引き續き醫師の監督を受くるの必要を認むるときは醫師は一定の時に再來するか他の醫師の治療を受けつゝあることの證明書を提出すべきことを命ずることを得。

花柳病患者の診察治療に從事せる醫師は傳染の危險あることを知りて性交を爲すときは刑罰を受くべきことを注意すべし又傳染の危險の存在する間は結婚することを見合はすべきことを勸告すべし。

梅毒に罹れる兒童は其の母以外の者より哺乳せしむることを得ず、梅毒に罹れる者は乳母

となることを得ず、賣淫を爲したる者其の他法定の者に對しては警察は本人の同意を得て檢診することを得、之を拒みたるときは本人の同意なく檢診を爲すや否やを裁判所に於て決定す(法制檢診の場合は不已得の場合の外同性の醫師をして檢診せしむ)

警察醫(Der öffentliche oder suchende Arzt)は上述の檢診の外に花柳病患者にして診察を乞ふもの又は治療を指定せられたる者を治療せざるべからず、患者より料金を徵收又は受領することを得ず、公費より此の爲めに存する規定に依り支給せらる。

コツペンハーゲンにては常に充分なる檢診醫存在し、市の各部に於て一定の時間に市の衞生委員會の定むる規定に依りて診察の需に應ずることを要す。

檢診醫が傳染豫防上必要と認むるときは一定時に再來すべきことを命ずることを得。

花柳病治療の爲め入院せる者は醫師の許なくして退院することを得ず。

警察は**ホテル**料理屋に對し賣淫罪に依り處罰せられたる者を使用し又は客の接伴を爲ししむることを得ず。

要するに賣淫者が檢診を受くるは法規に違反せる場合に限られ此場合に於ても本人が檢診に同意せざるときは裁判の判決を受くる必要あり、法は公衆の惡心を惹起するの不行跡を爲したる者に嚴罰を課し、花柳病を傳染せしめたる者に對し刑罰を課するの外其の爲め發生する患者の苦痛及損害に對し補償を命ずるに拘らず其の効果は豫期の如く大ならず、最近**コツペンハーゲン**に開會せられたる花柳病豫防會の席上に於て當局の述ぶる所に依れば賣淫は新規定の施行後却つて猖獗を呈するに至れり。

患者の數は左の如く四年間に五十三・四%を增加せり

一九〇五年	六六六六	六
一九〇六年	七〇六五	五
一九〇七年	八三八三	三
一九〇八年	一一二四九	九

Frische Faelle von venerischer Erkrankung は千二百七十七より二千四百八十四に增加せり、卽ち九十二%の增加を見たる次第なり、右患者の男子が二倍に增加せる間に無料診察時間に診察を求むる者は半減せり罹病せる男子が醫治を受けつゝある間に娼妓は花柳病に罹りしを顧みず不倫の稼業に從事しつゝあるなり。

最も極端なる立法を爲せるは亞米利加なり卽ち一、二の洲(**ミシガン**一八九九年六月十五日**ミネソタ**は一九〇一年四月十一日の法律)に於ては花柳病に罹れる者の結婚を禁止せり。

二、遊廓主義　此の主義は取締主義に更に一歩を進めたるものにして、取締主義を廣義に解すれば其一に屬すべきものなり、此の主義は賣淫は凡て遊廓に於て之を行はしめ、遊廓以外に賣淫なからしめ遊廓に在る者に對しては充分なる衞生上の監督を爲さんとする者なり、妓樓に在る賣淫者に對し充分の監督を爲すに就ても、幾多困難なる事情なきにあらざるのみならず、公娼以外の密賣淫を絕滅することの不可能なるは先きに述べたる如くなるが故に、此の主義のみを以て花柳病豫防上充分なり

こと爲すこと能はざるは取締主義と同樣なり、只此の主義は取締主義に比し公娼を監督するに付ては便宜なりと雖も、賣淫を不得止の社會の現象として認許することを明示するは、單純なる取締主義より更に甚だしく年少者を誘惑するの機會多きは其缺點なりとす、又此の主義に在りては賣淫婦をして、動もすれば人身賣買類似の取扱を受けしむるの虞あれば、注意すること要す。

我國は現に此の制度を採用し居れり、左に主として花柳病豫防の爲めにする規定を說明すべし、明治三十三年十月內務省令第四十四號娼妓取締規則第二條に依り、娼妓名簿に登錄せられたる者に非ざれは娼妓稼業を爲すことを得ず、換言すれば娼妓名簿に登錄せられたる者は賣淫を爲すも處罰せらるゝことなし、所謂公娼と云ふもの之なり、之に反して娼妓名簿に登錄せられざる者が賣淫を爲すときは、密賣淫として警察犯處罰令第一條第一項第二號に依り三十日以下の拘留に處せらるべし、娼妓は廳府縣令を以て指定したる地域外に住居することを得ず、又一定の場合を除くの外遊廓外に出づることを禁ぜられたり、猶其稼業を爲す場所に就ても制限を受け、官廳の許可したる貸座席內に非ざれば之を爲すことを得ず、是等の規定は所謂遊廓主義を規定したるものなり。

疾病に罹り稼業に堪へざる者又は傳染性疾患殊に花柳病に罹れる者は、娼妓たることを得ざらしめ、又假令娼妓と爲りたる後に於ても、疾病に罹り稼業に堪へざる者

又は傳染性疾患ある者と診斷せられたる者は、其間稼業を爲すことを禁ずるは、疾病の傳染殊に花柳病豫防上最も必要なり、之れ娼妓名簿登錄申請者に對し、登錄前廳府縣令の規定に從ひ健康診斷を受くべきことを命じ、又娼妓は廳府縣令の規定に從ひ健康診斷を受くべく、娼妓にして警察官署の指定したる醫師又は病院に於て、疾病に罹り稼業に堪へざる者又は傳染性疾患ある者と診斷せられたるときは治癒の上健康診斷を受くるに非ざれば、稼業に就くことを得ざることに規定せられたる所以なり、此等の規定は必ずしも獨り花柳病のみを目的とするものに非ざるは勿論なれども、其主眼とする所か花柳病に存するは疑なき所なり、娼妓の健康診斷及有毒者の稼業禁止竝に其治療は、娼妓の媒介に依る花柳病豫防の骨子にして、此の規程の施行の狀況如何は花柳病豫防上重大なる關係を有するが故に、なるべく屢々檢診を行ひ且つ其檢診は充分丁重綿密なることを要す、又有毒者に對しては其傳染の危險なきに至るまでは、嚴格に稼業を停止し、全治せざるに稼業に就くことを許すが如きこと萬々なきを期せざるべからず、之れ明治四十三年七月勅令第三百十號風俗上取締を要する稼業を爲す者及行政執行法第三條の患者の治療設備に關する件ありて、地方長官に公費を以て娼妓病院を設立管理し又は特別の施設を爲すべきことを命じ、又明治四十三年五月勅令第二百二十九號廳府縣警察醫及警察醫員に關する件發布せられて主として檢診機關たらしむるが爲めに、道廳府縣に警察醫を、警視廳に警察醫員

を置き、奏任官又は判任官の待遇を與ふる所以なり。

公娼を認むる制度の下に在りては、多數の密賣淫者の併存するは已むを得ざるこゝに屬するは既に述べしが如し、從つて公娼に對し取締を嚴重にするも、密賣淫に對する取締適當を缺くに於ては、花柳病豫防の實を擧ぐること能はざるべし、我國に於て現に密賣淫の花柳病豫防方法として規定せらるゝ所より說明せんに、當該行政廳は(一)密賣淫犯者若は(二)其前科者にして尙密賣淫の常習ある者に對し(一)其健康を診斷し若は(二)指定しある醫師の檢診を受けしめ、傳染性疾患に罹り必要ありと認むるときは(一)病院に入らしめ又は(二)指定しある醫師の治療を受けしめ(三)治療に至るまで指定したる場所に住居せしめ其外出を禁止することを得、而して地方長官は公費を以て健康診斷に必要なる設備及其檢診に依り發見したる患者を收容するに必要なる施設を爲さゞるべからず。

上述の如く密賣淫者にして發見せらるれば、之れに對し花柳病豫防上相當の規定あれども、凡ての密賣淫者を發見せんことは到底望むべからざることに屬し、大多數の密賣淫は是等の規定に依る檢診治療を受けざる者なり、此の點は花柳病豫防上最も困難なる問題にして、廳府縣令に於て特殊の營業者例へば藝妓、酌婦の類に對し或は指定したる醫師の健康診斷書を提出せしめ、或は自衛組合を奬勵して、自ら進んで檢診治療を行はしむるが如き、皆此の缺點を補はんとするものにして、適當に之を實

施するに於ては其效果少からざるべし。

三、社會教育主義　此の主義は人民の教育に依りて賣淫及之より生ずる害毒を除去せんとするものにして、賣淫を減少絕滅するの根本的方法と稱すべきものなり、惡劣なる境遇に成長したる處女を保護し、通俗教育を普及し節酒を奬勵し住宅の改良を爲し感化教育を故善し、勞働嗜好心の向上を努むべきことを唱道す、而して是等の教育は單に女子のみに對して爲さるべきものにあらずして、男子に對しても同樣に行はるべきものなり、何んとなれば賣淫の存在に對する責任は、之れを獨り女子にのみ歸すべきものにあらざればなり。

此の主義は急速に其效果を見ること能はざるは勿論、人民の道德及經濟上の進步と伴ふに非ざれば、充分の效果を奏し難きものなれども、却て穩健確實なるものなりと云ふべし。

社會教育主義は取締主義及遊廓主義と互に相容れざるものにはあらず、取締主義又は遊廓主義を採るも、同時に社會教育主義を採用して其足らざる所を補ふの要あるものなり、只社會教育主義と異るは多少の程度に於て、取締主義又遊廓主義の効果を認むる點にありと云ふべし、純粹社會教育主義及遊廓主義を以て利害相償はざるものとなし、專ら教育主義を以て賣淫に當らんとするものなり。

現今文明國にして國民の衞生思想啓發の爲めに努めざるものなし、殊に花柳病豫

防會等が此の點に活動し講演に、注意書の配布に依りて花柳病の恐るべき結果及び其の豫防の方法を說示するに努む、斯くの如き事は公に設くことは耻づべきことなるが如しと雖も、事柄が重大にして衛生上至大の關係あることなれば致方なし、知識の啓發は相手の性、年齡及知識の程度に應ぜざるべからず、知識啓發は極めて眞面目に之を行ひ特に春氣發動機に在る青年に對して之を爲さゞるべからず、既に小學校の上級に於て此性慾教育を與ふべしと云ふ議論は屢聞く處なるも過ぎたる說と云はざるべからず、之に反して衛生學の授業の一部として補習學校、實業學校、中學校及高等女學校の上級、師範學校等に於て之を敎ゆるは最も適當の事たるを失はざるべし、猶大學、兵營等に於て講演會を催すも有効なるべし、男子の青年は動もすれば適度の性交は健康保持上必要なりと考ふるものあれども其の謬見は是非之を打破するの要あり、各種の運動遊戲等に依り身心を鍛錬し素朴剛健の風を養成するを要す。

次ぎに酒精は淫逸に耽るの階梯となるのみならず花柳病をして傳染し安からしむるものなるが故に禁酒、節酒を勸奬するは花柳病豫防上極めて必要なり Dr. C. Frän kel-Halle の『花柳病豫防に就て』なる講演に曰く(Rapmund S. 488 Anm. 1)

花柳病は交接の前後に於ける洗濯、ルーデサック使用、尿道の消毒等に依りて減せしむることを得べしと雖も其の効果は絕對に非ず、殊に情慾發動の際には理性の聲は默するが普通なるに想例すれば思半に過ぐるものあらん。

四、放任主義　此の主義は總ての取締を全廢して、賣淫は之を社會の裏面に放任し花柳病の豫防は之れに接する男子の自己の責任に歸せしめんとするものなり、此の主義は萬國放任主義(公娼廢止)協會(Internationale abolitionistische Föderation)を組織して其主義の實行に努め、現に英國は此の主義を採用せり。

社會教育主義は他の主義と相容れざるものに非ざれども、廣義の取締主義(遊廓主義を含む)と放任主義とは全然相容れざるものなるが故に、其得失に就ては大に議論せらるゝ所なり、取締には何等の效果なしとし或は取締は效果を有すと主張するものは、共に統計に其根據を求む、而して其統計は大體に於て左の三點に歸著す。

一、取締を受け居る娼妓と然らざる者、卽ち密賣淫と何れが花柳病に罹り居る者多きやを比較すること。

二、男子が花柳病に罹るは、何れより……公娼よりか密娼よりか……傳染せる者なるやの統計。

三、左記の統計を比較すること。

(イ)取締規則の存在する國又は地方と然らざる國又は地方とに於ける花柳病患者の數を比較すること。

(ロ)取締規則を設け又は廢したる場合に、其前後に於ける花柳病患者の數を比較すること。

（八）取締規則改正せられ寛嚴の度を異にする場合に其改正前後に於ける花柳病患者の數を比較するこゝ。

之等の點に關し集められたる數字は鮮なからざれども、多くは正確を期し難きものなる上に、見方の異るに從ひ同一の數字を以て取締主義者は取締の效果あるこゝを證せんとし、又放任主義者は其取締の何等效力を有するものに非らざるこゝを證明せんとす、要するに數字に依りて適確に其何れの主義が正當なるやを證するこゝは、極めて困難なりとす。

英國は千八百八十六年凡ての取締規則を廢止し放任主義を採用せる最初の國なるが、其後同國に於ける花柳病の狀況は別表に示す如くにして、逐年同患者を減少しつゝあり、此の事實は放任主義者が其主義の正確なるこゝを證するの材料として、常に引用する所なりとす。

年次	人口百萬に付花柳病死者	壯丁一萬の中梅毒爲め不合格者
一八八四	五九	六〇一
一八八五	〇九	八九
一八八六	二九	二八
一八八七	五八	一八
一八八八	八七	八七
一八八九	二八	六六
一八九〇	一八	二六
一八九一	〇八	九四
一八九二	九七	六四
一八九三	二八	四九
一八九四	八七	一五
一八九五	〇八	五三
一八九六	〇七	七三
一八九七	二七	五三
一八九八	八六	九三
一八九九	七六	七二
一九〇〇	八六	二二
一九〇一	四六	三二
一九〇二	二六	七二
一九〇三	六六	〇三
一九〇四	五六	五二
一九〇五	四六	三二
一九〇六	一六	七二
一九〇七	八五	八一

然るにデンマークが千九百六年十月取締規則を廢止したる結果は、英國の如くに非ずコツペンハーゲンには十一箇所の病院が花柳病の無料診療に從事し居れるが是等の病院に於て取扱ひたる花柳病患者の數は左の如く增加せり。

一九〇五年	六六六六人	一九〇七年	八三八三人
一九〇六年	七〇六五人	一九〇八年	一〇二四九人

又新なる梅毒は、一九〇五年に一二七七なりしもの、一九〇八年には二四八四に增加したり、斯くの如く梅毒患者の數は殆んど二倍こなりたるに反して『無料相談時間』に出頭したる花柳病に罹れる娼妓の數は千九百六年以前に比して半減したり、フランイブルヒ、イー、ベーが取締規則を全廢したるの結果も、亦丁抹に於けるこ殆んど同樣なりき。

是等の實例に依りて見れば、取締主義及放任主義の優劣は之を絶對に決するこゝ能はずして、其國情如何殊に一般人民の公共心、自治心、衛生思想の發達の程度に依りて之れを決すべきものなり、一般人民の公共心、自治心、衛生思想の大に發達せる國に於ては、取締は害あつて益なきものなれども、之れ等の未だ充分發達せざる國に於ては、或る程度の取締は必要なるものこ云ふべし。

次ぎに賣淫制度以外に於ける花柳病豫防の方法を述べんに、千九百四年五月六日獨逸帝國宰相が各聯邦政府に發したる通牒に於ては、花柳病豫防に關し賣淫制度に

關するものは、外猶大要左の如き方法を講ぜんことを求めたり。

一、醫學生の養成に當り梅毒の診斷を爲すに付き、充分なる知識を與ふることに注意すること。

二、開業醫に對し講習會を開催すること。

三、警察醫の講習會を開催すること。

花柳病を早期に於て適確に診斷し之に對して適當の治療を加ふるを得せしむる爲めには醫師の教育を必要とす、千八百九十九年の第一回花柳病豫防萬國會議に於て左の決議を爲せり。花柳病豫防に就ては醫師の協力に待つべきもの極めて多し醫師は患者を早く發見して適當なる治療を加ふべきのみならず何の疾患が傳染せしものなるやを聞くの機會あり又患者が不注意不謹愼なるに於ては自己及び其の家族社會に對し非常なる危險を及ぼすものなることを能く注意することを得べき位置にあればなり、デンマルク、イタリー及ノルエゲンに於ては法規を以て花柳病患者に花柳病の危險を諭示し又傳染徑路を教ゆべき義務を醫師に負はしめたり。普國も以前は其の規定ありしも新法は之を廢止せしは遺憾なり。

四、講習會の開會、注意書の配布等に依りて、公衆殊に經驗上花柳病に罹ること最も多き種類の人々に對し、豫防上の知識を與ふること。

第二花柳病萬國會議に於て左の決議を爲したり。

五、大學及各種の專門學校に於て各分科の學生をして聽講せしむる爲め、花柳病に

關する無料講演會を開催すること。

六、花柳病患者をして輕便にして迅速に且つ必要あれば無料にて治療を受くることを得せしむること。

Gewährung leicht zugänglicher und womöglich kostenloser ärztlicher Behandlung 此の點に關してはデンマルク及伊太利が模範なる法規を以て此の點を規定せり。

七、住宅制度の改善。

八、公立病院殊に大都市に於ける公立病院に花柳病科を設置すること。

九、花柳病の治療に關し聯邦保險局が活動すること。

十、獨逸花柳病豫防會の支會を各地に設立することを奬勵すること。

以上列擧せる各種の方法は、皆直接間接に花柳病の豫防上效果を有せざるはなしと雖も、國情を異にする我國に在りては、直に之を實行すること困難なりと認めらるゝものも鮮からず、一方に於て治療に當る醫師に對し治療上の技術を養成するに努むると共に他方に於て一般人民に對し花柳病に對する知識を普及せしめ、各人の自衛心を惹起するを以て最も急務とすべし、又賣淫者に對しても自衛的方法を講ぜしむるは是も必要のことに屬す、獨逸にては賣淫者には花柳病傳染の豫防及自體の清潔保持に關し、心得書を印刷して交附すべきことに定めらる、其一例としてカッセルに於ける心得書を示せば左の如し。

一、毎日入浴して常に全身を清潔に保持すること。

二、肌著の清潔に注意すること。

三、同衾後に必ず陰部及其附近卽ち肛門竝に下身及上肢を洗ふこと。

四、陰部は交接毎及毎朝起床の際、微溫湯若くは過マンガン酸カリウム溶液を以て洗濯すること。

五、花柳病患者特に其症狀に於て傳染の惧ある者に對しては同衾を拒絕すること。

六、毎日數回消毒的含嗽水を以て口中を含嗽すること。

我國に於ても賣淫者の自衛方法漸次普及の傾向あるは誠に喜ぶべきことにして益々其發達せんことを希望せざるを得ず。

最後に述ぶべきは獨逸に於ける花柳病豫防の爲め、刑法に適當の條項を追加せんとするの提案之なり、從來獨逸に於ては我國と同樣に、刑法に特別の明文なきが爲めに、故意又は過失に依り他人に花柳病を傳染せしめたる場合に限り、傷害罪として之れを罰し得るに止まれり、而して其證明の困難なる之を實際に適用するは殆んど不可能のことに屬す、獨り千八百十四年のオルデンブルヒの刑法には、此の點に關し明文ありて、花柳病に罹れる者が健康者と同衾せる場合には、其傳染せると否とに拘らず之を處罰すべきことゝせり、獨逸國以外の立法例には、同衾に依り知つて花柳病を傳染せしめたる者を處罰するの規定を設けたるもの少からずデンマルク及シュワ

イツの一二の州等之れなり、獨逸に於ても千九百年此の種規定を設けんとしたりしも議會の否決する所となりたり千九百三年フランクフルト、アム、マインに於ける第一回花柳病豫防會に於てフォンリスト、フォンバール及シュメルダーは此の問題を報告しフォンリストは左の如き條項を刑法に追加せんことを求めたり。

花柳病に罹れることを知りながら同衾を爲し、又は其他の方法に依りて他人に傳染の危險を與へたる者は二年以下の懲役に處し公權を剝奪す。

前項の罪は夫婦の間に在りては告訴を待つて之を論ず。

シュメルダーは此の條項に對し、更に花柳病に罹れる賣淫者を處罰するの條項を附加するの要あるものと主張せり。

之れに對し反對せるはフォンバール、フレンケル、リース、オフペンハイマー等にして、其理由の重なるものは、醫師の秘密の義務の保持を困難ならしむること、及花柳病に罹れることを知り居たることの證明の困難なることの等なりとす、ナイセルは又此の如き條項の存在することだけにても、其行爲の處罰せらるべきものにして不德行爲たることを世間に公示し、世人を教訓するの效果大なるものありと爲せり、要するに本問題は猶研究の餘地あるものと云はざるべからず（完）

皮膚病並花柳病學

醫學博士　櫻根孝之進

壹

私の受持が皮膚病學及び黴毒學と云ふことになつて居りますが、短かい時間内に茲で皮膚病及び黴毒病學の事を長々しく申上げる事は出來ませんし、又私自身にも知らない病氣が澤山あるので有りますから皆さんの前で全部の講義を終ることは迚も時間からいふても許しませんが、併しながら一方には皆さんがこれに就て大抵のことは先づ御承知の筈でありますつまり皆さんの御記憶を再び喚起すといふことに過ぎぬ意味で、私の申すことは極々平易の話で別に變つた事はなく、新しいことは先輩がお話になる樣でありますから略します。

で、花柳病豫防講習會に皮膚病のことが科目に這入つて居りますのは多分此の黴毒の方で、皮膚に現はれる徴候が色々ありますので、それの比較診斷上加へたものと私は考へて居りますので、先づ主に黴毒のことを申上げる積りでありますが、其茲に本日はこの皮膚病を調べまするに就て少し外の專門と變つた言葉が多いのでありますから、極く初歩でありまするけれども順序として少しばかり皮膚病の總論を申

上げたいと思ふのであります、皮膚の組織に就きましてはこゝに大きな組織模型が御座ります(此時博士は卓上に組織模型を指示せり)から申上げることはないのでありますが、此の標本の白い所は表皮層で赤い所が眞皮層であります、而して其下が皮下組織であります、その外に皮膚の表皮と眞皮の境は極く平坦でなくてこの模型の樣に乳頭層があつて凹凸たがひに嵌入して居る、それから皮脂腺、汗腺、毛、なゞの副機關が御座います。

そこで此の皮膚に現はれるところの總ての變化を一般に稱して皮疹、或は發疹といふ風に名づけて居るのであります、その中で便宜上その病氣から直接に起る所の變化を原發性の皮疹、それから其の皮疹から色々變つて參りましたり或は外來の種々の動機によつて變つて來るところのものを續發性の皮疹と斯ういふ風に別けて居る、これは便宜上だけでなしに診斷上この區別の必要があるのであります。

その形を申上げますと第一が斑點或は斑紋……原語で Fleck od macula といふて居るものであります、それから第二は小丘疹或は小結節疹とも申してゐます、卽ち原語で Knötchen od papula といふて居りますが、前方には小蕾疹といふ樣な言葉が使はれて居つたやうに覺にて居ります、これは Papelchen 或は Papula でも宜しう御座います、其次は結節 Tuberculum 或は Knoten 尙大きいのが瘤 Phymata といふやうな言葉も使はれて居つだのであります蕁麻疹 Urtica 水疱、或は大水疱それから膿疱疹と斯ういふ風に大体八

ッに區別されて居るのであります、それで大抵御承知の事でありますが、一寸繰返して置きますと第一の斑點 Macula これはつまり皮膚の限局性の變色で別段に著明な隆起を伴はないのであります、これは色々の事から參りますので第一に充血によつて起るもので此場合には紅斑 Erythema と申します、その中で小さいものが薔薇疹で他の炎症性の病氣の周圍に起る、紅斑を Halo (炎症暈)と申します、斯ういふ充血性のものでありますと硝子で壓へるか又は指で抑へて見ると色が消失する、此の色の消失するとか、せぬとかいふことが一の標準になるのであります、持續性の血管の擴張(毛細管擴張)斯ういふことによつても赤くなつて紅斑 Macula が出來る、その中に後天性で出來るものもあれば又先天性に脈管の擴張卽ち脈管性の母斑といふ樣なものもあります、先天性に一局部だけ全く此の血管の少ないことがある、さうすると貧血性の母斑といふ名前をつけられて居る、斯う云ふ脈管の擴張から來るところのマクーラにも矢張り指又は硝子で壓へると消ゐるのは申すまでもないことであります、其次は組織間の出血 Purpura(紫斑)であります、その中で極く小さいものを出血點(Petechien)線狀に來るものを Vibices (線狀出血)と云ひます、それから大きな出血斑點を Ecchymosen と云ふのであります、その内でも總体に淺い組織の中で出まするとき血液の色が鮮かに見ゐ、深い程色がボンヤリして蒼黑くなるのであります、その色の狀態で凡そ何う云ふ場所に出血したものであるかといふことが分ります、それから又總体に淺い場所

で出來ますと御承知の通り結締織が緻密でありますから割合に小さいのが普通でありまず、深部にある程大きくなる、此の出血斑は指で抑へ或は硝子で壓へて見ても少しも變りがないので分るのであります、それから其次は色素の增殖によつても色が變つて來る、これに先天性のものと後天性のものとがある、先天性のは色素性母斑後天性のは肝斑(Chloasma)で先天性素質があつて後天性に現はれて來るのが夏日斑ソバカス、ホクロでありまず、色素脫失で先天性に出て來るものは例の白皮症、後天性に來るのが白斑と云ふのでありまず、それから異物によつてもMaculaが出來、種々の寄生蟲或は墨、例へば刺靑、それから銀の中毒或は火藥が皮膚に這入り込んで黑くなることもあります。

それから次にPapula小丘疹といふ言葉は凡そ小豆粒大までの實質性の皮膚の高まりと斯ういふ風にマア解釋をして居ります、色々の事からやつて參りまするが、炎症から起るものでありますと無論此の漿液性の滲出物はある筈でありますが、その外主に細胞の固つたもの(細胞浸潤)の爲めに起るものであります、其の細胞が集つて出來ると云ふ中には其の場所は色々でありまして、例へば毛囊性苔癬Lichen pilarisに於ては上皮層の細胞が毛根の所に集つて出來るのであつて、其他の多くは眞皮の結締織の中に於ける細胞浸潤であります、其次の結節は(或は丘疹或は大蕾疹)それはPapelの大きなもので先づ指頭大までのものでありますが、それより一層大きくなりますと

Phymata(病腫)と云ひましたが、今では此の言葉を使はないで腫瘍Tumor od Geschwichstwulいと云ふ言葉を用ゐるやうであります。

第五のものはUrtica(蕁麻疹)これは一つ一つの皮疹の形でありまして、一の病氣としての蕁麻疹の時にはそれが澤山出來るのでありまず、夫の時はウルチカリア(Urticaria)といひ、夫れは漿液性滲出によつて起るものでありまして、つまり此の限局性の皮膚の浮腫でありまず、その中で病氣の度合によりまして扁平なものもありますし、或は多少隆起したものもあるのでありまず、其の所に觸れて見まするに幾分か抗抵を帶びてゐるのでありまず、さうして斯樣な漿液性滲出を起しまするに就ては先づその所の血管の擴張(充血)を起して、そこから漿液の滲出して來るものでありますから充血と浮腫の割合によつて赤いもの或は其所だけ恰度貧血した樣に見ゐるのでありまず、そして此Urticaの特異な所は短かい時間に無くなる、卽ちその病氣が一時性で後にあまり變化を殘さないと云ふことで、卽ち組織を破壞しないのでありまず、これは一般の定義でありますが、中には御承知の通り色素性の蕁麻疹と云ふものがあつて後に色素を殘すものもあります。

次は小水疱疹、これはウルチーカーのやうに、色素を後に殘さない譯に行かない、又組織をも破壞する、これは表皮層と眞皮層の間に滲出を來すものでありまして、其爲め表皮の角質層が持上げられて隆起して麻實大までの隆起を作り、其の內容は初め

は水樣透明でありますが長くなると白血球が混つて濁つて來るものが少なくない其の内で中には血液が混つて少し帶黑赤色を呈する樣になつて來る、さう云ふのは Blutblasen（血疱）と云ふのであります。

其次は大水疱疹、これはつまり小水疱疹の大きなもので隨分大きなものは鷄卵大乃至手掌大になるものもある、これも同じく其の内容が極く純漿液性透明のものでありますが、段々濁つて膿性になるものもある。

それから次は膿疱疹、これはつまり水疱（或は小水疱、或は大水疱）と別に變つたことはありませんが、只其内容が初めから膿汁なのである。

それから續發疹の主なるものを數へると第一は鱗屑疹、第二痂皮、第三糜爛裂傷と云ふやうなもの、第四は潰瘍、瘢痕と云ふやうなものであります、その第一の鱗屑、これは角質變性したところの表皮細胞の集つたもので皮膚の新陳代謝により角質變性した表皮細胞が何かの病氣によりて皮膚に喰付いて容易く除れないといふことで鱗屑が出來るのであります、そして先天性角質變性の多いもの、或は後天性に色々の眞皮或は表皮層に於ける病氣の爲めに一時角質變性が增して或は角質異常を起して其爲に此の鱗屑の出來るものもある、後天性に出來るものとなれば通例は續發性皮疹と名づけて宜い譯で、先天性に鱗屑が出來ることこれは原發性皮疹の中に入れても宜いのでありますが、これも習慣上續發性の中に加へられて居る譯であり

ます、この鱗屑が米糠樣の小さく取れて參りますと例の糠粃疹と云ふべきもので、大きく木の葉形に除れると樹葉型と申します。

其次は痂皮、これは皮膚の表面に於ける汾泌物の固まつて出來るものであります その汾泌物の内でも漿液もあれば膿汁もあり、又血液の混るのもあるのであります 痂皮は其の成分に依りまして其色が違ひ、漿液から出來る痂皮でありますと透明或は蜂蜜樣黃色其内に白血球が加はりまして膿汁になりますと帶黃白色から進んで帶綠黃色となつて、痂皮も厚くなり不透明であります、血液が加はると茶褐色を呈して來る、それから塵埃を含むと色が汚なくなつて來る、その痂皮の厚さと色によつて成分が分るのであります、その痂皮が非常に厚い時には留比亞（Rupia）と云ふ言葉を用ゐます、今では却つて六ッヶしい字を當てゝ恰度蠣の殼の裏を見るやうであるから と云ふので蠣殼疹と云ふて居りますが、又卑近な例でありますが私共が道を歩いて居りまして牛の糞を見ると恰度形が同じであります、眞ン中が厚くて外側が薄い、これが悉くこの皮膚の分泌物の固まりだけでなく其中には角質變性をした表皮細胞を含んだものもある、痂皮の厚さの中間に位ゐしたものは Schuppenkrusten（鱗屑性の痂皮）と云ひます。

それから其次の Erosion Excoriation（糜爛）がちらも皮膚組織の缺損でありまして、これは其人に依りまして用ゐる方が多少區々別々になつて居りまするが、角質層の缺損した

ものをErosionと云ひ、眞皮まで達したものをExcoriationと云ふ風に區別して居る人もあれば、或は此のエロジオン(糜爛面)と云ふ時には表皮の缺損した場合で、機械的に傷害した場合にExcoriationと云ふ風に云ふて居る人もあります、それから裂創、これは皮膚が裂ける、つまり皮膚の彈力性が乏しくなると起るのであります。

それから潰瘍(Geschwür od Ulcus)これは矢張り一の組織缺損でありまするが、此の場合は必ず眞皮に達し、化膿を伴つた組織の破壞であつて、治癒の傾きの無いものと云ふことでありますが、潰瘍でも能く癒り得るのであります、そして組織破壞を伴つた潰瘍は必ず多少瘢痕を殘すものであります。

斯樣に此の皮膚發疹物の形は簡單でありまするけれども、前に述べましたところの皮疹が互ひに集つて、さうして色々の皮膚病を形造つて居るのでありますから臨床上の模樣は可成り態々で、その皮疹の配列、蔓延の模樣も隨分色々であります、全く不規則で澤山に出來て居つたり、瀰漫性播種狀に出來たり、其の所々に集つて集簇を作つて居るものもあります、それから又皮疹の眞中に癒つて周圍に向つて段々廣がつて來ますと綺麗な環形を呈して來ます、この皮疹が互ひに融合して參りますと隨分不規則な型が出來まするけれども、その中によく觀察を仕ますると云ふと半環狀の邊緣を認めることが出來る、これも診斷上必要なことでありませう。

それから尙ほ診斷上に必要なものは皮疹の色と、その色の周圍の境、即ち周圍の健

全部にうつり行く模樣、それから皮疹の表面の模樣、即ち極く平滑であるか、粗糙であるか、或は凹凸であるかと云ふことであります、次に皮疹の抗抵、即ち壓へて見たところの硬いか、軟かいかと云ふこと、それから局所の皮疹の彈力性の有無、それから此の經過、これは皮疹個々の經過と全体の經過、即ち澤山の皮疹があつて同じ樣な發育をして居るか、或はその各皮疹が互ひに發育の時機を異にして居るかと然う云ふことが肝要である。

それから自覺症狀の有無であるが、此場合は割合に少ない、只痛みの輕いものと認められて居る瘙痒が有るか無いかと云ふことが診斷上の標準であります。

それから次に發生の部位、これも或は定まつた場所に出來たり又場所の定まらないのもあれば或は伸展側に多いとか云ふやうなこともあるのであります、其外に尙ほ其の病變の皮膚組織内に於ける位置であつて、皮膚の中で極く表在性であるとか、或は深い所にあるとかいふやうな事で、前申しました樣に同じでも淺い所と深い所とで異つて見ゐると云ふことであります。

以上は只一般を述べました丈けで、此次からは愈々花柳病殊に黴毒の事を申上げる積りであります。

貳

黴毒は只今の處では非常に蔓延したもので殆んど黴毒と自慢との無いものはな

いゝ云ふ位に多いのでありますが、日本でも隨分古くからあつたものゝ見ゐまして富士川博士の記載に據りますゝ丁度千五百十二年永正九年の頃に唐瘡ゝか或は琉球瘡ゝか云ふ樣な風に指摘されてある相であります、で其臨床上の事、或は治療上の事に就ては割合に早く調が附いて居ります、けれゞも原因に就ては隨分長い間議論のあつたものであります、乍併今日では最早千九百〇五年にシャウジン Schausinn 及ホツフマン Hoffmann から見出された所のスピロヘーテー、バリダーを黴毒の原因ゝして疑ふものがないのであります、此スピロヘーテーを檢べるには黴毒の初期に來る所の硬性下疳或は扁平胼胝腫 Kondylomata lata 或は濕潤性丘疹こう云ふものが最も良い材料であります、其組織液を取りまして丁度血液標本を作る樣になるべく薄い塗抹標本を作つて暗視野顯微鏡で檢べ或は染めて見るのであります、其染め方に就ては色々ありますが矢張始めからやつて居りますギームザの染色法は一番良い樣であります、それにはギームザの作つた所の〇マノスキー液が必要でありますが戰爭の爲めに乏しいので一般に困つて居るのであります、處が昨年の四月に仙臺皮膚科學會で千葉の伊東博士の示されました染め方があります、夫れが完全でありますから一寸大略を申上げて置きます、是れは七乃至十五%のゼラチンの液を作くつて冷すゝ硬くなりますから溫めて組織液を一緒に混ぜ合して塗抹標本を作る、然うして其まゝ乾かして乾いた所の標本をオスミユーム瓦斯で固定するか或は無水アルコールで固定しても宜しい、そしてヘマトキシリン液で染めて水の中に入れて置きますゝ其色が出て來ます、其所で夫れを乾しますゝゼラチンがヘマトリセキシンに青く染つてスピロヘーテーが陰性になつて Negativ Bild(陰性像)ゝなつて見ゐます、モウ一はカルボールフクシンに十%のアンモニア水を少し計り加へる、然うするゝ少し色が變つて紫色を帶びてきて汚色になります、夫れを其まゝ捨て置きますゝアンモニアが蒸發して其液が元の色に戻つてくる、其アンモニア水を加へて色の變つて居る間に血液標本の樣にして塗つたものゝ其面を下にして浮べて置くのであります、然うして其色が變らない内、即ちアンモニアが全く蒸發しない内に取り出すので、大抵二分間位で宜い相であります、然して後はよく水を洗つて乾して檢べるのであります、是れは濱野學士の考へたのを伊東博士が遣り直したのであります、又更に伊東博士が五%のメチーレンブラウに同じ樣にアンモニア水を加へて染めて成功して居ります、或は五%のメチーレンブラウゝカルボールフクシンゝ等分に混ぜて同じ樣にやつて居ります、夫れでも矢張都合よく出來る相であります、夫れからブツリーの墨汁染色法を用ひても宜しいのであります、是れも外が綺麗に染つてスピロヘーテーが染ら無い、即ち陰性像ゝして見ゐるのであります、次に組織標本を作りますに就てはレバディチー Levaditi の銀染色をやるのであります、是れも大抵御承知で御座いませうが私も自分で澤山にやりましたから只自分のやつた其經驗によつて少し計り氣

付いた所を申し加へておこうと思ふのであります、夫れはなるべく薄い組織片を取つて幅は少し廣くても宜しいが薄い方が宜しいのであります、マア一ミリメートル位と云ふのでありますが、是れは十%のホルマリンで固めたものをソウ云ふ工合に薄く切つて用ふるのであります、乍併酒精で固めた標本でも隨分使へます、私の檢べた内で先天黴毒の胎兒でありますが是れも十年以上酒精の内に蓄へられた標本を以て檢べたが矢張良く出來たのでありますでマアなるべくホルマリン水を以て固めた組織の薄い一片を取りまして夫れを酒精(九十六%)の内に一日漬けて二乃至三分間蒸溜水の中に浸して酒精の奪れ終るのを待つて一・五%硝酸銀水溶液の中に入れるのでありますが、夫れを水の中に入れますと此酒精の奪れるのは組織片の水に沈んで終へば宜いのであります、其硝酸銀水を入れたものを四十度の少し高い孵卵器の中に三乃至四日入れて置くと云ふ事になつて居るのであります、其硝酸銀に入れてから直ぐ孵卵器の中に入れるよりも先づ室溫の中に四五時間置きまして夫れから孵卵器に入れると云ふ事が割合に必要であると思ふのであります、然うするとサウ長く置かなくとも四五時間乃至一晝夜孵卵器に置いておけばよいのであります、次に還元液へ入れるのでありますが、夫れは水に沒食子酸が二乃至四%の割合でホルマリンが五%の割合になつたものを用ひて居ります、其還元液に入れます際に其儘入れて置きますと沈澱が非常に澤山出來るので先づ水で洗つても宜しいが還

元液を幾つも作らへておいて始めの液に入れて夫れから次に移し段々そうして行くか又は夫れを暗い所で五六時間或は一夜入れて置いても宜しいのであります、この度々仕變て行くと云ふ事が必要の事であります、然うして其後は又水で洗つて酒精を通してパラピンの中に入れてパラピン標本を作るのであります、其還元液に就て或は山本博士に隨つて是れは水に沒食子酸とタンニン酸とを一%に入れまして も宜いと云ふ事であります、其外にも色々遣方はある樣でありますが、孰れにしても此器や壜を清潔にして液もなるべく新しいものを用ふると云ふ風にする事が必要でありますが、其切片を摘みますにも金屬製のものを用ふると何うも沈澱が多く出來て工合が惡い、夫れで切片を扱ふのに糸で縛て置いて糸で扱うと宜いと云ふ事を書いて居ります、私は竹の箸を以てやつて居る、其れを細く削つて置いてやりますと大變便利であります、夫れから金屬製のピンセットも亦パラピンの中に入れると カブセルが出來てそうすると金屬が直ぐ液に觸れないですからよい、マアそれが一の注意であらうと思ふのであります。

スピロヘーテの形なごは大抵御承知でありますから略します。

參

黴毒一般の經過

御承知の通り黴毒には先天黴毒と後天黴毒と云ふ風に區別されて居ります、先天

黴毒に就ては松浦博士がお話になります、私は專ら後天性黴毒に就て述べる譯であります。

後天性黴毒は小さな傷から毒を受けて第一の潛伏期卽ち三乃至四週間を經過した後に初期黴毒の徵候を現して參りまして夫れから第二の潛伏期が六乃至十二週間となつて居ります、次に全身黴毒の徵候として皮膚に發疹物が出て參るのであります。

全身黴毒の徵候竝に經過は非常に樣々でありますが概して凡そ三個月計り經過致しますと其皮疹が大略消散致しまして所謂潛伏黴毒となり、更に一乃至六個月の後に又皮疹が現れてくる(夫れを再發性の皮疹と稱へます)斯樣にして此發疹物と潛伏期が互に繰返して然うして感染の後凡そ三乃至五年を經過してから護謨腫が出來てくる譯であります、是れを傳染後の時日に依つて第一期黴毒第二期黴毒第三期黴毒と云ふ風に區別されて居るのでありますが其初期變化のある間に既に發疹物が現れ或は早く護謨腫の出てくる事もありますので、此長さで時期を別けると云ふ事は六ヶ敷のでありまして、既に發疹物に致しましても早く出てくるものと遲いものと模樣が違つて參りますので、其所で發疹物の內でも早發皮疹及晩發皮疹と云ふ風にも別けられて居ります、大体早發皮疹は一般に澤山に廣い場所に現はれて跡へ瘢痕を殘す痕の殘る事は少いのでありますが晩發皮疹であると局所を限つて跡へ瘢痕を殘す

ものが多い、卽ち護謨腫の素質を帶びてくる次いで組織を破壞する所の重い徵候が非常に早く且續々現はれて參りまして尙屢々治療の効果少くして然うして遂に澱粉樣變性等を起して死亡するものがある、名附けて惡性の黴毒と云ふ風に謂はれて居るのであります。

處が一寸此所で申し加へたい事は惡性の黴毒と申しましても其定義に就ては未だよく極ら無い所があるのでありますが卽ち只黴毒療法の奏効の少いと云ふ事を標準にする人もありますが又著明に組織を破壞する事を標準とする人もあります、所が治療學の段々進むに隨て是れ迄癒り難くかつたものがよく癒る事にもなつてくる、然うすると藥の奏効の如何と云ふよりも寧ろ著明に組織を破壞する所の徵候が廣く且早く出てくる場合に惡性の黴毒と云ふ事が出來る樣にも思はるゝのでありますが、乍併又一方にはスピロヘーテーパリーダーが藥の爲めに癒るのでなく藥が利かない爲めに惡性黴毒になりやすいと云ふ事も出來る譯であります、其外に躰質の如何と云ふ事も無論關係する樣であります。

大概所謂第二期黴毒に於きましては徵候が强く且澤山に現はれまして然うして其場合にはスピロヘーテーパリーダーを多量に含んで居るに關らず組織を破壞する事が少なく、然るに却て第三期に於きましてはスピロヘーテーパリーダーを含んで居ても少い、往昔は第三期黴毒にはモウ毒が無い黴菌がゐないものと思つた位で

あります、夫れに關らず組織を破壞することが甚しい、是れは面白い現象で斯樣な所を見ますること云ふこと多少其黴毒の免疫質と云ふものを認めなければならない譯でありまます、乍併又惡性の黴毒の樣に組織を破壞する所の變化が早く且つ澤山に現はれてくる處を見ると云ふこと少し此普通の經過によつての觀察は六ヶ敷くなつてきます、其處でナイセル等の云ふて居る所の組織の變調 Umstimmung と云ふ事も認めなければならない樣な事であります。

尙黴毒の免疫性と云ふ事に就て少し附け加へて置きますが、一度此黴毒に罹りますと云ふこと更に初期の變化(硬性下疳)を受ける事が少い然う云ふ所から若し再び此病氣に罹かつたならば先の黴毒が全く癒つたものと云ふ證據であると見做して居つたのでありまます、又メチュニコッフ氏等が色々動物試驗や人間なぞの試驗をしてメチュニコッフの助手が黴毒に感染したり又人間に接種試驗をやつて居るですが斯う云ふ所の結果に依りましても此黴毒に於て一定の免疫性の出來ると云ふ事は慥の樣でありまます、夫れから癒ると云ふ事も亦慥であらうと思ふのでありまます、決して癒らないものではないのでありまます、乍併其免疫性が夫れ程慥かなものでないと云ふ事は度々再發する事があるに見ても明かでありまます、夫れから又此度々再發してくるに隨て徵候が段々限局してくると云ふ所から見ますると黴毒の免疫質と云ふものが各部に一樣でないと云ふ事も謂ひ得るであらうと思ふのでありまます、是れ

は一所が癒つて段々周圍に擴がつて行く、一旦癒つた所は割合に再發が少く、其免疫質は出る事が不同であると云ふ風に考へて差支がないと思ふのでありまます、夫れでありますから若し一度黴毒に感染した患者に更に黴毒が感染しても先の免疫質が全く無くなつたと云ふ譯には行かないのでありまます、又更に感染したならば先の黴毒が全く癒つたものであると云ふ證據にもならんのでありまます、夫れで一方に護謨腫があるに關らず更に黴毒に感染して第二期黴毒の症狀を現はしたと云ふ例が文籍に報告されてあるのでありまます、又再感 Reinfektion と重感 Superinfektion とが區別されてありますが此れも却て六ヶ敷いのでありまます、と云ふのは此黴毒は長い間の潛伏中に罹るのでありますから六ヶ敷い譯であります、黴毒の再感すると云ふ事に就ては其例が決して少い事はない、御承知の通り Condylomata lata (扁平胼胝腫)に於きまして丁度身体の中で例へば陰囊股間に於ける樣に一方に扁平胼胝腫が出來る、然うすると夫れに對する面にも扁平胼胝腫が出來る丁度向ひ合つた所へ出來るのであります、互に向ひ合つた健康部に傳染すると云ふ事に就ては病源の判らない時代には黴毒に再感がないと云ふ事を認めて居つた結果其說明がつかない、其所でツアスルが更に其處で一方から一方に傳染するのではなく其病症の爲めに局所が刺戟されて起るのであると、コウ云ふ風に說明されたが扁平胼胝腫に就て檢べて見ると澤山のスピロヘーテーパリーダーが含まれてあるのであります、其澤山に含まれて居る所

のスピロヘーテーパリーダーが其觸接した場所に於て表皮層を越ゑて反對側の皮膚の中に這入り得ないと云ふ理屈がないのであります、然う云ふ譯でありますから血中のスピロヘーテーパリーダーが其中に這入て發育すると說明するよりも寧ろ接觸した場所が摩擦されて糜爛面を作る、直接に移り行くと云ふ方が說明が正しいからうと思ふのであります、又一旦黴毒に罹つたものでも更にスピロヘーテーパリーダーが外から這入り得ない理屈はないと私は思ふのであります再感染に於ては卽ち一旦感染して居つて更に病毒を受けた場合には其場所に只第二期に於ける樣な丘疹丈けが現はれて初期硬結の出來ないと云ふ事は是れは動物試驗に於て證明されて居るのであります、卽ち一旦黴毒に罹りますと重感した場合に初期の症狀を作らないと云ふ事になります。

黴毒の再感染と云ふ事を定めるに就て一寸注意すべき事柄を附け加へたいのでありますが、是れは書物にも書いてありますがよく問違ふと思ふ事で私自身の經驗した一例があります、これは以前黴毒に罹つて全く徵候なしになつて長い間無徵候になつて居つたのが結婚をして其新しい妻を迎へて一週間計りしてから局部に小さな潰瘍が出來たのであります、其潰瘍の模樣は始め診た時には硬性下疳でもなければ軟性下疳でもなく小豆大の小さなものであつたのであります、是れは妙なものであると御自身で思つて居られた内に一週間計りすると其潰瘍は割合に早く癒つて

終つて夫れより二ヶ月計りしてから其新しい妻君に立派に第二期黴毒の症狀が現はれて來たのであります、これは畢竟結婚して局所の刺戟を受けた爲めに古い黴毒が其處に再發して護謨腫の潰瘍を作つて間もなく癒つたのであります、夫れが新しい妻君に感染させる爲めに態々其處に病症を現はした樣なものであります、それが後と考へると小さいものであつたけれども矢張護謨腫潰瘍の樣に思はれたのであります。

四

黴毒の初期

黴毒感染の後二三週間にして麻實大の丘疹が出來て發育すると拇指の頭位になり次第に著明な硬結 Induration を伴なつて來ます、乍併初期硬結其もの丈けでは眞實の潰瘍を作らない、是れは殊に注意すべき點でありまして只其浸潤硬結の表面が僅か糜爛面の樣になつてくる時がありまして潰瘍と申し上げても極く皿の樣な扁平な潰瘍であります、乍併又混合下疳卽ち軟性下疳と一緒に參りましたものでは先づ潰瘍を作つて軟性下疳の性質を呈して然うして後に硬性下疳の性質を現はしてくるのであります、夫れから混合傳染の爲めに浸蝕性下疳、壞疽性下疳、或はジフテリ下疳とコウ云ふ樣になりまして硬性下疳の性質を失ふ事がある、是れも矢張心すべき事であらうと思ふのであります、陰部匐行疹、エクチェーマ包皮炎、疥癬或は尖圭胼胝腫

カンクロイドなどの場所から病毒の這入ることもあります、又尿道下疳や女子の膣内に出來たもの或は子宮口などに出來たものでありますと往々淋疾を兼て居りまして淋疾の徵候を現はしまする爲めに隨分診斷の六ヶ敷い事もある譯であります

尙此硬性下疳の發生部位によりまして其特異の徵候の硬結が樣々であるのであります、包皮口、陰莖、繫帶の周圍、冠狀溝、コウ云ふ場所に出來ますれば浸潤が深く且著明で隨分硬いものであります、又龜頭及包皮の內面に出來ますると云ふと極く淺い硬結を起して丁度羊皮紙(Pergament)を摘む樣な感じがあります、又陰莖の皮膚に出來ますると隨分廣い硬結を作つて、同時に多少浮腫を伴ふ事もあります。

女の生殖器就中小陰唇に於ては羊皮紙樣下疳 Pergamentschanker となり、又は舟狀窩及膣では硬結が非常に判り難い、子宮口へ來たものには見逃され易いのであります。

生殖器以外にも硬性下疳が出來る其內で最も屢々出來ますのは口唇でありますマァ外國の樣に接吻をやります所では成程口唇がよく出來ると思はれるが、マァ接吻によつて出來るのもありませうが吸付煙草、中には盃で傳染つたと云ふ事を訴へたものもありますが一々其經過を見別るのは六ヶ敷い事でありませう、私の調べた所では黴毒性の叔父から物を貰つて七才の男の子の口唇に硬性下疳が出來たのでありますが、同じ口唇の內でも今迄十五六例程ありませうが、其の中で矢張り上口唇……に最も多いのであります、歐羅巴の統計では下口唇となつて居た樣であります

が私の統計では上口唇で又頰に來るのもありました。

硬性下疳の周りで皮膚に廣く慢性の肥厚を起して丁度象皮病の樣になるのであります、名づけて硬結性の浮腫 Edema Indurativum (淋巴管炎并に淋巴管周圍炎を起す爲め)太い淋巴管の腫れる爲めに陰莖背面に淋巴管の索狀硬變或は黴毒性橫疱を起すこともあります。

夫れから硬性下疳と區別する場合を申し上げますると軟性下疳、膿疱疹、大膿疱疹アクネ膿疱、包皮炎等にくる所の糜爛面、女に於ては陰門炎からくる所の糜爛面、疥癬の皮疹、陰部匐行疹、淋疾にくる所の尿道周圍炎の浸潤、カンクロイド斯う云ふものが注意すべき事で屢次間違ふのは第二期の黴毒にくる處の濕潤性丘疹并に護謨腫であります。

屢次診斷上困りますのは生殖器以外の硬性下疳であります、併乍斯樣なものゝ診斷を間違ふのは其の臨床上の徵候が紛はしいと云ふよりも寧ろ夫れに氣付かなく必竟硬性下疳と云ふ事に感じつかないと云ふ事が其間違ふ原因の多い譯であります、大抵徵候がよく備つて居るのでありますから兎も角譯の判らない潰瘍や糜爛面等癒り難い瘰疬、或は扁桃腺炎、夫れから乳房、并に肛門に於ける所の浸潤の伴つたものに出會ますれば先づ何時も生殖器以外の硬性下疳ではないかと云ふ事を考へる必要があります、尙硬性下疳の診斷に必要なる事は所謂無痛性橫痃でありますが又

混合傳染の場合には無痛でなく痛みを覺ゐるものであります。

五　全身黴毒

傳染の後六乃至十二週間を經て全身黴毒として全身に皮疹が現れてくる硬性下疳と皮疹との間を初期第二期の潛伏期と名付て淋巴腺が腫れて來て又多少患者が貧血に陷る、夫れから食欲が惡くなり仕事が懶になると云ふ事もある、又此皮疹の出てくる前に著明に熱の出てくる事もある或は精神症狀を起してヒポコンデリー或はノイラステニーを起すものもあります、夜の間に往々强い頭痛を訴へるものもあり(是れは頭蓋の內面の內側に於ける骨膜の變化と見做されて居る)神經痛僂麻質斯樣の痛みを覺ゐるものもあれば脾腫腱反射亢進(脊髓膜の刺戟症狀)或は蛋白尿等を見ることがあります。

次に薔薇疹其外の皮疹を現はしてくるのであります、其處で黴毒の第二期に這入つたものと見做れるのであります、全身黴毒の徵候或は變化が決して皮膚粘膜丈けに限るものではないが通常最も著明に皮膚に現れてくる、此皮膚黴毒發疹物は今申しました樣に概して早發型のものは瀰蔓性に現はれて其形が揃つてゐない、それより遲く來ますものは次第に限局して其形が輪狀か半環狀に集つてくる其形も略揃つてくる、夫れから其皮疹の經過が慢性で通常自覺症狀を伴はないのであります

中には僅に搔痒を伴ふものもあります、其色は通常銅褐色で然うしてHalo(暈)を伴はないと云ふのが特異の所でありませう、此第二期の頃には傳染力は無論著明でありますが乍併段々時日を經るに隨つて次第に其傳染力が弱くなる、全身狀態は餘り變化の著明でないものもあれば鬱憂狀態に、或は貧血性になるものもあります、僂麻質斯樣の痛みを伴つて營養の惡くなるものもあります。

血液の檢査に於てはヘモグロビンの量及赤血球の數が少くなり白血球が增ゐるのであります。

黴毒の皮疹に就て少し計り簡單に繰返して見ます、第一が黴毒性の薔薇疹是れが最も早く且つ最も屢々出てくる症狀でありまして極く始めは其色が鮮紅色でありますが後には多少黑味を帶びて銅褐色となつて參ります、大きさは小豆大から豌豆大で稀には五厘銅位になつて參ります、圓い稍々不規則な其周圍から判然境界されてくるマクーラーであります、鱗屑は出來ない、初めには指で壓へると全く無くなる後には黃色を帶びた所の汚い色合を殘す樣になつてくる卽ち始の間は殆んど全く充血丈けからくるものでありますが後になりますと多少とも細胞浸潤を伴つてくるのであります、夫れから皮疹の表面は滑かで少しも高まりのないものもあります或は丘疹樣に幾分か隆起するものもある、然うすると丘疹樣黴毒性紅斑と云ふ樣な名も附けられて居ります、よく參ります所は胸の脇、脇腹で稀には四肢の屈側、手掌、足

臍、顏、頸等に來るものであります、就中衰弱した病人であるゝ廣く澤山に來る、顏のゼオラは脂漏を伴つて其爲めに小鼻の周及頤などに少し薄黑い色を帶びて參ります。

薔薇疹が澤山出て居るゝ判り易いですが少數出來て居りますゝ一寸判り難く、然う云ふ場合に衣服を脫がして肌を風に晒してやりますゝ惡い所が著明に充血して來ますし惡くないものは多少貧血を起してくるので判る、夫れから夜などに診た場合非常に判り難いですが側部から透して診るゝ少し高くなつた樣に見ゐるのであります。

此薔薇疹は隨分早く無くなつて、其跡に別段に痕跡を伴はない爲めに、日本人には以前には此薔薇疹は餘り來ないものゝ謂はれて居つたのでありますが、乍併實際には夫れ程少い事はない、隨分澤山見る樣であります、又少しく長く續いたものであります。するゝ跡に汚ない茶褐色の斑點を殘すものもあります、夫れから生殖器殊に陰莖の龜頭及陰門等に於きましては此薔薇疹から糜爛して濕潤性を帶びてくる事もよくあるのであります。

此薔薇疹は通常早發型のものでありますけれども又晩發型としてくるものもあるのであります、其內で傳染後一年の間に播種性に來るものを再發性の薔薇疹夫れより晩く來て參りまして寧ろ皮膚に限局してくる所のものを晩發性或は第三期の

薔薇疹ゝ云ふ風に名附けられて居ります、此早發型の薔薇疹に較べますゝ云ふゝ此再發性の皮疹は大きい、形も不規則でありまして其中には多少、輪狀を爲して居るものもあります、數も少く隨分手足などにもくるものであります、夫れから此晩發性薔薇疹でありますゝ極く僅な場所にくるので通常輪狀、半環狀を爲して往々丘疹の樣に幾分か隆起を認め跡へ鱗節を形成するでありますから多少浸潤が强くなるのであります。

丘疹性の黴毒疹或は膿疱疹性の黴毒疹

早い時期に參ります所の丘疹性の黴毒疹、此の形は非常に樣々でありますが何れも稍硬い、結節で然うして瘢痕を作らない、其色も全くなくならない、(細胞浸潤がある爲めでありますが)其色も發育時期によつて色々でありまして始めは割合に奇麗な色でありますが間もなく黑味を帶びて暗褐色又は銅褐色ゝなるのであります。

屢出會ます形は大丘疹性の黴毒疹でありますで、極く不規則に播種症に現れて參りますが傳染後の時を經るに隨つて其數が少くなる、軀幹、關節の屈折面、項部、顏(多く額の生ゑ際)にやつて參ります、所謂コロナ、ベネリス Corona Veneris ゝ云ひまして、御土產ゝ云ふ意味であるのであります。

此の早い時期の丘疹は周圍から多少著明に境された硬い然うして僅かに隆起した所の結節でありまして其表面が平滑でありますが段々時を經るに隨つて鱗節を

作つて間々落節性丘疹性黴毒疹となるのであります、夫れから大きさは小豆大から豌豆大位で中には著明に大きくなるのもあります、そうして跡に極く淺い皮膚の萎縮を殘すものもあるが長く色素沈着或は色素脫失を止めるものもあります。

中には極く淺い扁平な丘疹の中央が癒つて周圍丈け殘りまして割合に淺紅色の輪環或は半弓形を作るものもあり、環狀の丘疹が二重の輪を作るものもある斯樣に環狀或は半環狀の丘疹は勿論晩發型であります。

丘疹の內で極く小さいので黴毒性苔癬 Lichensyphiliticus と名づけられて居るのもあります、是れは毛囊苔癬或は腺病性苔癬の樣な間々小さな鱗節又は小さな膿胞或は小さな痂皮を伴ふ所の濾疱性の小結節で多少小さいながら隆起して茶褐色を帶びて不規則に輪狀に集簇して後で屢々小さな皮膚の萎縮(所謂陷沒)を殘すものもあります、是れは屢々晩發型として現はれて虛弱な者に多いと云ふ事であります、又中には扁平苔癬の樣な極く扁平な少丘疹を作るものもあります、皮膚に著明な搔痒を伴つて參りますのと色が非常に奇麗なから區別する譯であります。

黴毒性丘疹で其病的變化の進んだものでありますると更に水胞、膿疱或は痂皮を作るのであります、所が早く是れを現はしまして殆んど斯樣な丘疹を認めないものもあります、又早く極く厚い痂皮を作つて其下には糜爛面、淺い潰瘍を見る丈けのものもあるのであります、(黴毒性のエクチーマー又は黴毒疹ルピヤと云ふ)夫れから

若し其內で早く潰瘍を作る所のものは曩に申しました樣に惡性黴毒に這入つてもよいので、又水疱膿疱或は痂皮を作るものが澤山に出來て參りますと先づ病氣の重い徵と云ふ譯であります、只一定の場所卽ち頭及下腿でありますと云ふと別段重いものでなくとも水疱痂皮をよく伴ひますのであります、又續發的刺戟、或は混合傳染の爲めにも痂皮を作るものでありますが是れも別段惡い意味を持つた譯ではありません。

總て此丘疹或は丘疹性膿疱疹等に於きましても其形によつて匐行疹樣、膿疱疹樣アクネ型或は天然痘樣等色々な名が附けられてあります。

其外に皮疹の內で特別に記載すべきものは次に云ふ

第一、濕潤性の丘疹及扁平胼胝腫

これは濕潤若くは摩擦を起し易い所に出來た丘疹の角質層が奪れて濕潤性の丘疹となり或は更に組織の增殖を伴て扁平胼胝腫となる譯であります、その著明なものでありますと菌樣に隆起する事もありますが其場所の關係によつて潰瘍になるものもあれば或は裂創を伴ふものもあります、自己傳染に依つて澤山に出來て惡臭を放つものもありまして非常に傳染し易いのであります又コンヂローマの性質を伴ふ所の丘疹が口角或は鼻唇溝と云ふ所に出來まして丁度疣贅の樣な腫瘍となつて痂皮を冠て居るものがあります是れは黴毒性のフランベジアと謂はれるもので

あります。

第二手掌、足蹠の黴毒疹

黴毒の早い時期の薔薇疹も無論此の場所に參りますが寧ろ面白いのは此の場所の丘疹でありまして角質變性を伴ふ爲めに一種の形を現はしてくる其場所は兩手にくるものもあれは或は片手にくるものもありますが小豆大内外の黄色或は茶褐色の圓形病竈が出來まして其上の角質層が稍厚くなつて或は其場所の角質層が離れて落屑しまして却て往々陷没した所の平滑の面が現れてくる、然うして僅かに細胞浸潤を伴つて然うして其周圍に角質層の緣を持つてあるのであります、然う云ふのを黴毒性の鱗屑疹と名つけて居ります。

夫れから又此の丘疹の角質變性の極く著明なものでありますと丁度胼胝腫或は魚の目(鷄眼)の樣になるのもありますれば互に融合して組織が彈力性を失つて裂創を伴ひます、然う云ふ爲めに非常に痛みを訴へるものもあります、此黴毒性の鱗屑疹及び扁平胼胝腫は非常に頑固で且再發し易い、そして屢々外の皮疹なしに限局性に來るのも少くないのであります、此の他稀れに見る早發徴候の皮疹は出血性の皮疹色素性の黴毒疹即ち薄褐色の色素沈着を伴つた丘疹、硬結性浮腫(陰部の丘疹に多い)器質化丘疹(扁平胼胝腫の器質化せるもの)結節性紅斑樣の結節(黴毒性の靜脈内膜炎結節性黴毒疹)葡萄樣の黴毒疹(是れは一所に集つて眞中に大きなものがあつて周圍

に少さな娘發疹と名づけるものが出來るであります。

皮膚に於ける第二期の黴毒疹の經過に就ては非常に樣々でありまして、輕いものは捨て置いても短い間に消散するものであります、乍併固有の手當をせずして置きますと通常更に新しい形を現はして頑固な素質を帶びて來て段々癒り難くなつてくるのであります、其内で殊に癒り難いものは小丘疹性の黴毒疹、膿疱性の黴毒疹夫れから深い細胞浸潤を伴ふ所の發疹物でありますが尙場所の關係によりまして曩に申しました扁平胼胝腫、手掌、足蹠の黴毒疹であります、丘疹性發疹は通常色素沈着を殘すものでありますが其重い輕いと云ふ事は其變化の度合にもよりますが尙其人の素質にも關係するものであります、尙膿疱疹を伴つたものゝ潰瘍を作つたものには屢々小瘢痕が殘る乍併單純なる丘疹性黴毒疹に於きましては只輕い皮膚の萎縮性斑紋を殘す丈けであります。

第三黴毒性の白斑

是れは色素脫出でありまして好んで頸及項等によくゝるのでありますが稀には其他の場所にもくる事があります、通常小豆大の色素脫出斑でありますが乍併決して完全な色素脫出ではないのでありますから其色素脫出部と周圍との境が判然してゐない、夫れで餘り强い光線でありますと一寸分り難い、夫れで强い時は少し影を作つて診るとよく判るのであります、屢々是れは女に出會ますが男にば鮮いのであ

ります、女は男に比べて色々化粧品を用ひたりするのと衝襟をするこ云ふのが一部の原因を爲して頸の色の黑いのが多い樣でありますから色素がなくなるこ著明に分るのであらうこ思はれます、そして傳染して一年の內に斑紋或は丘疹の後にくるものもあれば特發するものもあつて、隨分長く殘つて居る爲めに潛伏黴毒の診斷の助になるものであります、乍併遂には又無くなつてくるものであります、夫れから區別しなければならんのは第一の白斑であります、(先天性或は後天性白斑)是れは完全な色素脫出でありまして周圍このの境がハッキリして居り隨分廣く擴り其形も不規則で隨分色々の所にやつて參ります、夫れから別に非特異性の白斑こして先程岡村博士が記載されて居りますが是れは丁度黴毒に起る白斑の樣な色素脫出が足なごに廣く現れて居つて多分海水浴等が其原因になるのであらうこ云ふのでありますが、海水浴を執らないものも中には隨分あるのであります、是れは却て外の場所に隨分廣くなるこ思ふのであります、場所が不規則であるこ云ふ事で且區別するより外にない樣であります、又白斑が瘢痕に似た樣でありますが瘢痕組織であるこ皮膚表面の變化がありますから透して診れば滑かになつて判る樣であります、普通の癜風是れは丁度黴毒性の瘢痕に似寄つた所の色素脫出を伴ふ事があります、殊に日本人の樣に度々風呂に入りますものには此の癜風に特異の落屑がない、乍併癜風に於ける色素脫出は出來場所が不規則で外に固有な病竈を伴つて居る事で區別が出來

る尙尋常性鱗屑疹是れも癒つた後トで一寸色素脫出を殘す事もありますがこれは著明な落屑を伴ふて隨分多くの病竈を作る事もありますから然う云ふ既往症なごに依つて見別けが着く譯であります。

第四、毛髮及爪の變化

此皮膚の薔薇疹こ一緒に或は其後に屢次一種の毛髮脫落卽ち黴毒性の禿頭症こも見るのであります、其有樣は丁度外の重い熱性病等の後に參る樣に頭の毛が瀰慢性で全体に薄くなるものもありますが、殊に定型的のものに於きましては其薄くなつた中に殊更に薄くなつて少さい病竈を澤山に現はして毛が寧ろ斑の樣に見ゐる夫れで一層殺風景の有樣になるのであります、脫毛症は殊に頭の內でよく顳顬並に後頭部に現はれて參りまして其內で男では後頭部に著明に見ゐる、女では丁度顳顬部の生ゑ際の所で卽ち鬢毛一筋を爭ふ所に現はれくるのであります、是れは普通でありますが其內で私が何時か學界に報告して置きましたが男で此顱頂部に著明に現はした例もあります、夫れはマァ稀れであります、其外眉毛、睫、口髮其他の毛をも侵される事もあるのであります、其脫毛した場所の皮膚は通常は全く無事でありますが時には僅に赤味を帶びて居り少し許り落屑を伴つて居る樣な事もあるのであります、其外黴毒性の丘疹或は丘疹性膿胞疹が出來まして、其後ちに脫毛症を起す事のあるのは云ふまでもない事であります、夫れから爪でありますが爪も亦侵されます

が其徴候は餘り變つて居ないのでありますが、即ち斯ふ云ふのを爪甲炎とします、して爪の形が不規則になり光澤を失ひ乾燥して脆くなる然うして其色合が汚くなると云ふ樣な事もありますが外の病氣でも同じ樣な變化を起しますから黴毒の特異の所はないのでありますが次に此爪床或は爪の周圍に黴毒疹が出まするこ云ふこ爪床炎及爪甲周圍炎を起すのでありますが其場所が又色々の徴候を現はして或は乾燥して角質過多症を現はし時こしては鷄眼樣になりますものもありますし或は化膿並に潰瘍を伴ひ且非常に痛みを訴へるものもありますそれで殊に此爪の緣に出來ました肉芽は爪は刺戟を受ける爲めに此潰瘍からして更に肉芽の增殖を來たして非常に痛みを訴へるものであります、其爪甲端から更に淋巴炎或は丹毒炎症を伴ふ事もあります、尙稀な例でありますが此第二期黴毒から續發性の爪甲角質過多症を起した樣な例も記載されてあります。

第五、第二期黴毒に於ける粘膜黴毒疹

粘膜黴毒疹の事は皮膚に現はした黴毒疹こ同じ事でありますが只其場所の關係によりまして糜爛或は潰瘍に陷り易い、夫れから最も屢次刺戟を受ける場所に現はれて且つ其場所に再發し易いのであります。

第一に薔薇疹、是れは殊に軟口蓋、口蓋弓、扁桃腺、咽頭後壁等に參りまして其場所が暗赤色になつて稍々腫れて參ります、其赤くなつた場所が前の方に於て境がハッキ

リしてあるのが其特徴であります、多少乾燥感等を訴へるものもありますが中には全く變りのないのもあります、其他鼻の粘膜にも瀰慢性の紅斑を見る事があります。

第二は粘膜の丘疹、或は其色が白くなりますので乳斑こ云ふ名があります、所が皮膚の丘疹に一致する者でありますが其細胞浸潤が餘り著明でなく先小豆大位の周圍からハッキリされた暗赤色の扁平の隆起を現はしくるのでありますが非常に早く其上皮の變化を現して其表面が乳白色になるのであります、若し浸潤が次第に周圍に擴がる場合には暗赤色の邊緣を見るのであります、又上皮の變化の著明のものに於きましては丁度乳の接着いた樣に往々著明に隆起するものもありますし或は又却て糜爛面を作るものもあります、尙其場所の關係によつて色々刺戟を受けまするこ更に潰瘍に陷るものもありまするし或は皮膚の扁平胼胝腫の樣に上皮及皮膚の結締織の增殖を來すのもあります、此乳斑の癒りました跡には全く跡方のないものあり或は又淺い瘢痕を殘すものもある。

粘膜に於ける早發性黴毒疹の最もよく參ります場所は口及咽頭の粘膜で非常に再發し易い、是れは必竟齲齒こか煙草或は辛い飲食物夫れから既にある所の慢性の咽頭加答兒等が是れを誘發するのであります、尙其場所の關係によりまして生殖器外の傳染原因こなる事が多いのであります、是れは日本には割合に少いですけれども外國には隨分多い樣であります尙オースタヒー氏管の周り或は鼻咽腔に出來た

變化は非常に見逃され易い。

此外乳斑の出來ます場所は鼻の粘膜、喉頭、結膜、女の生殖器、膣、子宮口、胃腸の入口の粘膜等にもくる筈であります、尙小陰唇、男子の龜頭、及包皮の內側等に於きましても丁度粘膜の乳斑に似寄た變化を見る事があります。

第六、第三期黴毒

黴毒第二期の徵候は大抵現はれて參りますが第三期黴毒の出るのは只其一部分にありて先づ五乃至二十%と云ふのであります、統計によりますと第三期黴毒になりますのは黴毒の初期に於ける治療の足らない事と夫れから色々の躰質病或は不養生等が其原因である事が多いのでありますが中には未だ譯の判らない事もある樣であります。

第三期黴毒は通常傳染の後可なり時を經てくるものでありますが中には隨分早く卽ち二年以內にくるものも少くないのであります、殊に女に於きましては定型的の第三期黴毒に關らず初期の變化或は第二期黴毒の覺ゑのないものが少くない、是れは通常其出來場所若しくは其病人の知識の程度によりましては見逃されるか或は忘れられるか然う云ふ結果であるのであります。

皮膚并に粘膜に於て第二期黴毒と第三期黴毒の區別は何時もハッキリする事の出來る譯はありません隨分一人の患者に於て丁度兩方の徵候を見る事もあるので

あります。

皮膚及粘膜に於ける第三期黴毒を二の形に分ける事が出來る卽ち一は孤立性腫瘍を作るもの(護謨腫)一は多少多發性に且つ集簇性に因つて然うして周圍に擴り易い結節性の黴毒疹であります、其外別の黴毒性胼胝及第三期薔薇疹と云ふものがあります。

皮膚に於ける第三期黴毒、皮膚の護謨腫

是れは半球形の稍々硬い腫瘍を作り色は赤色を呈して居りますが後には暗赤色となるのであります、然うして其眞中で波動を現はして遂に破壞して固有の護謨腫性潰瘍を作る、其潰瘍の形は圓形で然うして底に豚脂樣の義膜を伴ひ尙其周緣に硬い浸潤を示し或は其表面に厚い痂皮を作つて居るものもあります、(然うするとルビヤと名けて居る)。

是れは經過は極く慢性でありまして極く早い時に治療を致しますと瘢痕を作らずに癒る事もありますが通常は瘢痕或は瘢痕樣の皮膚の萎縮を殘すものであります。

結節性の黴毒疹或は第三期の丘疹或は集簇性結節性黴毒疹

是れは固有な皮膚の護謨腫の反對に此種類に於けるものは通常多發性で且つ集簇性に現れて參ります、各々皮疹は小豆大の圓い結節であります、只眞皮の表層に止

まるものもあれば或は眞皮全体に亘りて往々著明な結節を作るものもあります、其色等は始めは奇麗な赤色でありますが後には寧ろ褐赤色になるのであります、稀れには眞皮の極く表層に出來まして且其浸潤が非常に輕い爲めに殆んど薔薇疹の樣に見ゐて、只其一所に集簇して居るので第三期微毒疹と見做される事もあるので斯ふ云ふ場合には一寸診斷が面倒でありますが、斯樣な極く淺い所の皮疹に於きましては格別皮膚の萎縮を殘す事のないものも少くないのでありますが、併しながら往々著明の丘疹を作つたものに於きましては通常は多少の瘢痕樣の皮膚萎縮を殘すものであります、又孤立した所の皮疹が不規則に集つて一方に癒りますと又一方に新しい病竈を作るものもあります、乍併既に一度侵された場所に更に新しい病竈を再發すると云ふ事は甚だ稀であります、中には互に融合して且其中心部で癒るに隨つて周に向つて段々蛇行性に擴がるものもあります、（蛇行性結節性微毒疹と名つけましたものであります）。

此皮疹は表面には只輕い落屑を伴ふ丈けのものもあれば或は所々に糜爛面を現すものもあります或は殊に此蛇行性の形に於て潰瘍を作るものもあります、斯樣な場合に潰瘍を見ますと云ふと其潰瘍の中心に向つた邊緣の方には浸潤が段々消散して瘢痕を作りますが外圍に向つた邊緣には著明の細胞浸潤を殘して多少堤防狀に隆起して後期微毒に固有の腎臓形の潰瘍となるのであります、斯樣な集簇性或は

蛇行性の微毒疹が廣く出來ますと云ふ跡に樣々の瘢痕を殘しまして病氣の歴史を語るものであります。

皮膚の護謨腫から急性の化膿炎症を續發したり或は殊に下肢などに於ける樣に往々象皮病樣の組織の肥厚を起す事もありますし或は其潰瘍からして丁度疣贅狀に組織の增殖を起して所謂梅毒性のフランベジアの形となるものもあるのであります、其發生部は色々で極つてゐない、殆んど全身到る所に護謨腫の出來得るものでありますが其内で刺戟を受け易い場所に多いのであります、尙臨床上に注意すべき事は非微毒性の病氣例へば軟性下疳の場所からして護謨腫に移行する事もあるのであります。

粘膜に於ける第三期微毒に就て少し附け加へて置きます、別に變つた事ではありませんが粘膜に於きましては概して此組織を破壞して深い潰瘍を作る傾があるのであります、夫れ丈けが普通と違ふ所であります、で最も屢次參ります場所は矢張口及咽頭の粘膜でありまして就中口唇に於ては往々象皮病樣に口唇肥大を伴ふものであります、次に舌に於ては通常の護謨腫結節の外に瀰漫性の炎症を起して瀰漫性硬結性舌炎と云ふものを起して所々に萎縮に陷るのであります、其表面の粘膜が平滑なものもありますが又角質變性を伴つて丁度乳斑の跡の白い瘢痕の樣に見ゐるものもあります尙硬口蓋に於ては殊にその中央線に穿孔を來し軟口蓋では非常に

早く組織を破壞して廣い潰瘍或は穿孔若しくは組織缺損を來すものであります、尙咽頭後壁にて長く捨て置きますと危險な出血或は瘢痕性癒着などを起す事が少くないのでありますす、其外の事に就ては省いて置きませう。

六、血液の變化

血液の變化に就ては第三週間に山田學士がお話をする筈で卽ち色々やつてお目に掛ける筈でありますが大体の注意丈けを少し申し上げて置きたいと思ふのであります、黴毒患者の血液の變化を色々調べまして黴毒の診斷の助けを求めたものは是れ迄少くなかつたのでありますが何れも黴毒の固有の變化を來たさなかつたのであります、千九百〇六年一月所謂ワッセルマンの反應が出て參りまして始めて生物學的に黴毒の診斷を下す事が出來る樣になつたのであります、ワッセルマンの反應と申しますのはワッセルマンとナイセル、ブルック、三人の仕事でありまして白耳義の學者ボルデーとジャンギューー氏二人の研究した補體結合試驗を土臺にしたものであります、是れは次の二の現象を結び附けたものであります、今兎に羊の血球を注射して見ますると其兎の血清の中に羊の血球を溶解する所の性質卽ち血球溶解素が出來てくるのであります、今此兎の血清を三十分間攝氏五十六の溫度に溫めますと其性質が消ねてくる非働性(Inaktiviert)是れは其熱の爲めに血球溶解現象に必要なエルリッヒの所謂補躰と云ふものが力を失つた爲めでありますと斯う說明され

てあるのであります、此熱の爲め血球溶解の働を失つた卽ちイナクチビーレンされた兎の血清に熱を加へない所の卽ちイナクチビーレンしない所の外の動物例へばモルモットの血清を加へますと更に血球溶解の性質が現はれてくるのであります、この兎の熱の爲めにイナクチビーレンされた所の溶血性の血清を媒介体或は免疫体若しくは抗体等と申します。

次に傳染病に罹つた人の血清には病氣の黴菌を加へると云ふと夫れに結び着いてその黴菌を溶す所の性質があるのです、卽ち黴菌溶解現象が起つてくるのであります、卽ち黴菌に對して其人の血清の內に免疫体或は抗体が出來てくるのであります、所が若し此血清に熱を加へてイナクチビーレンすると其働がなくなる其處で又更に外の動物例へばモルモットのイナクチビーレンしない所の血清を加へますと更に此處に新しい補躰が加はつて然うして再び黴菌溶解現象が現はれてくるのであります、此關係が丁度囊の血球溶解現象と同じ關係を示すのでありまして何方も補躰を吸收する現象が其處にあるのでありますす、此二の現象を利用して其間に互に此補躰の取り合ひをさせるのが所謂ボルデット、ゲンギューの補躰試驗でありまして此試驗をワッセルマン氏が黴毒の診斷に應用したので或病人のイナクチビーレン(非働性)にされた血清に對抗素を加へ更にモルモットの非働性にしない血清卽ち補躰を加へました場合に若し其病人が黴毒を受けたものでありますなれば其血清

及黴毒に固有の對抗素とが一緒になりまして補躰を吸取る譯であります、そこで此の補躰が結び着いてあるか或は游離してあるかと云ふ事を見る爲めに先に述べました所の羊の血球と兎のイナクチビーレンした所の血清卽 Anbozeptor を加へるのでありまして居なければ卽ち此三つのものが互に結合して居りますと云ふと此後から加へた所のものに補躰が吸取されないのであります從つて血液溶解現象が起らずに此血球丈けが其試驗管底に沈む然うすると卽ち反應が陽性で此病人が黴毒を受けて居ると云ふ事になるのであります。

所が若し其病人の血清と對抗素との間に互に結び着くべき關係がなければ補躰が吸取されない事になる卽ち游離して殘てありますから其補體と夫れから兎の血清並に羊の血球とが結び着いて此處に血液溶解現象が起る卽ち此羊の血球が溶解されて血色素の爲めに其液が赤く染つて別に沈澱が起らないのであります、その時は反應が陰性で其病人が黴毒でない事になるのであります、是れがワッセルマン氏の黴毒血液反應であります。

此反應に於ける對抗素アンチゲンとして始めにワッセルマン及びブルツクは先天黴毒の肝臟の水製ヱキスを用いて大抵の場合に此黴毒患者に於ては陽性の成績を擧げたのであります、其黴毒患者の血清にはスピロヘーテーパリダーに向つての免液体(或は抗体)があるものと考へたのであります、所が千九百七年にミカヱリス氏

が健康の肝臟ヱキスを用ひても矢張り同じ結果になる事を見出され、尙化學的のものでレチチイン等を用ひても同じ成績になつたのでワッセルマン氏の初の考へが動いたのであります、卽ち此ワッセルマンの反應に於て現象を現はす所の血清中のものは恐らく一種の脂肪樣であらうと云ふ位の事で何か確かに判らない事になつてきたのであります併しながら黴毒患者の血清には、丁度免液体の樣に働く所の性質が出來てくる譯でありますから此れを診斷上に應用する事が出來るのであります、夫れでワッセルマンの反應なるものは理論上に於ては譯の判らないものでありますが實地上の價値はあるものであります。

此ワッセルマンの反應は黴毒に感染して後に凡て四週乃至六週間を經てから現れまして、黴毒の第二期に於て最も著明であります、乍併又脊髓癆(五十%)癲痺狂(九十五%)に於ても著明に現はれてくるのであります、乍併極く稀には著明に皮疹のあるに拘らずワッセルマンの反應が陰性であるものもあるのであります此外黴毒丈けでなく猩紅熱、癩病、マラリヤ、フランベジア、トロピカ(莓狀痘)、回歸熱、重症な脚氣なぎにも此ワッセルマン反應が陽性に現はれる事であります、尙此ワッセルマンの反應の陽性であると云ふ事は何時も黴毒の病毒が有ると云ふ徵になる譯には行かないのであります、乍併兎も角此反應は今現に黴毒に罹つて居るか或は以前其黴毒に罹つた人の血液の內に現はれてくる所の不思議な變化で御座います、其處で尙臨床上

の症狀及既往症等も參照して用ひますこと云ふこと確かに黴毒の診斷上應用すべきもので御座います、夫れから序に野口氏の例のルエチン反應と云ふものもあります一種の皮膚過敏反應でありますが是れは黴毒の初期には割合に現はれない寧ろ黴毒の後期に現はれてくる樣でありますので面白いのは治療を加へたものに餘計に現はれてくると云ふ事がある樣であります。

其外血液變化では血色素が少くなり殊に、第二の潛伏期の後に往々著明に蒼白色になりまして其血色素の量が五十%に下るものもあります、其高度のものに於きましては丁度萎黃病の樣な徵候を訴へるものもあります又黴毒の末期古い黴毒、先天黴毒等に於きまして臨床上には只貧血丈けを現はすものも少くない樣であります。

七黴毒の豫後

黴毒の經過が輕いか重いかと云ふ事に就て病氣の初めに少しも定める手掛がないのであります、先づ初めの硬結の惡性に就きまして其大きくて周圍に擴つて侵蝕性になる傾をもつたものに於ては後の經過も重い樣に見ゐるのでありますが乍併是れも餘り當にはならないのでありますが夫れから第二期黴毒の徵に就ても同じ事であります、夫れで必竟其病毒の毒力に關係あるものであるか或は其病人の反應によつて變るものであるか定め難い問題でありますが、然し是迄の經驗によつて見ますると其病人の反應卽ち個人性は其病氣の豫後に一定の關係を持つて居る樣であり

ます卽ち先づ其病人の體質に關係ある樣でありますが、結核或は其素質のもの卽ち結核性體質を持つた人に於ては黴毒の傳染に向つて强く反應があるのでありますが、それで結核菌とスピロヘーテーバリダーと一緒に這入りますること云ふこと互に競つて組織を破壞する樣に見ゐるのであります。

同じ樣に高度の貧血殊に內臟の疾病卽ち肺臟、心臟、肝臟、腎臟等の病氣がありますこと黴毒の豫後も惡い樣であります。

病人の生活法が又非常に其病氣の豫後に關係あるのでありますが總て不養生をすれば病氣の經過が惡くなる、殊に暴飲は夫れ丈けでも同じ心臟、肝臟或は腎臟の病氣を起し易いのでありますからして更にスピロヘーテーバリーダーと一緒になりますること云ふこと斯樣な內臟を二重に侵す譯であります、此上一般に酒飲家は必要な驅黴療法に堪へ難い傾があるのであります、尙黴毒の豫後に惡いのは睡眠不足、房事過度過度の心配過度の精神上の仕事等でありまして手廣い商人又は相場師及學者等は黴毒に罹りますること云ふこと重い神經系統の疾病を起し易い、斯樣な譯でありますから病人の體質其職業及生活法は此黴毒の豫後に就て先づ注意すべき點であります。

次に治療法の良否と云ふ事が又關係があるのでありますが、實際に此神經中樞系統の重い黴毒は治療の充分である丈け夫れ丈け少くなると云ふ事は此れ迄の經驗、統

計、動物試驗等も共に明かに示す事柄であります。

所が此處に一の問題がある、卽ち重い黴毒と云ふのは什麼ものであるか其定義が未だ分明していなると同じ樣に重い黴毒或は惡性の黴毒と云ふ言葉を用ひていまして も其考へられる事柄に多少の違ひがある樣であります、皮膚粘膜を强く破壞するもの及び主に骨の病氣を來すもの或は內臟例へば肝臟、心臟、腎臟殊に中樞神經系統の病氣を起すもの是れ等は皆其經過の惡い黴毒であるのであります、乍併豫後と云ふ上から診ますと云ふと惡性黴毒と云ふ樣な名は只內臟の重い黴毒の場合に保留して置きたいで早い時期卽ち先づ一年の間には此名を用ふる必要がない此代りに生命に餘り障らないけれども重い變化を來す場合には重症の黴毒と云ふ言葉を用ふると云ふ說が割合に廣い考への樣であります、卽ち侵蝕性の原發症候、度々の再發、膿疱性或は潰疱性黴毒疹殊にその早い時期に廣く出て來て全身症候、熱などを伴ふものは共に重症の黴毒であります。

そして非常に廣い考へでは此重症の黴毒と惡性の黴毒との間に一種の關係があるのであります、卽始めに度々再發を見るもの卽ち重症の黴毒であつたものは後には內臟の重い變化を起す所の惡性の黴毒になる事が少いと云ふ事であります、夫れで丁度重症の黴毒が惡性の黴毒になるのを防ぐ樣に見ゐる皮膚の表面に暴れ廻つたスピロヘーテーパリダーが內臟を破壞する力の乏しい樣に見ゐるのであります

此考へは無論總ての場合に嵌るものではありません、然し是れまでの經驗によりますると全くの間違でもない樣であります、又全く理屈の附かない譯でもありません始の間にスピロヘーテーが熾んに働きますと云ふと其毒素によつて身體の變調を來しまして多少或意味に於て免疫質を作るものと見做す事も出來るのであります、兎も角も皮膚に於ける重い黴毒と內臟の重い黴毒とは互に並行するものではないのでありますからして皮膚に於ける重い黴毒でも必ずしも悲觀するには及ばないのであります。

夫れから次に起る問題は何時黴毒が根本的に癒つたものと見做べきかと云ふ事であります、學問が段々進んで色々の理屈が判つて參りましたが此問題に向つては未だ充分に答が出來ないのであります今の所此問題の解決に向つて只病氣の經過、潛伏の長さ及び血液の反應を標準にする外がないのであります卽ち其病氣に罹つてから長く經過すればする丈け恐らく此毒物も次第に消失する樣に思はるゝので あります、乍併隨分長い潛伏期の後に再發殊に惡性黴毒の症狀の出てくる事もありますから却て油斷が出來ないのであります、夫れで潛伏期に就ては何うであるかと云ふと是れも誠に賴が少い、潛伏期の場合には別に外に黴毒の徵候がありませんが長い間淋巴腺の腫脹殊に肘腺の腫大を來すものであります、此肘腺の腫大は病毒の殘つて居るものを示すものであるか或は最早捨て置てもよいものであるか六ヶ敷

問題であります、次に若し臨牀上黴毒の徴候なくとも疑しい子供が生れますか或は流産若くは死産した場合に其親の黴毒が潜伏期にあると云ふ事は既にオカしい事でありますが、實際の徴候が現はれて居るのでありますから潜伏期と云ふ事はオカしいのであります。

豫後を極めるに今日の所で良い標準とされて居るのはワッセルマンの反應であります、今の學問の立場に於きましては此反應が著明に陽性であれば先づ其動物にスピロヘーテーパリダーが未だ殘つて居る徴と見做て居るのであります、乍併其反應の度合によつて病毒の强弱と云ふ事は見る事は出來ないのでありますと云ふのは既に其反應の度合を細かく極める事は六ヶ敷其上に此ワッセルマンの反應と夫れから病氣の度合が何れ丈併行するかと云ふ事が疑しいものでありまして既に臨床上に徴のあるに拘らずワッセルマンの反應が陰性の場合もありますそれで反應が陽性ならば病氣のあると云ふ事にはなりまするが陰性であるのを見て直ぐに病氣の全く癒つたものとするのは六ヶ敷譯であります、實際に段々陰性になつた所のワッセルマンの反應が又陽性となりまして且つ病氣の再發を伴つたものも少くないのであります、斯樣な譯でありますから先づ一年計りは度々調べて何時も此ワッセルマンの反應が陰性で然うして尙臨床上に少しも徴がないと云ふ樣ならば先づ癒つたものであらうと見做すべきであります、中には臨床上に全く無事で然も血液

反應が長く陽性であるものもあるです、斯樣な場合には豫後の判斷が甚だ六ヶ敷ので、無論油斷は出來ません譯でありますがワッセルマン反應の本性によつて見ますると此長く陽性で止まる所のワッセルマン反應を以て病氣の癒らないものであると見做す事も怪しい事でありますそれで斯樣な場合には從前の治療と其經過によつて手當を止めて見ても宜しいのでありますが其後の經過に注意を與へなければならぬのであります。

ワッセルマンの反應が陰性でありましても尙疑しい場合サルチルサン注射をやつて見るのでありますが此場合にはサルチルサン少量を注射して見るのでありますが若し尙スピロヘーテーパリーダーが殘つてありますると其爲めに刺戟されてワッセルマン反應の陽性に現はれてくる事があるのであります。

夫れから何時黴毒が全く癒るかと云ふ事の最も深い關係を持つて居まするのは結婚であります、此關係に就て確かな答をする事が六ヶ敷のであります、先づ醫者の立場と致しましては黴毒に感染して後に先づ四五年を經過しなければならないのでありますが又少くとも二年の間全く臨床上の變化がないものもなければならんのでありますが、尙間をあけてワッセルマンの反應試驗を反復致しまして先づ三回以上陰性の成績を確めて置かなければならんのであります、斯樣に致しましても尙恐らくは結婚しても差支がなからうと云ふ事の出來る丈けであります、卽ち斯樣な場合に

も尙惡い結果を見た事があるこ云ふ事であります、夫れで尙確かな事を云ひますれば斯樣な場合にも結婚をする前に尙一應充分の驅黴療法を了つて置く方がよい樣であります、先天黴毒の豫後に就ては子供が丈夫に生れて徵候の現はれてくるのが遲ければ夫れ丈け豫後もよい譯であります、黴毒の徵候を持つて生れたものは大抵死ぬるのであります、生れて二三週間の間に其徵候を現はしてくるものも先づ半分は助からない、夫れより後に徵候の出てくるものには豫後も次第によくなるのであります、夫れから晩發性遺傳黴毒七八歲から十四五歲になつてくるものは命に就ての豫後はよい、乍併身体の健康、精神狀態に於ては色々に變化を殘すものであります

八黴毒の療法

黴毒の局所療法も無論必要であります、こ云ひまするのは、これに依つて患者の苦痛を減じ、且混合感染を防ぎ尙ほ外の人に向つての危險を防ぐ譯になります、それで原發症、扁平コンヂローム、濕性丘疹等に甘汞を用ひ、粘膜乳斑にラング氏液を塗つたり或は深膿疱疹及び潰瘍にそれ〴〵の手當を加へましたり又壞死片を取り去る等は言ふ迄もない事であります、然し乍らナイッセル氏が動物試驗で確めた樣に、接種試驗の後八時間に局所を切除しまして、尙全身黴毒を防ぐ事が出來なかつた位で、その病毒の擴がる事は極めて早いものでありますから、黴毒固有の手當は殆んご常に全身療法であります、之れに用ひまする藥は非常に多いのですが、今の所で先づ水銀

ミサルバルサン及び沃度がその主なものであります、就中スピロヘーターバリダーに向つて直接に働く者ミ看做されてあるのが水銀ミサルバルサンで、沃度は只その產出物を吸收させる丈けのものミ看做されてあります。

沃度の製劑

沃度カリュウム及び沃度ナトリュウムが最も古く用ひられて居ります、又十%のヨードナトリュウム液の靜脈內注射もよろしい、其量を加減して行くミヨードも隨分効力があります。

水銀の製劑

何ミ申しましても、水銀は黴毒に向つて必要な藥であります、殆んご總ての黴毒徵候が水銀に依つて著明に消ゑ去ります、昔は隨分反對者もありまして黴毒第三期の徵候を水銀の中毒ミ看做した事もありました、實際以前水銀を無茶に用ひた丈けでなく、隨分豫期的に水銀中毒を起させるものもありました(藥は眩暈しないミ効力がないミ云ふ)然しこれは全く間違で、今では餘り身體を損はずに水銀の効力を見せる樣にせねばならない事になつて居ります、又水銀中毒ミ第三期黴毒ミは全く關係のないもので、第三期黴毒の徵候も水銀によつて著明に消ゑ去るのであります、尙又統計に依りますミ水銀を用ひないものに第三期黴毒の來る事が最も多かつたのであります、それから水銀がスピロヘーターに働く事は、動物試驗に依つても確められて

あります、所が水銀劑の種類と其適用方法に就ては、學者の見込みが色々であります、昔は隨分内服に用ひましたが、其量を加減する事により、又確かに一定の効力を見せましたが、然し其胃を損ない易ひのと、吸收させる量の不定である事も確かでありますから、餘り良い方法ではありません、それで今では、先天性黴毒の時に甘汞を用ひまする外には、餘り内服に用ひない事になつて居ります。

それで今の所、多數の人の考によりますと矢張り水銀軟膏の塗擦療法及び甘汞或は水揚酸水銀の注射が最も効力のあるものと看做されてあります、又近頃では水銀劑の靜脉注入をも用ひられます、これには昇汞又はヨムバリン(イスミユール)等を用ひます、然し私は此等の方法の總てを試みた譯でありませんから一々これを批評する譯には參りませんが、又其場合に依りまして又多少の手加減の必要があります、それで私の經驗によりまして只諸君の御參考迄に少しく遠慮なく自分の考を述べて見ようと思ひます。

塗擦療法は確かに効力の多いものには相違ありませんと言ひますのはその用ひます水銀の量は可成多量で、肺臓から吸收される事も多いに違ひはありません、それで之れを用ひ初めました時に著明に効力を見せますが永く續けた時には其割合に効力が少ないので、これは絶ねずその水銀蒸氣を吸込む爲めに多少藥の不感受性になり易い爲めの樣にも思はれます、又吸收される量を定める事が不可能であつて、殊

に又我國の樣な家屋の組み立に於ては、塗擦療法も考へものであります、斯樣な不利益のないのは注射方法に據るものであります。

所が注射方法に於て、溶解性の塩類或は不溶解性の塩類を用ひますかゞ又問題であります、兎も角も溶解性のものでは、吸收される代りに、又早く排泄されますから、度々注射をしなければならないので、不溶解性のものでは、徐々に吸收される代り永く身体の中に殘つて居りますから、時々注射すれば宜い譯であります、所で既にウエーランデルの研究によりまして示しました樣に、試驗管内での不溶解性は組織の中では強ち續くものではありません、ヒョッツヱン氏が一年もたつて後に組織の中で水銀結晶を見たと言つて居りますが、それは寧ろ除外例であつて、我輩の仕事では、それ程永く組織の中に殘るものではありません、兎も角臨床上の經驗に依つて、判斷するの外はありませんそれで我輩の經驗に依つて見ますると、溶解性のアズロール等よりも、不溶解性の水揚酸水銀の方が餘程よく効を奏する樣であります、それで最も効力の多いものとしては矢張ザリチール酸水銀の筋肉内注射を推賞いたします、これに以前はパラフヰン乳劑を用ひましたが我輩は精製胡麻油乳劑を十%の液としまして一週二回の割に〇、五宛を注射いたしますそして此不溶解性の乳劑に於きましては容器の底に水銀劑が沈澱いたしますから用ひる時に硝子棒でよく混ぜる必要がありますその注射部位は主に臀筋内に於て血管及び神經を避くる樣注意して行

ふのであります、これにはグロス氏の三角測定法等がありますが方法が複雜でありますから我輩は極平易に出來てそして此等の危險を避くべく臀部膨隆を上下左右に四分し其外上方に於て行ふ時は大なる間違はないのであります、尙注射の技術としては無論筋肉內注射でありますから局所を消毒の上注射針を皮膚に直角に且迅速卽ち一氣に筋肉內に到らしめ然る後一旦針から筒を拔いて見ますと若し血管に針の尖端が入つて居る時は血液が針から漏れて來ますから此の血液が出て來なければ徐々に水銀劑の注入を行ひます、そして注射後は局部を充分に按摩しますとよく吸收されて又後の痛みも少ないのであります。

又水銀注射の後に肺臟のエンボリーを起しましてチアノーゼ、呼吸困難、咳嗽等を來すことがあります、これは注射器の消毒の時にアルコホルを用ひますと油がアルコホルに一部分溶解しまして吸收され、これが血中に入りますとアルコホルは血淸中に溶解しまして再び油類が分離しましてエンボリーを起すものであると私は理屈を附けて居ります、ですから注射器の消毒にはカルボール水の方が安全でよろしいのであります。

痛みの强い爲めに、此水揚酸水銀の代りに、イマミコール、エンバリン、アズロール等を用ゆる事があります此等は又筋肉內注射をやるのですが前二者は又靜脈內にも注射し得るのであります。

水揚酸水銀の副作用としまして、齒齦炎汞毒性大腸加答兒(是れは隨分激しいのでありますると恰度赤痢の樣に血液粘液便を催す事があります、それで水銀を注射したのを秘密にして居つて赤痢樣の下痢して家族幷に醫者を驚かしたと云ふ樣な例もありますが)汞毒性腎臟炎(多少蛋白尿を洩す事もあります)汞毒性皮疹是れは矢張特異性のあるものに能く參りますので丁度痲疹或は猩紅熱樣の紅斑を多數に現はすものが多い樣であります、夫れから稀でありますけれども汞毒性多發神經炎、汞毒素振顫症、汞毒性惡液質と云ふものがあります。

水銀の注射の禁忌と致しましては絕對的に禁忌は無いのでありますが初めから蒼白色で蛋白尿或は糖尿を洩すもの若くは殊に高度の結核を伴つて居りますものには非常に注意して用ひねばならんのであります、又中には水銀に對して全く特異性を持つて居りまして少量の水銀でも直ぐに高度の齒齦炎或は腸加答兒を起すものがあります、然う云ふものは何うも致方が御座いません。

水銀療法の間の攝生法としましては齒齦炎を豫防する爲めに初めから含嗽劑を與へて置きます、酒と煙草は何うも能くない樣であります(詰り咽喉加答兒等を起し易いからであります)尙空氣の良い所で適宜の運動をすると云ふ事が宜しいので餘り激しい運動或は非常に込入た精神上の仕事は避ける方が良い樣であります。

サルバルサン、ネオサルバルサン、サルバルサンナトリユーム

戰爭の御蔭で日本にもサルバルサンが出來る樣になりまして、製劑は御承知の通り「アルサミノール」「ネオ、アルサミノール」「アルサミノールナトリユーム」「ユーラミゾール」「ネオユーラミゾール」「ユーラミゾール、ナトリユーム」「アーセミン、ネオアーセミン」「ネオネオユーセミン」「タンバルサン」「ネオタンバルサン」其外「タンバルサンナトリユーム」も次第に出て來る樣であります。

サルバルサン并に其製劑が微毒に有効であるこ云ふ事は今更申し述べる迄もない事であります、尙日本製の製劑が從前用ひました獨逸製のものに比べて少しも劣る事がないこ思ふのであります、此日本製の內でも早く出來上つたものもあり又大變立ち遲れたものもありまして製劑が區々でありましたが今日では孰れも皆同じ樣であります、無論其製劑を作りました初の間には藥の揃はなかつた事もありましたが是れは獨逸製日本製共に同じ事でありまして獨逸製のサルバルサンにしましても初めに出て參りました時分には揃はなかつた樣に思ふのであります、無論隨分毒素に富んだものでありますからして益々製造者の注意を願ひたい次第でありますが今日は既に我々が安心して此日本製のサルバルサン并に其製劑を用ふる事が出來るのは誠に喜ぶべき事であらうこ思ふのであります。

サルバルサン并に其製劑の組立等に就ましては皆さんも既に御承知の事でありまするから此れは省いて置きます。

用法に就て筋肉內注射こ靜脈內注射の二が主なるものであります、乍併筋肉內の注射は子供の樣な仕方のない場合の外になるべく用ひないが宜しいであります、前に述べました自分の經驗の樣に恰度注射後一年以上も其藥劑が注射部に殘つて居りまして其後に俄に吸收された樣な事もあつたのであります、斯樣な譯で只今では殆んご總て靜脈內に用ひて居るのであります。

舊サルバルサンに於ましてはアルカリを加へてアルカリ性の液こして用ひますネオサルバルサン及びサルバルサンナトリユームでは其儘蒸溜水に溶すか或は〇、四%食鹽水に溶しまして用ひまするのであります、此舊サルバルサンの液を作りまするにも前方は隨分濃厚な食鹽水を用ひて居りましたが今日では矢張極く薄い〇、四%位の食鹽水を用ふる樣にして居ります、其注入液に六百倍から五百倍位薄めて用ふる所の稀釋液こ濃厚液(是れは十瓦乃至二十瓦の全量こする)この二つあります極く稀釋した所の液に於きましては其藥劑が全身に循環するこ云ふ利益がある譯であります、乍併一方には水禍(Wasserfehler)并に食鹽熱等の恐れが多い譯であります濃厚液に於きましては斯樣な水禍或は食鹽熱等の恐れがありませんが其代に藥劑が一樣に循環しないこ云ふ缺點があるのであります、是れは田村春吉君が動物試驗で證明して居ります、乍併ネオサルバルサン或はサルバルサンナトリユームに於きましては私共の經驗では極く徐々に注射を致しますれば濃厚液こして用ひまして

も殆んど差支がない樣であります、只舊サルバルサンに於きましても隨分濃厚液として用ひて居りましたが其アルカリを加へまする度合が可なり六ヶ敷ので少しアルカリを餘計に加へますること副作用も多い樣であります、夫れで此舊サルバルサンに於ては寧ろ稀釋液として用ふる方が良いこと思ひます、舊サルバルサン、ネオサルバルサンの內で孰れが最も能く利くかこと申しまするに是れも學者の考へが一致してゐない樣でありまするが其內で舊サルバルサンが心持能く利く樣に思ふのであります。

靜脈內注射は主に肘關節に於きまして皮下靜脈(貴要靜脈或は中靜脈)を選んでやるのが都合宜しいのであります、靜脈穿刺を行ひまするには多少の手際を要する樣であります、第一に注射針の尖が銳利でなければならぬ、其靜脈が充分に膨らんでゐなければならないのでありますが注射上部を護謨管で輕く縛つて然うして同時に手を握らせて同時に力を入れさせること能く膨らんで參ります、或は其護謨管の縛り方が足ぬこと云ふこと能く靜脈が膨らんで來ないが又餘り縛り方が强いこと却て膨らんで參らないので其邊は少し注意をする必要があります、斯樣に注意しましても尙靜脈が細くて能く膨らんで來ない場合があります、斯樣な場合には湯で溫めるのであります是は溫い湯を手拭に浸しまして暫く其場所を溫めるか或は入浴をさせて其後でやつても宜しい、又其局所を指或は布片等で輕く打ちますること大抵膨らんで參り

ます然かも皮下脂肪組織の少いものに於きましては通常此靜脈が著明に膨れて參りますが皮下脂肪の多いものに於きましては一般に靜脈が細くて一寸外に現はれないのです、僅に指先で靜脈を觸れる位であります、斯樣な場合には能く其靜脈の經過を見定めて於きまして其膨みの眞中で周邊部から中心に向つて斜に針を刺すのであります、脂肪に富んだものに於きましては丁度枕木に挾られて居る樣に脂肪組織に支へられて靜脈の動く恐れがないのであります、所が脂肪に乏しいものに於きましては假令靜脈が著明に現はれて居りましても正面から針を刺そうこと致しますること横に動いて針の外る事が少くないのであります、斯樣な場合には側部から針を斜に突き刺しますること良いのであります、然うすること皮膚こと筋膜の間に於て靜脈が挾れて居りますからヨシ其靜脈が多少動きましても針の外れる恐れがないのであります、既に針の先が靜脈の內に這入ますること此針の穴から血液が出て參りますから判ります、或は少し吸ふて見ましても宜しいのであります、其處で其靜脈の中に這入ました所で尙少し計り針の先を靜脈管孔內に進めて然うして針の外れない樣に努めるのであります、無論其場合に靜脈壁を全く貫通しない樣に注意せねばならん譯であります。

其藥液は正しく靜脈の中に這入ねばならぬのであります、若し靜脈の外に洩れますること云ふこと後こで非常に腫れて參りまして痛みを訴へ尙甚しい時には組織の壞

疽を來す事も鮮くないのであります、夫れで若し此藥液が少しでも靜脈の外に洩れて其處に蕁麻疹樣の腫脹が起れば直ぐに其注射を止めて然うして外の場所を選んでやらねばならんのであります、夫れで若し靜脈穿刺が非常に六ヶ敷場合には少し皮膚を切開し靜脈を露出して注射しても宜しいのであります、尙何うしても仕方のない時には筋肉内に注射する、厄介な事には一度サルバルサンを注射致しまするこ往々俄に肥つて參りまして非常に脂肪が增ひて參りますこ其爲めに初め靜脈穿刺が容易く出來ましたものでも後になりまして段々六ヶ敷なるのもあります。

サルバルサン幷にネオサルバルサンの用量

極く丈夫な人に於ての全量はサルバルサン〇、六或はネオサルバルサン〇、九まで用ひて良い事になつて居りますが是れは歐羅巴に於ける用量でありまして日本人にては先づサルバルサンが〇、四ネオサルバルサン〇、六瓦位迄では宜しい樣であります、サルバルサンナトリユム卽ちネオ、ネオ、アーセミン、ユーラミゾールナトリユームはネオサルバルサンこ同じ分量に用ひて良い事になつて居ります、女及男子にても虛弱なもの、第二期の黴毒の熾んに發疹する時期及短い時日の間に度々注射を反復する場合には又多少の手加減をする筈になつて居るのであります、所謂假性黴毒こ云ふて居りました脊髓癆幷に進行性痲痺狂等に於ましては殊に此病竈反應を恐れます爲めに寧ろ稍々少い分量を選ぶ事になつて居ります、尙人々のサルバルサン

に對する反應を見る爲めには最初の注射丈けに少々少ない分量を用ひる樣にしても宜しいのでありますが、是れは私は餘りやつてをりませんけれこも喧しく云ふて居る人もあります、夫れから子供に於ましては一キロに對してサルバルサン〇、〇〇五から〇、〇一位の割になつて居ります。

サルバルサン注射後の反應に就ては初め此のサルバルサンの出て參りました頃に比べますこ今日では非常に少くなりましたで、是れは必竟此の消毒の行屆こ云ふ事こ新しい蒸溜水を用ふる事になつた爲めに所謂水の禍卽ち水禍のなくなつたのこ、餘り濃厚の食鹽水を用ひない樣になりました事が其結果の良い主なる原因の樣であります、尙又初めて賣出した製劑の中には多少揮は無い所もあつた樣に思はれもするのであります、兎に角今日では初の時の樣に反應が起る事が割合に少いのであります、今日では極く高い熱を見ますのは殆んこ只第二期黴毒の開花期こ云ふ時でありまして然も此の反應を見る事が極つて居る譯ではなく夫れも少いのであります、乍併極く輕い熱を見る事は少くない樣であります、其外間々嘔氣、嘔吐、及び下痢を見る事があります、殊に注射前に餘り食事を餘計に取つて居るこ此の嘔吐が多い樣であります、心臟の障害を見る事は甚だ稀で時こして注射の間に顏に充血を來して緩くなる併し斯樣な場合には一寸姑くの間中止して次に極く少々宛注射を致しますこ大抵無事に注射を終る事が出來るのであります。

注射後の養生法は格別に反應がなくとも翌日までは成べく靜にして置く方が宜しいのであります、マア成べくは入院をさせて注射するのが宜しい夫れで已むを得ない場合には其分量を加減するが宜しいのであります、注射をしましても其儘に四五分若くは十分間計り靜に寢かして置く方がいゝ樣であります、隨分注射をして直ぐ立たすと急に心臟衰弱を起して倒れる樣な事があり得るのであります、然しこんな危い事は滅多に有る事ではありませんが滅多にでもあつた時には取返の附かぬ事であります、尙注射後四五日の間は殊に多量に大腸に向つてサルバルサンが排泄されますからしてなるべく粘膜表皮を損はない樣な消化し易い食物を用ひます便通を善くさせると云ふ事が必要であります、是れまで色々中毒症狀を起したものに注射前から便秘して居たものが多い樣であります、斯う云ふ譯でありますから注射前から若し便秘があれば下劑を與へて置く方が宜しい。

サルバルサン注射の副作用

其副作用は先づ其用ひ方によつて筋肉内注射に於ましては著明な局所反應を見るのであります、隨分局所が腫脹してナカ〳〵痛がる又靜脈内注射に於ましても往々强いアルカリ性の液を用ひた場合には注射後に局所の靜脈炎を起したり靜脈にトロンボーゼ等を見る事があります、隨分喧しいのは例の水禍でありますが是れは殊にエールリッヒ及ワッセルマンが唱へた者でありまして必竟注射液に用ひられ

た蒸溜水が全く新しくないものに於きましてはヨシ充分に消毒しても其中に澤山黴菌体が含れて是れが注射の後一二時間に於ける熱の原因であると云ふのでありますで、此熱に於きましても時としては蛋白尿及心臟衰弱等を伴ふ事がある樣であります、乍併注射の後にくる所の熱が何れ丈け此所謂水禍の罪であるが何うかに就ては是れは問題であります。

次に食鹽の副作用に於きまして是れも確に定め難い問題でありますが併しながら普通食鹽水丈けを注射しましても熱の出る事は確であります、尙隨分其爲めに蛋白尿を伴ふものもあるのであります、夫れで今日ではなるべく薄い食鹽水を用ひ或はネオサルバルサンの時には殆んど全く食鹽水を用ひない樣になつてくるのであります、其外蒸溜水を作る蒸溜器から出てくる所のアルカリを其副作用の原因と見做して居る人もあります是れも却て判り難いものであります、サルバルサン其ものから來る所の副作用で注射後に於ける顏の充血、嘔吐、下痢是等は既に述べた樣な事で餘り跡に證據を殘さないものであります、夫れよりも恐るべきものは、此の注射の後四日乃至十日位にくる所の高度の黃疸であつて往々急性黃色肝臟萎縮の樣な症狀を現はして遂に死亡するものもある、是れは靜脈内注射に於てもある樣でありますが殊に筋肉内注射の時に多かつたのであります、恐らくは既にある所の肝臟障害が此の副作用を助ける樣に思はれるのであります、然う云ふ譯でありますから曾て

黃疸に罹つたものにはなるべく注射を控目にするが良いと思ふのであります、尙便通の惡いもので此の黃疸を見る事が多い樣でありますから、夫れでありますからしてなるべく注射の前に便通を善く整へて置くが宜しい樣であります又急性腎臟炎(大抵一時性のもの)及び往々熱發と共に虛脫狀態に陷る事があるのであります。

殊に黴毒の早い時期に於て注射の後凡そ三四時間を經てから熱發して間もなく其熱のなくなる事がある、是れは必竟其藥劑によつて黴毒病菌のスピロヘーテーバリーダーが死んだ爲めに出てくる所のトキシインの爲めに起るものとエールリッヒが見做して其處でスピロヘーテー熱と名けられて居るのであります、此のスピロヘーテー熱は此の水禍の爲めにくる所の熱よりも此の遲く三四時間してくる夫れが區別點であると云ふのであります。

尙副作用に就て注意すべきは精神再發症狀、腦實質炎であります。

此の神經再發症是れは腦神經殊に聽神經に一番多いと云ふのであります、第二期黴毒に於ても往々聽神經の變化を起して陰暈并に重聽を來し稀には全く聾になるものもあります、此の聽神經の變化がサルバルサン療法の間により屢々くると云ふ事は確な樣でありますでエールリッヒは此の症狀を以て必竟スピロヘーテーが充分に殺されなかつた結果であると見做して居るのであります、卽ち色々の外傷が黴毒の再發を促す樣に古い蒸溜水の中に於ける黴菌の體から起る所のインハルト(內

容)及其爲めに起る所の外傷性の神經周圍炎と云ひまして此の聽神經の中に殘つた所のスピロヘーテーが其發育を促して其結果神經再發症狀を起すのであると云ふのであります、必竟聽神經の樣に此の細い骨の管孔の內にある所の神經に於きましては其中に含まれて居る所のスピロヘーテーにサルバルサンの働が屆き難いと云ふのであります、然うして孰れにしても斯樣な場合に更に水銀及サルバルサンを用ふる事によりまして其症狀の消散する所を診ますること此の神經再發症狀はサルバルサンの中毒症狀でなくして寧ろ黴毒の再發であると云ふ事で又確かな樣であります、隨つて此の神經再發症はサルバルサン療法の禁忌ではないのであります。

其れから恐るべきものは此の出血性の腦實質炎であります、是れは非常に少いものでありますが、通常熾んに發疹する早い時期に來るのであります、私は幸にして未だ是を實驗して居りません、其症狀としては頭痛、脉膊の減少精神溷濁嘔吐等卽ち腦の壓迫症狀を現はしてくるのであります、消毒の惡い爲め或は水禍の爲め注射の後に直に腦實質炎を起して死ぬものもある樣でありますが殊に恐るべきは黴毒第二期の開花時期に參りますのは注射の後二三日を經て突然に腦實質炎を起してくると云ふのでありましたで、是迄の報告には大抵死亡して居ります、エールリッヒの說では旣に黴毒に罹つて居る所の神經系統がサルバルサンの强い働によつて餘り强い反應を起す爲めに斯樣な變化を來すのであると云ふて居ります、それで黴毒の

開花期即ち熾んに發疹をする樣な場合に於て神經系統の多少共侵されて居る樣な場合には先づ水銀劑を用ひて少し治療して置きまして夫れからサルバルサンも躰々〇、三までの分量を注射する樣にしまして此の腦髓に於ける餘り强い反應を防ぐ樣に努めるやうになつて居ります。

患者の特異性によつて起る所の副作用にしましては擧げますると云ふと消化障害、黄疸、腎臓炎等も多少特異性に係はるものと見做す事が出來ますので即ち砒素製劑に對して特に過敏であると云ふて宜い譯でありますし尤も此の特異性に關係して居るものと見做ますものはサルバルサン皮疹であります、此のサルバルサン皮疹は餘り稀れではありません、其形は色々でありまするが廣く播種狀に現はれて參りまして麻疹或は猩紅熱の樣なものもありまするし或は蕁麻疹或は多發性滲出性紅斑の樣なものもあります、此の皮疹が悉く皆砒素の爲めに起るものであるが何うかに就ては多少の議論がありますが即ちサルバルサンの作用によつて血中に出來る所のスピロヘーテーのトキシン或はアンチトキシンも一緒に發疹物の原因であると云ふのであります、其理由は此の發疹が注射の後往々數日を經てからくる所があると云ふのであります、乍併私は此のサルバルサンを皮下に注射して一年餘りを經て俄に吸收されて然うして丁度麻疹の樣な發疹物を來したのを診た事がありますが何うも不思議なので尿を醫化學で檢べて貰ひましたが確かに著明な砒素の反應を

認めたのであります、兎も角注痕の後時を經て黄疸、熱發、肝臓の腫脹等を起すものに屢次麻疹或は猩紅熱の樣の發疹物滲出性紅斑或は出血性紅斑、若くは環狀紅斑を伴ふ事が少くない樣であります。

外の砒素製劑の樣に又屢次ヘルペス、ツオステル(匐行疹)の發疹が出まして可なり痛を訴へるものであります。

極く稀れに注射の後突然瘋癲及癲癇樣の障碍を現はして二週間計りで又急に癒る樣な事がある、サルバルサン精神病として書れてあるのであります。

高度のサルバルサン中毒を起した場合には例之殊に黄疸及熱發……黄疸に於きましては未だ宜しう御座いまするが熱發を伴つた場合夫れから皮疹を伴つた場合は何うするか是れは定まつた方はありませんが先づ早く食鹽水の注射及腸の洗滌等を行ふが宜しい樣であります、强心劑其外に手當をする事は云ふ迄もないのでありますが此處にサルバルサン死亡をやりましたのが三回あります、一例は筋肉内注射の時に高度の黄疸、熱發等を起して遂に死亡致しましたが是れはサルバルサン死亡でありました、後と の二例は少し判らないでした、此れは皮膚科學會に報告して置きましたが一例は患者の不攝生が大いに助けた、入院させてあつた患者が病室に行つて見ると患者が居ない何うしたかと調べたらば全く相場の景氣の良い時期だから早速馳けて行つて荐に手を振つた相であります、所が一時間計りしてから少し熱が出

て麻疹の樣な發疹が現はれて來た、其の紅斑が段々進んで出血性紅斑ミなつて一時間計りして遂に倒れたのでありますモウ一例は心臟病があつたのでありますが、何うしても心臟病のあるに拘らず注射を希望される(外の醫者から是れは黴毒性の心臟病であるから注射したらば癒るだらうミ云ふたのが先入主ミなつたらしい)ので無論分量も少くして入院させて三日間計り病室に居つたが頭の工合も快くなつたので勝手に退院して終つた四日目から模樣が變つて段々心臟の障害を起して更に二日位經過してから私が診ましたが遂に心臟衰弱を起して間もなく死亡しました、其人が退院をしてからの色々の事情を聽いて見ましたら家で夫婦喧嘩して大立廻をした、其夫婦喧嘩の後ミで死んだミ云ふ事であります、然う云ふ事がなかつたら或は助かつて居つたかも知れぬのです然う云ふ工合で中には夫婦喧嘩までも濡衣を着せられて居る憐なサルバルサンの寃罪もあるのであります(笑聲起る)

サルバルサンの禁忌は心臟病で代償機の障害のあるもの、心臟筋肉に變化のあるもの及其疑のあるもの、高度の動脈硬變、高度の腎臟炎、肝臟病、既に進行した所の結核等をやつて居るもの惡疫狀態の老人等にはサルバルサンを用ひないがよい事になつて居ります、夫れで危險な事を論しましても尙注射を望むものには注意して極く少い分量を用ひて置く方が宜しいのであります、夫れから糖尿病に對しては餘り進んだものでなければ心臟の障碍のない限りサルバルサンを用ひて良い事になつて

居ります氣管支炎には前方はサルバルサンは禁忌になつて居ります。

黴毒療法

全身黴毒療法に就て……全身驅黴療法を如何に行ふべきかミ云ふ事に就きましては非常に六ヶ敷問題であります、無論此のエールリツヒのサルバルサン療法によりまして黴毒療法は非常に進んだには違いありませんが未だ却て此問題に向つて確かな解決を與へる所には到らないのであります、只各の實驗によりまして凡の見込を立て進めるの外はないのでありますが就中今の所最も確な遣方であらうミ思はれるものに就て少し申し述べる積りであります、先づ此の黴毒療法の重なる問題は次の樣に分ける事が出來るのであります。

第一は驅黴療法を何時始むべきであるか

第二は如何に其治療を繰返すべきか

第三その各々の驅黴療法を如何にすべきかミ云ふのが先づ此の問題であります

第一の驅黴療法を始める時期に就ては隨分長く議論をしたものでありまして、私も亦此の所謂待期的療法を唱へたものゝ一人であります、夫れで詰り此の水銀及沃度の頓挫的効力が割合に弱いものでありますから寧ろ最も熾んに免疫質の出來相な時を待つて治療をする方が利益であるミ考へたのであります、乍併より強く働く所のサルバルサンの出て參りました今日では最早斯樣な必要がない譯であります

其處で今では孰れも黴毒の診斷のつき次第治療を始むべしと考へて居るのでありますす臨床上の徴候の外に尙スピロヘーテーパリダーを調べて然うして早く診斷を確かめる事も出來るのでありますす、夫れで黴毒療法は今日では成べく早いのが良い譯でありますす、ワツセルマンの反應も此の早期療法によつて遂に現はれずに濟むが或は此の反應が現はれても早く消ゐるのでありますす卽ち早期療法によつて餘り深く身体の變調を來たさなくて濟む譯でありますす、乍併未だ診斷の確でないもので只用心にまで黴毒療法を用ふると云ふ樣な事は考へものでありますす、と申しまするのは斯樣な場合には一生涯先に患つたのが果して黴毒であつたか何うか判らずに迷ふ恐れがあるのでありますす、殊に今日でも此の早期療法によりましても又總ての場合に於てキツト早く根本的治療が出來ると云ふ譯ではない樣でありますす、夫れで成べく色々調べて早く診斷を確めると云ふ事は宜しいのでありますが、然も尙疑はしい場合には矢張確に診斷の附くまで待たねばならんのであります。

第二此の治療を如何に繰返す事に就て

一通り治療を用ひましても隨分再發を見るのでありますす卽ち此の驅黴療法を反復する必要があるのでありますす、如何に此の療法を反復すべきかが又問題でありますす、其方法に就きまして症候的療法と慢性間歇的療法との二に分れて居るのでありますす、症候的療法は臨床的症狀を目當にするのでありまして症狀がなければ繰返さ

すに症狀を診てから繰返すと云ふのでありまして詰り敵の見ゐないのに鐵砲を放つのは無益であると云ふのでありますす乍併潛伏黴毒と既に癒つたものとを見分る事が出來ないのと黴毒其ものが非常に頑固に再發する性質を持つて居る外に殆んど黴毒の遺傳として關係のある等によりまして今日では一般の黴毒の樣な頑固な慢性の病氣には又慢性の治療法を行ふべきであると云ふ所の卽ち慢性間歇的治療法を用ふる事になつて居るのでありますす、是れは殊にサルバルサンの出てゐない時分にフェルニエール及ナイセル兩氏の唱へたものでありまして初の二三年の間每年二回充分に治療法を行ふのでありますす其一回の治療には凡そ二個月掛るのでありますから其治療の間に何時も四個月の時を挾む譯でありますす、然うして四回乃至六回治療を反復するのでありますす。

無論其病人の模樣によりまして手加減をせねばならないのでありますす、卽ち非常に虛弱なもの、重い結核ある場合なのでありますす、殊に非常に病氣を恐れて所謂黴毒恐怖症の爲めに苦んで居るものに對しては又此の杓子定規が却て禍をするのでありますす、夫れでありますから斯樣な此病氣を恐れる患者に對しては何時も都合のよかつた例を擧げまして或時はお洒落も混ぜて成べく精神を慰めて然うして治療法にも取捨をしなければならないのでありますす又反對の場合で極く輕卒で養生をしないものに於きましては寧ろ充分に其病氣の恐るべき事を諭させねばならんので

あります。

黴毒の症狀の輕重と云ふ事が其治療法の標準にならないのでありますと云ひまするのは初めに輕い症狀でありましても後に恐るべき變化を見るものもあつて又初めて重い症狀を現はしたものが後に非常に良い結果を取るものもあります、何れにしましても成べく早く且成べく充分に初の手當を致しますれば根本的に癒り易い樣であります。

二三年治療を致しました後には其經過を診て若し尙再發をした場合には更に其療法を加へる、ワツセルマンの反應が陽性であれば又直ぐに治療法を反復すべきか何うかと云ふ事に就ては是れは六ヶ敷問題でありまして未だ議論が定らないと云ふても宜しいのであります、詰りワツセルマン反應其ものゝ本性が先に申しました樣に判らないのでありますから只其反應丈けによつて治療の方針を定めるのは六ヶ敷のであります、乍併ワツセルマン反應が陽性に出る事が屢次再發の前觸となる事があるのでありますから斯樣な場合には治療法の足らないよりも寧ろ過ぎる方が良い樣であります、尙一通り手當の濟んだ後にも尙姑く始終血液檢査を反復して診るべきであります、乍併神經衰弱幷に黴毒恐怖症の場合には無論多少の手加減をしなければならんのであります。

第三　一と回りの黴毒療法を何う云ふ風にやるか

是れも其の病氣の時機に依つて無論多少の手加減をせねばならぬ譯であります、で此の一と回りの治療法が充分でない時は幾度かその治療法を繰返しても猶ほ再發を見ることもありませうし、若し其の治療が充分であれば一と回りの手當で濟むことがあるかも知れないのであります、若し一と回りだけで濟まない時にはそれを反復する度に回數を減じ或は其の間歇時を短縮することも出來る譯であります。

そこで此の一回の治療法をどの樣にすべき乎、或はサルバルサンを用ゐるが宜いであらうかと云ふことになりますると、是れも亦た定まらない問題であります、無論水銀だけで濟んだこともありましたやうに又サルバルサンだけでも濟むことが出來る筈であります、乍然今日までの經驗に依りますると、サルバルサンだけに依つては、は黴毒の根治しないことは確かな樣であります。

又是まで用ひられました水銀でも隨分強い働きがある樣でありますから今の所では成るべく多くの武器を持つて成るべく強く敵を包圍攻擊するが宜いと云ふ考によりまして、サルバルサンと水銀或は沃度を併用する所の謂ゆる混合療法を用ゐることになつて居るのであります、私は是れまでたゞ一人の病人に於て第一期黴毒に陽性のワツセルマン反應を呈したもので謂ゆる一週間毎にネオサルバルサンを七回用ゐまして、其後二年半以上全く無事で且つワツセルマンの反應が陰性になつたのを經驗しただけであります、それが一番長く經過を觀察し得たものでありまし

て、其外は大抵再發の爲めに度々反復して居りますので尙ほ水銀を併用して居りますそこで此の混合的療法を如何に行ふべきか、これも亦一の問題であります。

水銀の用ゐ方に就きましても既に申しました通り色々あります、塗擦療法では十二週間、注射療法に於きましては十二乃至十五週間と云ふことになつて居ります(一週間に二回づゝ)。

水銀とサルバルサンの組合せに就きましては是れも考が色々に分れて居る樣でありまして、或は初めと終りにサルバルサンを用ゐる人もあります、(卽ち初めにサルバルサンを用ゐさうして一と回りの水銀を用ゐて終りにサルバルサンを用ゐる)、或は初めと中頃と及び終りの三回之れを用ゐるもあります、或はサルバルサンを三回乃至六回用ゐよとホツフマンの如きは主張して居ますが又五回用ゐよと云ふものもあります、近頃亞米利加のベストとかいふ人の如きは治療の初めに於て毎日引續いて三回或は四回サルバルサンを用ゐよと言つて居りますが日本人に之れは適しないと私は思ひます、先輩の旭博士は病氣を時機に依つて次の樣に申して居ります、第一期はサルバルサン量は一瓦半とザルチル酸水銀の注射を十五週間、第二期にはサルバルサン二、〇とサルチル酸水銀十五週間、第三期に於てはサルバルサン三、〇水銀を十五週間。

兎に角黴毒の早い時期に於きましては治療の奏効が著明に現はれまするし、遲い

時期に於ては一般に根治し難いやうであります、それで其の時期に依つて多少の手加減をしなければならぬのは無論の事でありまするが、殊に其の初めの治療を充分に行ふが宜いやうでありまして、卽ち水銀注射を十五週間の外に尙ほサルバルサンの注射を三乃至六回位ゐは通常必要なやうであります、此の一と廻りの治療に就きまして大抵の黴毒症狀は早く消散しまして尙ほワツセルマンの反應も大抵陰性になる樣でありますが、ところが斯樣に治療を加へまして若も尙ほ黴毒症狀が全く去らないか或はワツセルマンの反應が陽性であるかの場合には更に續いて治療を加ふべきかと云ふことは又定め難い問題でありますが、爲めに經過の非常に頑固な場合には黴毒徵候の有る無しに拘はらず暫く治療を休みまして、其間沃度を用ゐまして卽ち一定の間歇時を置いて其の後治療を反復するのが宜いやうであります、此際此の徵候と身體の模樣によりまして間歇時にも多少の取捨をすべきは無論の事であります。

後の治療に於きましても初めの治療と同じ樣に水銀及びサルバルサンを用ひた方が宜ろしい樣でありますが場合に依りましてはサルバルサンの數を減らして或は全く之れを廢めるが宜いと言ふてゐる人もあります、實際にサルバルサンの性質と其の價の高い爲めに水銀と同じ樣にいつまでも之れを反復すると云ふことが場合に依つて難つかしいこともありまするし、又考へ物であろうと思ふのであります

一ヒ廻りの治療の終りに三乃至四週間沃度製劑を用ゐまするこヒは又非常に助けになります樣でありますし、又殊に護謨腫の時期に於きましては先づ沃度を用ゐるヒ多少其の病的產物を吸收せしむる、然る後に水銀及びサルバルサンを用ゐるのも宜しいやうであります。

以上は一ヒ廻りの治療の方法でありまするが、ヒれが最も良いか、又何う云ふ風にすれば其の反復する數を減ずるこヒも出來る乎斯樣な事は此後長い間多數の經驗に依つて極める外はないのであります。

九　軟性下疳

軟性下疳の原因は千八百八十九年にヂュグレーから見出されました重復桿菌であつて一千九百年に佛蘭西レングレー、ブザンソンなどが血液寒天に純培養を行ひましたが千九百〇九年アルベルド、ゼッラー氏が普通の培養基に培養するこヒを成功したのであります、それから明治四十四年に大阪府衞生課長の上村行彰氏が之れを更らに研究しまして卵黃アガルに少し赤みを帶びたコロニーの出來るこヒを見出しまして尙ほ下疳ワクチンを作つて治療上にも應用する樣になりました。

軟性下疳の症狀に就きましては細かいこヒは省いて置きますが其の症狀で唯だ注意すべきこヒは硬性下疳ヒは違ひまして軟性下疳にはいつも立派な潰瘍を造りまして、さうして著明な浸潤硬結を作らないこヒであります、其外硬性下疳ヒ違ひまする所を擧げるヒ此の軟性下疳には自家傳染をする事が出來まするので其の數は多發性で痛みを伴ひまして潰瘍面から容易く出血し、潰瘍の邊緣は銳利に周圍からハッキリ境され往々緣下堀鑿 Unterminierend して分泌物が多量で普通化膿性橫痃を續發して(乍然必ずしも黃痃をいつも併發するものではない)それから潛伏期が短く大抵翌日から少なくヒも感染後一週間以內に潰瘍を造るのであります。

軟性下疳の發生部位は通常陰部でありますが、稀れには不自然の交接によりまして肛門或は口の周位などに或は手の指などに來るこヒがあります、肛門皺襞に參りまするヒ間々放線狀を作るのであります、肛門周圍の一側に出來るヒ周圍に感染して數が殖ゑて若し孤立性に參りまするヒ診斷が甚だ難つかしい、斯樣な場合には硬性下疳よりも其の特異な所が少ないが、何れにしましても分り難い潰瘍で若し其の潰瘍緣が段々緣下堀鑿して進み分泌が多量で癒り難いヒ云ふ樣な場合には又生殖器以外の軟性下疳をも考へるべきであります、それから孰にしましても此の軟性下疳はいつも局所の病氣でありまして黴毒の樣に全身病ヒはならないものであります、乍然若し所謂侵蝕性の潰瘍ヒなつてさうして深く侵して參りまするヒ又時には危險なこヒもあります(茲で私は一回軟性下疳から黃痃を起し、黃痃からシャンケルブボーになり靜脈炎を起して遂に敗血症ヒなつて死んだのがあつた)。

診斷上に於て若し重復桿菌を見ますれば確かなものであります、乍然夫れに依て混合下疳の有る無しを確かむることは出來ないのであります、それで屢々其の經過を見ることが又必要であります、又陰部匐行疹を軟性下疳と間違へることもありまず、陰部匐行疹の後のエロジオン或は潰瘍は(通常潰瘍の出來るものでありませんが處置が惡いと潰瘍の出來ることもあります)いつも表在性で甚だ小さくて尙ほ澤山に互ひに融合して出來た場合には其の形が多型性であります、ところが軟性下疳では互ひに融合しましても其の繫ぎ合の所の組織が早く破壞されるのであります、それで潰瘍の全体の形はいつも圓形を帶びて居るのであります、それから尙ほ軟性下疳では著明に此の膿汁を分泌致しまするが匐行疹に於ては糜爛面には寧ろ漿液性の分泌を洩すだけであります、機械的の刺戟及摩擦によつて出來た糜爛并に裂創なども軟性下疳と間違へる樣なことは殆んど無い筈でありまするが、たゞ其の病人が勝手に硝酸銀などを用ゐたりする爲めに斯樣な傷から潰瘍を造り往々著明に膿汁を分泌する爲めに恰度軟性下疳に似て居ることもあります併し斯樣な傷でありますると無刺戟性の治療法によつて能く早く癒りまするから少し經過を見まするも大抵見分けが附く樣であります、陰部匐行疹に於ても亦非常に癒り易いのでありまず黴毒の濕潤性丘疹も軟性下疳に似た所がありますが丘疹では唯だ糜爛面を造るだけで尙ほ其の底面に多少の硬結を伴つて居ります(横から摘んで見まするも糜爛

面の底の硬結が分ります)護謨性の潰瘍も紛らはしいことがありまするが、その潰瘍底が豚脂樣で、多少の浸潤硬結を伴つて且つあまり痛みがない、それで大抵區別が出來るのであります。

治療法　先づ局所を全く切除することが最も良い樣であります日露戰爭の時に召集されて一週間後に出征しなければならぬと云ふ軍人で、それまでに是非シヤンケルを癒せと云ふことでありましたが、幸ひに出來場所が好かつたので恰度一週間の後卽ち出征する迄に癒した事がありました、通常多發性で之れをスッキリ切除すると云ふことが六ッかしい、又幸ひ都合の好い場合にも往々手術面に感染しまして屢々更に大きな潰瘍を造る虞があります、夫れで實際にはあまり此の切除を行はないのであります。

それで此の軟性下疳の治療法に色々ありまするが先づ濃厚石炭酸を用ゐましてさうして充分に腐蝕して後とで沃度ホルムを用ゐるのが最も宜しい樣であります、前方には能く硝酸銀を用ゐましたがこれでは早く腐蝕痂を作りまして割合に深く働かないので今では用ゐられない事になつて居ります。

先づ其の潰瘍の分泌物をガーゼでよく拭ひ取りまして濃厚の石炭酸を以て綿棒或は杉箸の尖につけて二三度反復して燒くのであります、通常魔睡藥は要りませんが若し非常な過敏な患者でありますと一〇%乃至二〇%のノボカインを用ゐても

宜いのであります、此の石炭酸用法は綺麗な肉芽組織が出來るまで毎日或は隔日一回行ふのであります、侵蝕性のものでありましたらば一日二回位行つても宜いこゝもあります、乍然肉芽組織の出來て後にあまり長く腐蝕致しまするゝ却つて工合が悪い樣であります。

次に沃度ホルムを撒布致しまするが之れには純粹の儘で用ゐ或は十%の沃度ホルム、アルコールエーテルを塗りまして終りに乾燥ガーゼで繃帶致します或は硝酸銀ペルバルサンム軟膏(硝酸銀〇、一乃至〇、一五ペルバルサンム一乃至二、〇黄色ワゼリン一〇、〇)の繃帶を用ひます、然し軟膏療法をやるゝ分泌物が多くつて乾き難いです、それで肉芽の出るまでは乾燥療法が宜い樣に私は思ひます、陰莖の冠狀溝其他包皮に掩はれる場所の小さい潰瘍には澤山に沃度ホルムを撒布しまして其間にガーゼ或は綿を挿み込んでさうして包皮をかぶせて置いても宜いやうであります、尿道の下部でありまするゝ沃度ホルムカ、オ或は沃度ホルム軟膏の座藥を差込みます陰莖の繫帶の附着部に穿孔を來したものでありますゝ其の孔の中に細い沃度ホルムガーゼを差込んで置ても宜しいですが、其の端になつて居る所を全く切放す方が手當も充分に出來て潰瘍が癒り易い。

包莖の有る場合には成るべく先づ潰瘍を癒す方が宜しい樣でありまするが、而も其の包莖の爲めに潰瘍の癒り難いだけでなく尙ほ其の治療が充分に出來難い場合

には包莖手術を行ふの外はないのであります、たゞ此際に其の手術面に感染しないやうに努めなければならぬのであります、包皮嵌頓の場合に於きましては成るべく其の還納を計るが宜いのでありますが、併し六ッかしい時には此の陰莖背面に於て其の輪狀纖維を切るのでありますす又包莖手術を行ふ場合に若し都合が好ければ成るべく潰瘍をも切取るが宜しいのであります。

沃度ホルムは非常に有效な藥劑でありますが惜しい事には其の臭氣が高い爲めに嫌はれる、それで之れを用ゐる場合には成るべく廣く着物を脫がせて餘計な場所に藥の着かない樣にしなければならぬ、場合によつてはルーデサックを其の上にかぶせて置いても宜い樣であります、ところが中には沃度ホルムに向つて一種の特異性を持つて居りまして、其爲にかぶれ易い者があります、斯樣な場合には仕方がありませんから其の代用品として色々の藥が出來て居るので、其の內で先づ賞用されるのはオイロフエン、アイロール、ネルマトール、ヨドール等であります乍然沃度ホルムに比べまするゝ力が非常に弱いやうであります、下疳ワクチン、の注射も多少助けゝなる樣でありますから試みても宜しいゝ思ひます、これは普通に販賣してゐるものを〇、五から一瓦位隔日或は三日目ぐらゐに用ゐるのであります、黃疸の出來てゐる場合に、それに向つてはよく効くやうでありますが、潰瘍に向つては割合に其の効力が少ないやうであります。

此の軟性下疳は無論局所の病氣でありますが、さりとて餘り驅け廻り或は動き過ぎまするとき黄疸を起し易いから、成るべく靜かにするが宜いのであります、食物なども別段惡いと云ふことはありませんが、あまり酒を飲んだりすることは宜くないやうであります。

壞疽性下疳。

其の場所の血行の惡い爲めに壞疽を伴ふもの即ち下疳に壞疽を兼ねたものと、病氣其物に壞疽の性質を帶びて居るもの、即ち固有の壞疽性軟性下疳とを區別を立てることが出來る譯であります。

下疳に壞疽を兼ねるものは殊に男に最も多いのでありまして、包皮の内面に下疳が出來てその包皮が壞疽に陷るのであります、通常亂暴に其の病氣を捨て置くものに斯樣なことを見るのであります、即ち包皮の高度の腫脹の爲めに包莖或は嵌頓包莖に陷つて其爲めに更に血行を妨げられる、それで次第に壞疽に陷りまして包皮の袋の中から非常に惡臭のある稀薄なる膿汁を多量に漏して且つ包皮の一部分に暗紫赤色を現はして來る、斯樣にして遂に其の場所が黑くなつて壞疽に陷るのであります、嵌頓包莖に於きましては其の喰込んだ場所が壞疽に陷つて遂に其の輪狀纖維が切れて自づと血行の途が開けて即ち自然治癒を營むものであります、又包莖でありまするとき陰莖の内面に於て一部分が壞疽に陷つてさうして其の場所に孔が開い

て、其の孔から龜頭がのゝぞき出すと云ふ樣なことが少なくないのであります、其の壞疽に陷つた場所に穿孔して參りますと、それで自然治癒を營む、婦人では小陰唇が强く腫れて其の場所が壞疽に陷るものもあります、斯樣に壞疽を伴ふと非常に痛みを覺ゑて多少の熱の出ることも少なくないのであります。

此の血行障碍の爲めに來る所の壞疽はマアそれ程恐るべきものではありませんが成るべく早く其の妨げとなる所の組織の緊張を除かねばなりません、それで包莖があれば其の手術を行ひ嵌頓包莖では其の喰込んだ場所へ縱に輪狀纖維を切るのでありますそれで緊張が去りまするとき通常の治療法によつて次第に快くなるものであります。

ところが第二の型即ち固有の壞疽性軟性下疳では非常に其の趣が違ふのであります、即ち別に局所的原因なしに潰瘍そのものに壞疽を伴ふもので、先づ、潰瘍底に黑色或ば灰白色の壞疽痂を造りまして隨分早く深い潰瘍に陷るのであります、其の壞死した組織が奪れまするとき深い組織缺損を殘します、壞疽痂の周圍の皮膚は著明に浸潤を伴つて紫赤色となつて强く痛みを訴へて稍々高い熱發を伴ひまする、高度の時には壞疽が次第に進んで陰莖の海綿体をも犯して、陰莖の大部分を破壞することもある、斯樣の陰莖海綿体を破壞されまするとき云ふとき危險なる出血を來すことがあ

り又遂に敗血症に陷る樣になることがあります。

中には斯樣に速かに廣い壞疽に陷らずに寧ろ次第に組織を破壞して行くものがあります、卽ち侵蝕性の下疳であります、潰瘍の底面及び其の周圍には不潔なる綠色或は淡黑色の軟かな僞膜を現はしまして、周圍の皮膚に著明な赤い細胞浸潤を伴つて尙ほ殊に著明に進む場所では恰度ヂフテリー樣の僞膜を見ることもあります、斯樣な種類の潰瘍にはあまり深く進むことが少なくて寧ろ周圍に向つて殊に皮下組織を段々破壞して行く傾きを持つて居るのであります、それで假へば陰莖冠狀溝に始まつたものが包皮を全く破壞して更に綠下堀鑿する爲めに陰莖の皮膚が海綿體から離れて且次第に膿潰して遂に陰莖が全く裸かになるものもあります。

侵蝕性下疳に於てもその早い時期には隨分激しい痛み幷に熱を伴つて食慾も惡くなつて、夜もよく眠れない、更に色々患者が氣遣ふ爲めに非常に鬱憂狀態に陷りまして、斯樣な譯で其の經過の長引く場合は精神肉体共に衰へるものもあります。

診斷は包莖のある場合では隨分六つかしい事がある、包皮口から非常に激しい惡臭の分泌物を洩して激しい痛み幷に熱なぎを伴ひまするのは注意すべき條項とするのであります。

それから次に一寸其の原因に就て申上げます、固有の壞疽性軟性下疳では恐らく混合傳染或は續發性傳染をやる、さう云ふことが原因で、卽ち他の壞疽なぎに見る樣

に多くの場合に於ては色々の形のスピロヘーテーパリーダ幷に紡錘樣桿菌等を見出されてあるのであります、それから身体の虛弱な事惡液狀態なぎは其の素因となることもあるのは無論でありまするが又隨分丈夫な者で然も斯樣な惡性の軟性下疳に罹ることも少なくないのであります、斯樣な場合には卽ち病原菌の性質が惡いのでありますか何うでありますかと云ふやうなことは分つて居ないのであります

が、露西亞のペテルセンがペトログラードに於て往々一定の女郎屋で遊んだものには此の侵蝕性の下疳を見ると言ふてゐるのは面白いことであります。

治療法　無論壞疽の進行を止めるのが第一の努めでありまするから其の惡い場所を切除したり强い腐蝕藥或は烙鐵等を用ゐるのでありまするが併し初めに申しました壞疽性の下疳でありまするとその爲めにあまり廣い組織缺損を來す虞があるのです、それで寧ろ過滿俺酸カリユーム水の局所浴なぎを用ゐて、さうして自然に壞疽組織の分離するのを促すやうにするのであります、後に瘢痕收縮によつて尿道狹窄なぎを來しますればブージーを用ゐまするし、それから又あまり廣い組織缺損には植皮術を行ふのは言ふまでもないことであります、夫れに反して此の侵蝕性下疳でありまするとと搔爬術パクレン燒灼及び五十%クロール亞鉛の腐蝕なぎを行ひまする、尙ほ模樣によつてはサルバルサン注射を試みても宜しいのであります、色々のスピロヘーテーを含んで居るのに向つてサルバルサンを用ゐるのであります。

序では一ゝ言申し加へて置きたい、それは例によつて私の經驗談でありますが多少侵蝕性に潰瘍が進んで癒り難い下疳があつたのでありますが、外に餘り惡い徴候はないのでありますが、調べました結果毎晩病人自身に此の繃帶の取れないやうにして強く縛つて居つたのが原因であつたのであります。

蛇行性下疳

通常の下疳ゝ違ひまする所はいつまでも先き〳〵へ段々進んで參りまして、さうして初めの場所から又次第に癒つて行くのであります、それで瘢痕の周圍に多少半環狀の潰瘍を造りまして其の潰瘍の内側の方では次第に淺くなつて參りまするが其の外側に向つた所に於ては次第に破壞されて參りまして其の膿汁には毒物を含んで居るのでありまして其の膿汁を接種して見まするゝ、通常の下疳或は蛇行性下疳が出來るのであります、通常陰部に出來まして、次第に陰阜や、陰囊、大腿、腹壁、臀部、背面或は直腸粘膜等にも擴がり斯樣にして數ヶ月若は一年餘にも永引くものであります。

斯樣にして非常に永引く爲めに營養も亦た衰へて尙其の手當の惡い場合には往々熱發をも伴つて其の分泌物が分解して一層憐れな有樣になるものであります。

診斷上黴毒性の潰瘍ゝ非常に間違ひ易い、一般に黴毒では此の蛇行性下疳の樣に一ヶ所から始つて規則正しく遠心性に進んで、後ゝに殘つた瘢痕に少しも變化のな

いゝ云ふやうなことはないのであります、卽ち往々飛び離れた場所にも或は既に瘢痕を結んだ場所も新しい潰瘍が出來るのでありますから又黴毒には大抵弓型の潰瘍が蛇行性下疳の樣に連續性にはないのであります、尙ほ必要なのは此の蛇行性下疳では其の潰瘍の邊緣が穿鑿されてあるのであります、乍然又非常に區別の難つかしいのもありまするので疑はしい場合には兎も角も驅黴療法を用ゐて見ても宜しいのであります、それで黴毒であれば假令直ぐ癒らないでも著明に輕快するのを見る筈でありまする、たゞ此際に蛇行性下疳を黴毒ゝ考へて、さうして徒らに驅黴療法を反復しないやうにせねばならぬだけであります。

原因　此の蛇行性下疳は只普通の軟性下疳の一種であるゝ云ふことは定型性の重復桿菌を發見することによつて確かであります、乍然何故斯樣に永引いて蛇行性に進行するかゝ云ふことに就ては全く判らないのであります、惡液狀態或は結核ないがぎうも其の原因であるゝ云ふ譯もないやうであります。

治療法　充分搔爬を行つて强い五十%クロール亞鉛で腐蝕して後に沃度ホルムガーゼの繃帶を用ゐるのであります、尙ほ非常に頑固な場合にはリゾールの卷法或は熱卷法などを試みるのであります。

軟性下疳に於ける淋巴系統の變化に就て往々淋巴管炎を起しまして陰莖の背面に細長い腫脹を現はして痛を訴へるものであります、治療が宜しければ通常吸收す

るものでありますが、往々諸所に著明な浸潤を來しまして且つ其の場所に於て化膿するこゝがあります、即ち小横痃を造るこゝがあります、それから又此の小横痃が遂に破れて尙ほ其の場所に軟性下疳と同性質の潰瘍を造る場合もあります、此樣な淋巴管炎が出來ますれば更に淋巴腺炎を起さない樣に成るべく靜かにしなければなりません、局所には罨法及び陰莖の提擧さうして小横痃が出來て化膿致しますれば又切開して沃度ホルム療法を行ひます。

非常に屢々來ますものは淋巴腺炎(即ち横痃、横根、便毒)であります、陰部の下疳では通常鼠蹊腺殊に淺在性鼠蹊腺が犯されるのであります、稀には又股腺及び更に進んで直腸窩の淋巴腺をも犯されるのであります。

軟性下疳の横痃を起す場合に先づ淋巴管炎を見るものもあれば又然うでないのもあります、此の關係は恰度淋疾に於て副睪丸炎を起す場合に輸精管炎の有るものもあれば又無いものもあるのと同じ關係であります。

軟性下疳に於ける横痃は通常の淋巴腺炎とあまり變つたこゝはないので局所に疼痛性の腫脹を來し兩側に來るのもあれば又は扁側に來るものもあります、又潰瘍と同じ側に來るものもあれば却つて反對の側に來るものもあります、統計上或は左或は右が多いとか云ふこゝも言はれて居りますが此間から此學校で取つて居りまする統計では左右あまり數の差がないやうであります。

尙極く小さな横痃では吸收するものもありますが、多くの場合殊に大きなものでは通常第二週間或は其後に於て化膿します、棄てゝ置きまするこゝ遂に破壞して癒り或は破壞した後こゝに殘つた瘻管の入口が隨分早く廣がりまして其所に軟性下疳と同じ性質の潰瘍を造るものも少なくないのであります(下疳性横痃)此の下疳性横痃も又時に壞疽性或は蛇行性になりまして廣く且つ深く組織を破壞するこゝもあるやうであります。

横痃は下疳に見るところの最も多い合併症で殊に男子に多い、これはつまり男子が婦人よりも身体を動かすこゝが多いのが其の原因である譯であります、下疳の出來てから一二週間に横痃を起すのが最も多いのでありますが、其の潰瘍ある間にはいつでも之れを續發するこゝが出來得るので時には恰度潰瘍の癒つた後に横痃が出來て來るこゝもあります乍然又殊に治療法の都合好く參りました場合には隨分横痃を起さないで濟むのも少なくないのであります。

診斷はあまり六ッかしくありませんが、假令ば先づ小さい外傷から淋巴管炎を起して、而も其の淋巴管炎が癒つてたゞ淋巴腺の變化だけを殘した場合には一寸下疳の癒つた後の横痃に似て居りますし、斯樣な時には既往症に據るの外ないのでありますが、下疳では鼠蹊腺を犯しますし、足の傷では股腺を犯すものであります、ヘルニアなどゝ間違へるこゝはありませんが時には多少網膜ヘルニアに似た所もあります、

鼠蹊管に於ける潜伏睾丸に於て若し副睾丸炎を起した場合には鼠蹊部が硬く腫れて痛みを覺ゑ且つ皮膚の發赤を來しまするから一寸横痃に似て居るのであります乍然其の腫脹が此の場合にはボーバルト靱帶の上に則ち、より高く現れて且つ陰嚢の中にたゞ一の睾丸を觸れるだけでありますから疑が晴れるのであります。黴毒の無痛性横痃とこれとは殆んど間違ふことはないのであります、黴毒の横痃は炎症でなく淋巴腺の肥大でありますから別に痛みがない外に、淋巴腺周圍炎がありませんから淋巴腺互ひに融合することはないので卽ち腫れた淋巴腺を各々別に觸れることが出來るのであります、軟性下疳に於ける横痃では本當の淋巴腺炎で尙淋巴腺周圍炎を兼ねて居るから淋巴腺互ひに融合して一塊となつて腫れて來るのであります、淋疾に來るところの横痃との區別の難ッかしいことがあります、殊に淋疾に於て陰部匐行疹を兼ねた場合には其病人は下疳に罹つた樣に訴へることも少なくないのであります、それで益々紛らはしいこともあります、たゞ淋病の横痃は下疳の横痃に比べまするとと一般に炎症症狀が往々輕いのであります。

治療法　殊に早い時期にては安靜ブリースニッツ氏罨法或は熱罨法を用ゐます（總体軟性下疳の重復桿菌は熱に對しては弱い）、及び下疳ワクチンの注射或は三〇乃至七〇％アルコールの罨法等も試みるが宜しい、それで若し尙炎症の進む場合には或は全摘出を行ふか、化膿の熟するのを待つて切開を行ふのであります。

横痃の極く早い時機に於てあまり廣く化膿して居ない時に全摘出を行ひまして後とを縫合すれば非常に早く癒る譯である、乍然あまり大きくなつた横痃では全摘出の後に淋巴道を塞ぎまする爲めに象皮腫を來す虞があります、殊に兩側のものを一度に手術するとと外陰部の浮腫を來し易い、又場合によつては自家傳染によつて手術創面が下疳樣になることもあります、尙ほ其の横痃が皆な化膿するものではない隨分罨法などに依つても癒るものが少なくない樣であります。

既に化膿した横痃には小さい切開を加へてビールの吸引裝置を用ゐたり或はランゲに從つて一％の硝酸銀を注射して其の創に小さい沃度ホルムガーゼを差し込むでも宜しいでせう、又アルニングに從つて小切開を加へて膿汁を洩らし三％の石炭酸水で其の創の中を充分に洗つて更に其の中に十％の沃度ホルムグリセリンを注入し壓抵繃帶を行ふのも宜しいのであります、成るべく靜かに寢かして毎日繃帶を取替ゑまして、輕く分泌物を押出します、若し創口が塞いで居ますれば消息子の尖でそれを開きます、このアルニングの方法では手術をしました其の日だけ少し熱の出ることがありますが屢々宜い成績を見せることがあります、併し尙ほ一週間の後にも尙ほ著明に膿汁の出る場合には切開するが宜いと云ふことであります。

又初めから炎症症狀が盛んで、色々手當を加へても痛みも熱も強く炎症の進みまする場合には多くは混合傳染を受けたものでありますから大抵は早く且つ廣く

切開をする方が宜いのであります。

横痃の手術の事は通常ブーバルト靱帶に沿ふて切ると云ふことになつて居りますが寧ろ私はブーバルト靱帶を外上方から内下方に横切つて恰度陰股皺襞の中へ這り込むやうにして居ります、さうすると云ふ手術する面が非常に好く開きまして、大抵一の切線で濟みまするし分泌物の排泄も大變に宜しいのであります、尙後との瘢痕も割合に綺麗なやうに思はれます。

尙ほ此の化膿しない横痃に於ては其のX光線などでも試みるのもよろしいのであります。

極く慢性の横痃では假令黴毒に關係がなくとも沃度加里を用ゐるが宜いと云ふことであります時には著明に奏効を見ることがあるやうであります。

下疳横痃には其の模樣に依りまして矢張り石炭酸或はクロールチンクの腐蝕、沃度ホルム療法、熱罨法などを用ゐます。

十淋病。

淋病はナイセルの「ゴノコッケン」に依つて來るところの粘膜の急性化膿性炎症でありますが、殆んどいつも交接によつて傳染するもので、さうしてその大部分は尿道に來るのであります、原發性には其の尿道の外に尙ほ婦人の生殖器の粘膜、直腸の粘膜、眼の結膜、口の粘膜及び耳の孔などにも來ます、又續發性には接續的に進んで參りま

して、總て泌尿生殖器に接がつた所の機關卽ち攝護腺、精囊、輸精管、副睪丸、喇叭管、卵巢などや或は轉移性に漿液膜譬へば關節、心臟内膜或は紅彩などにも起るのであります、斯樣に侵される場所に依りまして其の症狀も色々でありまするが、私はたゞ尿道、殊に男子の尿道の淋疾に就て一般に申述べるつもりであります、其外の尿道へ來ます所の色々の病氣に就きましては外科の方に願つたのであります、又婦人の淋疾性疾病に就きましては緒方博士、中野氏に賴んで置きましたし、尙眼のことは眼科からお話があつた筈であります。

原因に就て　花柳病中で其の原因の分りましたのは淋病が最も早いのであります、卽ち一千八百七十九年ナイッセル氏に依つて其の病原菌なるゴノコッケンが見出だされたのであります、これは一種の重復球菌であります、其の形がゼンメル或はカッフェ豆の樣に其の片側が往々平たくなつて其の平たくなつた側を以て互ひに向ひ合せに二ッ並んだものであります、それで又恰度二ッの漠膜球を互ひに押し付けてさうして其の間に少しばかり間隙を置いた樣にも見ゐるのであります、可成り大きいものでありますから聯鎖狀球菌や葡萄狀球菌などゝ區別することはあまり六ッかしくないのであります。

ゴノコッケンの特異な所は大抵二ッ並んで居る外に四ッ八ッ十六と云ふ風に偶數に段々集つて居るのでありまして、殊に其の病氣の盛んな時期に於きましては好

んで多核白血球の核の周圍に集つてあるのであります、之れを染めて見ますること大抵容易く見ゐます、たゞ其の病氣の極く初期に於きましては細胞の外に散らばつてありまするから夫れを見定めることが時こして容易くないことがあるのであります。

ゴノコッケンの染め方、別に變つた事はありませんメチーレンブラウレョフレルのメチーレンブラウ、フクシン液、カルボールフクシン」なぞによく染まるのであります、其の形こ細胞の中に在るのに依つて通常確かに分るのであります、併し疑はしい場合にはグラムの染め方を用ゐることになつてをるのであります、ゴノコッケンはグラム陰性でグラム染色法に於て脱色するのであります、其の染め方は成るべく薄い塗抹標本を作りまして、之れにアニリン水ゲンチヤナビウレット、石炭酸ゲンチアナビウレットを注ぎまして二乃至五分間染めるのであります、ゲンチヤナビウレットアルコール飽和液一、〇に二、五%の石炭酸水九、〇を加へ全体を十倍に薄めるさうして其の色素の着いた儘で其の上に沃度加里液を注ぎ(沃度一、〇沃度加里二、〇水三〇〇、〇)一分間おきまして吸取紙を以て乾せ次に無水アルコールに入れて脱色し(二分の一乃至二分間)續いて水で洗ひ極く薄い石炭酸フクシン液で二分の一乃至一分間染めるのであります、これは却々能く染りまするから餘り長くないのが宜しいその石炭酸フクシンで染める度合は普通の試驗管の底に少しばかり(一立方仙米

突許り)入れまして其の試驗管全体に口の所迄水を入れて薄めるくらゐで先づ二十倍こ言ふのでありますがそれ以上になつても能く染ります、次に水で洗つて吸取紙で乾燥させて檢鏡するのであります、で、腦脊髓膜炎球菌を除きまするこ云ふこ外の重復球菌は皆なゲンチアナに染つて見ゐますがゴノコッケンはグラム陰性でありますから脱色して全く赤く染つて見ゐるのであります。

男子の淋病

病氣の模樣を分り易くする爲めに先づ男の尿道の解剖並に生理を少しばかり繰返す必要があるのであります、先づ尿道を前後の二つに別られてありまする、其の前部尿道は尿道外口、舟狀窩から尿道球部までを申します、後部尿道は膜狀部并に攝護腺部を含むものであります、尿道球部から膜狀部に移る所の膀胱外括約筋或は尿道括約筋があります、これは膜狀部に於ける所の尿道壁の滑平筋こ夫れから此の場所に於ける隨意筋から出來て居りまして膀胱の入口に於ける所の膀胱内括約筋を押開いて出て來る所の尿を此の場所へ喰止めるものであります、斯樣に小便が出て參りまする場合には後部尿道は膀胱こ一緒に一の腔間を造るのであります。

尿こ同し樣に尿道括約筋は後部尿道に於ける分泌物を喰ひ止めるものであるから通常尿道外口から出て來る所の分泌物は前部尿道に出來たものであります、若し後部尿道に溜つた膿汁が澤山でありまするこ寧ろ内括約筋を押開いて膀胱の中へ

逆流するものであります。

尿道粘膜は舟狀窩に於ては扁平上皮を被つて居り其外は一般に單層の圓柱上皮を被つて居ります、併し長く淋病を患ひますと圓柱上皮が扁平上皮に變ります。

實地上必要なものは假性尿道でありますこれは上皮を被つた所の極く細い管でありまして尿道外口部或は陰莖繫帶の側部などに開くもあります、その管孔底は尿道に連つて居るものもあれば或は尿道の中に開いて居るものもあります、其の長さも色々でありまして極く短いものもあれば非常に長いものもあります、隨分複雜なものは恰度陰莖の背面の冠狀溝の中に開いて居るものもあります。尚ほ必要なのは尿道壁の構造并に之れに繫がる所の腺組織であります、その最も粘膜の表層にありまするのはモルガニー氏窩 Lakunen, Krypten であります又稍々深く粘膜下にありまするのがリツツル氏の腺であります、是れは多少長い管によつて尿道或はモルガニー氏窩に開いてあるのであります、これも亦屢々ゴノコツケンの蔭れ場所になります、又尿道球部の兩側にコーペル氏腺があります、殆んど豌豆位の腺でありまして稍々長い排泄管に依つて尿道に開いて居るのであります。

後部尿道で膀胱に近い場所卽ち攝護腺部に於て胡桃大の攝護腺がありまして尿道の後ろ并に兩側を取圍んで居るのであります、攝護腺の分泌物は透明且つ粘液樣で後部尿道の眞中で射精管開口部の間に出て來ます攝護腺も亦ゴノコツケンのよ

い蔭れ場所であります。

射精管は後ろには精囊及輸精管に連つて睪丸の分泌物が輸精管の蠕動によつて尿道の方へ送られるのでありますが、臨床上必要なのは其の反對の蠕動によりまして反對に尿道の中に於けるものが副睪丸に向つて輸送されることであります。

症候

淋病が傳染しますると、通常二三日の後に其の徵候が現はれて參ります、中には非常に永い潛伏期を稱へるものがありますが、大抵は間違であります、前方一度煩つたものでありますると若し其潛伏期があまり永ければそれは寧ろ再發でありまして再患ではないので兎も角一週間以上の潛伏期は甚だ疑はしいものであります、若し其の永い潛伏期があると致しますれば殊に度々患ふものに見まする樣に其の徵候が極めて輕い爲めに病人が夫れに氣着かないか、或は包皮が餘り長い爲めにゴノコツケンが尿道に達する迄に包皮の袋の中に潛んで居たものと見做すの外がないのであります。

其の徵候としましては先づ自覺的には尿道の燒る樣な或は瘙ゆい感を覺えまして他覺的には膿の排泄を見るのであります、甚だしい場合には隨分其の分泌物の中に血液が混り或は純血を漏すこともあります、一般に始めて患ふものには其の徵が非常に著明でありまして度々煩ふものには次第に其の症狀が輕くなります。

極く盛んな時期に於きましては通常舟狀窩から尿道球狀部に到るまで惡くなりまするが、其の變化は通常第三週間になりますると次第に輕くなりまして分泌物も次第に減じて遂にはたゞ強く尿道から絞り出して初めて僅かに膿汁を見るくらゐになり或はたゞ尿道外口を閉ぢるくらゐになる、更に後ちになりますると其の分泌物が無くなつてたゞ小便の中に膿の塊り或は淋絲を見るだけになりましてこれも亦遂には全く無くなるのでありますが分泌物が少なくなりますると云ふと其の膿汁の性質も次第に變つて參りまして段々粘液樣となるのでありますが斯樣にして都合のよいものでは凡そ五乃至六週間で此の急性の尿道淋が全く癒るのでありますが、乍然本當に癒つたか何うかと云ふことは度々ゴノコツケンを檢べて定めることであります。

分泌物を取つて調べて見ると初めは粘液樣でありますが早く膿樣になつて參りますると、斯樣な場合には主に膿球と多量のゴノコツケンと僅かの上皮を見るだけであります、併し後になりますると云ふと次第に上皮の數が殖ゑて參りまするので臨床上にも亦分泌物が次第に白くなつて參りまして遂には粘液樣となるのであります。

ゴノコツケンも極く初めには大抵マバラでありまするが、次には非常に澤山に且つ細胞内に見ゑるのであります、尙時日を經過致しますると其の數が次第に減じて

さうして、往々他の雜菌が混合する樣になりまするので中には隨分紛はしいものもあります。

他覺的には舟狀窩の粘膜を見ることが出來まするが、急性の炎症の爲めに赤く腫脹して來るのであります、同じ樣に見ゑない場所も矢張り赤く腫れるに違ひないのであります、甚だしい場合には、尿道外口の粘膜が強く腫れて多少外飜するものもあります。

炎症の激しい場合には往々炎症性の包莖を起しまして、其の中に膿汁が溜るのでありますが、その腫れた所の包皮を裏返しますると無論嵌頓包莖に陷るのであります。

尙ほ炎症の激しい場合には陰莖全体に浮腫狀に腫れて姿が非常に惡くなる、又斯樣な場合には、屢々陰莖の背面に淋巴管炎及び小横痃を伴ひ或は又鼠蹊淋巴腺炎(横痃)を來すのであります。

炎症の激しくなると共に自覺症狀の痛みも強くなつて殊に小便の時に苦しみます、其の外非常に苦しみまするのは疼痛性の勃起であります、殊に夜なゞ現はれて睡眠を妨げられる(尿道粘膜に於ける刺激の爲めに勃起して組織を緊張され痛むのであります)乍然幸ひに斯樣な激しい痛みは大抵間もなく經過するものであります、ところが此の痛みのなくなると云ふことは又屢々其の病氣を等閑にする原因となるのであります。

小便の數は前部尿道淋だけではあまり變らない、時々としては却つて其の小便の度が減ずるものもある、これは痛みの爲めに小便を控へる樣になるのであります、若し小便の數が殖ゑて參りまして卽ち尿意頻數となりますれば尿道後部の惡くなつた徵であります。

後部急性尿道淋に就て

通常第二週間或は第三週間にして起つて參ります、既に申しました樣に尿道括約筋が後部尿道の小便及分泌物を喰止める樣に、又前部尿道の微菌や分泌物が後部尿道に進むのを防ぐものでありますがその緊張が弛んで來ますと、又その働もなくなつて遂には後部尿道炎が起るやうになるのであります、殊に一度後部尿道炎を患つたものでは新らしい傳染の時にも、又後部尿道炎を起し易い傾きがあるのであります、尙カテーテルを入れましたり或は强い注入藥を用ゐたり或は酒を呑みましたり激しい運動若しくは力仕事などしたり殊に交接をする爲めに後部尿道炎の起るのを助けるものであります、尿道淋に於て後部尿道炎が起る數に就きましては之を極める事は六ヶ敷いのでありまして殊に再患は多いのでありまするが始めての傳染に於ては統計がまづ四十%と見做されて居ります。

後部尿道炎が時としては餘りに著明な徵無しに殆んど潛伏性に來る事もありまするが殊に始めの傳染及び非常に亂暴な不養生をするものに於きましては、間々非

常に激しい症狀を持つて現はれて參ります此の二つの極端のもの丶間には又其人の特異性によりまして、種々の階級のものがある筈であります。

最も著明な徵は尿意瀕數であります、一…二時間若くは尙早く小便に行かねばならぬ樣になるのであります殊に夜間此尿意瀕數の爲めに能く寢むられないから、隨分苦しむ者もあります、尙此小便の間及び後に於きまして尿意瀕數が激しければそれ丈け强く痛みを覺ゑまして便所に參りまするにもまづ其痛みを恐れる樣になるのであります、若し其痛みを恐れる爲めに故意に小便を耐ゑまするか或は括約筋の痙攣を起しまするとき尿閉に陷入る事もあるのであります、又殊に膀胱頸部を犯されまするとき最も激しき尿意瀕數を覺ゑて痛みも甚だしいのであります、此場合に於ては、屢々終末血尿を來しまして小便の終りに血液を洩らすのを見ます、無論前部尿道淋に於きましても其炎症の激しい場合には出血を伴ふ事もありまするが此場合には血液は分泌物に交りまするか或は小便の間に出で參るのであります、所が所謂終末血尿に於きましては之は終末血尿致しまするのは急性後部尿道炎殊に膀胱頸部を冒された兆候であります、詰り膀胱頸部に於ける所の括約筋が働いて小便の終りの滴を絞り出す時に炎症の爲めに腫れた粘膜を傷るのであります。

次ぎに注意すべき症狀は小便の濁りであります、既に申上げました通り尿道後部の分泌物が多量になりまするとき後方に向つて膀胱の中に逆流するのであります、若

し又た尿道前部丈けに出來た分泌物でありますれば小便の爲めに早く洗ひ去られて仕舞うから終りの小便半分が綺麗である筈でありますが、所が後部尿道に分泌物がありまするこ膀胱の中に反流した分泌物の爲めに後の小便も矢張り濁る道理であります、斯樣な譯けで所謂トンブソン氏の二分尿試驗なるものが行はれる事になつて居るのでありますが即ち小便を前後半分宛二つのコツプに取つて見るのでありますが、併し乍ら若しその分泌物の少い場合には別に膀胱の中で反流しないので第一の放尿に依つて能く洗ひ去られて仕舞いますから只第一の分尿が濁つて、第二の分尿が全く、或は殆んど澄んだ處で、後部尿道が全く無事こ云ふ譯けには往かないのでありますこの場合後部尿道が無事な事もあれば又惡い事もあるこ云ふ事になるのでありますが又前部尿道丈けが惡い時にも其分泌物が非常に多いが或は殊に狹窄のある場合には前半分の小便に依つては十分洗ひ去られないので第二分尿も可成濁る事もあるのでありますそれでありますから此二分尿試驗丈けに依つて、確かに後部尿道炎の有る無しを定めるのは六ヶ敷い譯けであります。

若し第二分尿が第一分尿より強う濁る場合には、膀胱の中へ反流した所の小便が其膀胱底に沈澱した徴になる譯けであります、所が又此際に唯だ後部尿道炎であるか或は膀胱炎をも起したものであるが之も一寸定め難い問題であるが即ち第二分尿の寧ろ著明に濁つて居る事は唯だ尿道括約筋よりも後方の病氣の進んだこ云ふ

徴に過ぎ無いのでありますが、所が膀胱の中に強く小便の溜つた時には尿道後部も共に開いて寧ろ尿道後部が膀胱の一部分の樣になり又後部尿道炎の稍々強い場合には、膀胱頸部をも共に犯す事が非常に多いのでありますが、さう云ふ譯けで後部尿道炎こ膀胱加答兒こを極く細く分ける事も六ヶ敷い譯であります、併し淋疾に於て膀胱全体に冒される事は非常に少いのでありますから、斯樣に小便の濁る場合には腎盂炎を除きますれば先づ後部尿道炎こ見做して宜い譯けであります、尚又前部尿道の膿汁が殆んど無くなつた後或は其分泌物が非常に少くなつたに拘はらず尚小便が著明に濁る場合には後部尿道炎の疑ひこ見る可きであります。

そこで後部尿道炎の有無を確かに定めますするにはまづ前部尿道の膿汁を十分に洗ひ去つた後ちに小便を取つて檢べて見るのであります、但し此の際前部尿道を洗ひまするのに餘り力を用ゐない樣に注意をしなければならんのであります、さうして其前に洗滌した水が綺麗に透明になりますこ迄度々前部尿道を洗つて見るのであります、これには生理的の食鹽水若くは硼酸水を用ひます。

後部尿道炎が起りまするこ更に進んで攝護腺、精囊、副睾丸若くは膀胱或は腎臟に迄波及致しまして或は轉移性で種々の關節炎其他の病氣を起す惧れがあるのであります、幸ひ斯樣な合併症の無い場合には、若其患者の攝生がよければ隨分六乃至八週間位で治るものであります若し非常に永引く場合には大低其患者が靜かに養生

をしない罪であります。

全身症狀に就きましては、前部尿道淋丈けでありますれば餘り變化が無いのであります熱の出る樣な事も非常に少いのであります唯だ精神上餘り其病氣を憂へる爲めに元氣も少く食慾も減じて、能く寢むれないで身体の衰弱する事もあるのであります、其外疼痛性勃起の爲めに時々非常に睡眠不足に陷入るのであります後部尿道淋が起りますると時々著明の全身症狀を伴ふので即ち始めて可成り高い熱を伴つて熱發する事もあります、食慾も減じまして時々便秘するものがあります又尿意頻數の爲めに非常に苦しむものであります、以上は急性の淋病の症狀でありまするが種々の合併症に依つて經過の違ふ事は申す迄もありません又人々の持前或は傳染の度數等に依りまして其症狀も樣々であります即ち其症狀の非常に輕いものもあれば或は非常に重いものもあるのであります、總て始めの傳染の場合には其症狀が重くて二度目からの傳染には一般に輕いのであります、始めて傳染した時に於て若し其症狀が非常に輕いものでありますと夫れは寧ろ疑はしいもので唯だ單純な加答兒性尿道炎である事が多いのであります、斯樣なものを假性の淋病と名付けられて居ます、併し乍ら又始めの傳染に於きまして斯樣に輕く見ゐるものも全く無いではないのであります詰り此ゴノコッケンの力が非常に弱いのでなければ病人の抵抗力が非常に强いものと見做すの外は無いのであります又結核性或は其素質の

ある者に於きましては一般に淋病の症狀も强い樣に見ゐるのであります。

慢性尿道淋疾の慢性淋病は毎時も急性の淋病から來るのでありますが其間に急性と慢性に就ての格別著明な區別のある譯けではありませんまだ淋病の原因の判らない時代から總て急性淋病の後に於ける所の尿道の變化を單に慢性の淋病と名付ける習慣がありまするが今では唯だ此のゴノコッケンのある間丈けに此慢性の淋病と云ふ名前を用ゆ可きでありまして既にゴノコッケンが無くなつたものに於きましては淋疾後の變化と名付く可きであります無論其區別も仲々六ヶ敷いものでありますが原因學上之を別けるのは當然であります、即ちゴノコッケンのあるものは傳染致しまするがゴノコッケンの無くなつた淋病後の變化では傳染しない譯けであります。

急性淋病の後に來る所の淋病が即ち慢性淋病でありまするが、何時から慢性であるか問題であります、併し之は互に次第に移り往くものでありますから迚も細く之を別ける事は出來ないのであります、唯だ適宜に之を定める外は無いのであります それで急性淋病が幾月にも亘つて主な象徴が輕くなつても全く無くならない、そこで一般に淋病が慢性になつたと云ふのであります、此際唯だ其分泌物が病氣の症狀でありまするが其分泌物が非常に少いものもあるのであります即ち唯だ朝起きた時に尿道を絞つて見ますると一滴の膿汁を認める位のもので其外には殆んど分泌

物を見ないのでありまず、又其分泌物も大抵は純粹の膿汁で無うて時々粘液樣になつて其色も薄く尙其量も少くて、且つ粘稠でありまするから容易く乾いて、間々殊に朝起きた時に尿道口を鎖して居るのでありまず或は其分泌物が非常に少く何遍も後方から尿道を强く絞つて漸く僅かの分泌物を見る位のものもありまず寧ろ分泌物を見易いのは小便を取つて見るのでありまず、其小便は全体に濁るものもありますが又全体には澄み切つて僅かに膿の塊り或は淋糸を見るものもあります。

小便が瀰蔓性に濁りまするのは通常廣く粘膜を冒された場合でありますが此際注意せねばならぬのは燐酸塩尿、黴菌尿及び膀胱や腎臓から來る所の尿の混濁なごを區別せねばならぬのであります。

小便の中に膿の塊りの出まするのは尿道の瀰蔓性に惡い時にもありますれば又其病氣の限局した場合に來るのであります、其大いさ並びに形なごは種々で丸い物もあれば糸の樣に長い物もある其内でコンマ樣に小さい物は大抵腺の排泄管から來るものでありまず其色も種々でありますが、其中に白血球の多い丈け、夫れ丈け白、黄色を帶びまして不透明でありまず斯樣な色の濃い物を取つて調べまするとゴノコツケンは見出し易い、然し粘液樣の塊りでも又ゴノコツケンを含んで居る事がありまするから注意して調べねばならぬ譯けであります。

慢性後部尿道淋が起りまするとこ云ふこ又尿意頻數を起すのでありまず併し乍ら

急性の淋病に比べて、通常極めて輕いもので又只尿意瀕數の時にも現はれて、卽ち飲食物及其他の不養生に依つて尿道を刺激された後に小便の數が殖ゑるのでありまず。

斯樣に慢性の淋病に於きましては少量の分泌物及び時々に現はれて來る所の尿意瀕數等の外には餘り症狀が無いのでありますが時々急性の發作に來る傾きがありまず卽ち極く僅かの分泌物位で殆ごゑ癒つて居た所の淋病が安心して不養生をして居りまする間に遽かに惡るくなりまして多量の黄色の膿汁が出まして多少の痛みを覺ゑ又尙尿意瀕數等を伴ふ樣になるのでありまず卽ち淋病の再發こ稱して居るのでありまず、斯樣にして隨分屢々永い間再發を繰返へすものでありまず、此際果して再發であるか或は再患であるかこ云ふ事を區別すべきでありますが時には隨分難か敷い事もありまず又夫婦間に於きましては治療を加へましても交互に傳染する事もあるのであります。

淋病の再發に就きましては無論種々の原因もありませうが何れにしてもゴノコツケンが何處かに潛んで居つてさうして何か好い機會の時に殖ゑて來るもので無ければならぬのであります、此ゴノコツケンの隱れ場所こなる所は種々ありまするが殊に假性尿管、尿道粘膜に於ける所の小さい腺及び攝護腺等が其重なものでありまず斯樣な隱れ場所に潛んで居る所のゴノコツケンが何かの機會に依りて尿道粘

膜の上に出て來た場合に遽に急性の淋病を現はすのでありますそれで又淋病の再發は一種の自家再傳染と見做す事も出來る譯けであります。

急性の淋病に比べまして慢性の淋病に於ては其局所の症狀が非常に輕いに拘はらず屢次神經衰弱に或は鬱憂症の基となるものもあります此關係に於きましては淋病後の病氣と同じものであります。

男の淋病の合併症

包莖　先天性後天性がありまして屢次嵌頓包莖に陷入る事があります包莖がありますと屢々包皮龜頭炎を起しまして包皮口から分泌物を洩らしまして爲めに淋病と間違へる事もあるのであります。

尖圭コンジローマー　外の場合にも尖圭コンジローマーが能く出來まするが淋病に來る事が最も多い樣であります。

海綿體炎　彌蔓性に來るのと限局性に來るのとがあります隨分急性の場合には熱發を伴ふものもあります、又膿瘍を作るものもあります、慢性のものであれば細胞浸潤と結締織增殖の爲めに隨分固い塊りを殘すものであります。

淋巴管炎並に淋巴腺炎　之も曩きに申しました樣に陰莖の背面に淋巴管炎並に小橫痃を起し又鼠蹊腺炎を起します、軟性下疳に來た所の橫痃と比べまするとその炎症症狀が稍々輕い樣に思はれるのであります。

尿道粘膜の腺の炎症　卽ち多いのはリットル氏の粘液腺の炎症であります之は尿道壁に小さな硬結が出來るのであります尙コーペル氏腺炎之も御承知の通りに非常に多いのであります之が冒されると右か左に片寄つて炎症性腫脹を起して痛みを訴へ或は時に膿瘍を作るものもあります。

其他攝護腺炎、精囊炎　之は共に隨分多いのでありまして其臟器が隱れて居りますゆゑめに屢次診斷を誤る事もある樣であります、そう云ふ譯けで男子に於て淋疾の既往症あるもの或は其疑ひのあるものに、譯けの判らない熱が出れば直腸より攝護腺並に精囊を探つて見ると云ふ事が診斷學上の規則になつて居る樣であります、肛門から指を以て攝護腺を觸れて見ますと攝護腺部が腫れて痛みを訴へます、此攝護腺炎等に於て殊に急性の炎症のある場合之を觸診致しますに餘り强う押へない樣に注意しないと不可ないと云ふ事であります、これは攝護腺炎のある時に靜脈炎を能く兼ねて居りますから餘り强く壓迫すると不可ないのであります其他の症狀は急性の後部尿道炎と餘り變りは無い樣であります、精囊も肛門から觸れて壓痛があります。

精系炎、副睾丸炎　之は外部に現はれて居りますると寧ろ皆さんの方が御經驗が多い樣でありますから此處に申述べる事も無い樣であります。

其他膀胱炎、腎盂炎　之もチョイ〳〵ある樣であります。

轉移性變化として淋病から來た關節炎、心臟內膜炎、腱鞘炎、粘液囊炎及び筋炎等もあります、血管の病氣では淋病から來る所の靜脈炎殊に細い靜脈炎では丁度結節性硬斑の樣な皮下の炎症性の硬結或は紅斑を現はす事がありますが非常に稀でありますが尙神經系の變化は座骨神經痛、多發神經炎、脊髓炎、脊髓膜炎等も淋病から來た樣にも書かれてありますが之は非常に少いものでありませう。

眼の變化、淋毒性虹彩炎、之は膿漏眼から來る所の虹彩炎で無い所の轉移性に來るものであると云ふ事で其型は單純性の形と變らないのであります。

皮膚科で面白いのは淋病から來る所の皮膚病があります、稀でありますが種々の形を以つて現はれまして手掌足蹠に角質過多症を起す事があります(淋毒性角質過多症)私自分では未だ確かなものを見た事はありませんが詰り之は一種のゴノコッケンの毒素に依つて來るものと見做されて居るものであります、其他紅斑、蕁麻疹、水疱形成、出血斑、膿疱疹等をも記載されて居るのであります。

淋病の後の病氣

總て淋病の爲めに起つて、ゴノコッケンは無くなつても尙後に殘つて居る所の變化が卽ち此中に這入るものであります、然し特に茲に申上げまするものは卽ち淋病後の尿道加答兒、慢性の攝護腺炎並に尿道狹窄であります其內で攝護腺炎と尿道狹窄に就きましては外科の方でお話を願ふ事に致しまして私は主に淋病後の尿道加

答兒に就て少し許り申上げます。

淋病後の尿道炎

ゴノコッケンの無くなつた後に尙殘りまする處の加答兒性の炎症でありまして間々唯だ粘膜の極く淺い變化に止まるものもありますが永く淋病が續いた場合には隨分深い變化を伴ふものも少くないのであります卽ち粘膜の上皮に變形を來しまして圓柱上皮が扁平上皮に變りまして、粘膜に於ける粘液腺並に其周圍の炎症をも伴ひまして尙深い場所の細胞浸潤結締織の增殖なども伴ふて尿道狹窄等に陷るのであります。

淋病後の尿道加答兒の內には黴菌性の尿道加答兒と名付く可きものが少くないのであります卽ち淋病のありまする間から種々の黴菌殊に球菌が混りまして其黴菌自身には全く非病源性のものもありますが絕にず多少の分泌物を伴ふのであります、卽ちゴノコッケン以外黴菌の爲めに受くる尿道作用でありまして時としては其分泌が多少膿汁の性質を帶びまして其爲めにゴノコッケンが又全く無くならない樣な疑ひを懷く事も少うないのでありますは是れは又淋病無しに來る事があるのであります。

凡て此淋病後の尿道加答兒に於ける分泌物が通常透明或は不透明で稀れには粘稠でありまして其量も甚だ少い夫れ故に自然に流出ると云ふ事は無いのでありま

す唯だ後方から前に向つて絞りまするか或は永く小便をしなかつた時に僅かに分泌を洩らす位でありまする、殊に朝起きた時に僅かの分泌を見るのでありまする或は分泌物が極く少くて唯だ尿道の入口を塞ぐ位のものもありまする、小便を取つて見まするこ其中に糸の樣な(所謂淋糸)分泌物或は膿の塊りを含んで居るのでありまする其内で極く小さい白いコンマ樣のものは矢張り恐らく粘膜の腺から出たものでありまする、中には永い間或は殆んご一生涯多少の分泌物の持續するものもありまする、さうしまして時々或は何かの原因殊に酒を飲んだ後或は交接の後に多少の炎症發作を起しまして其分泌物の量が增し尙膿汁樣の分泌物を洩らす事がありまするが通常は間もなく舊の有樣に歸るものであります。

男子の淋病後の尿道加答兒其物でありまするこ通常は餘り氣遣ふ可きものではありません、捨て置いて良い譯けでありますが實際に理屈通りに參らない事が少くないのでありまして卽ち隨分急性の淋病を等閑にして於てさうして僅かに後に殘つた所の小便の中の淋糸に就て非常に心を惱ます者が少くないのでありまする斯樣にして隨分理窟の判つた人が神經衰弱や鬱憂性に陷りまして小便する度に陰莖を捻つて見て尿道口の閉ぢて居るのを見ては愕ろき、小便の中に僅かな淋糸を見ては恐れるのでありまする、さうして此斯樣な淋病後の尿道加答兒の分泌物が一寸治り難いから斯樣な神經衰弱は又仲々癒らないものでありまする、種々の書物を調べましてそ

うして餘計な心配の種を集めて次ぎから次ぎに醫者を代へて廻はり歩くのでありまする、結局は餘計な金子を使ふ丈けこ云ふ事になるのでありまする、夫れで斯樣な場合には殊に此淋病後の尿道加答兒であるこ云ふ診斷を確かめる事が必要でありまする隨分此病人の中にも慢性の淋病の言葉を聞くのでありますが既にゴノコツケンの無くなつたものには最早や淋病こ云ふ言葉を用ゐる可き事ではありません、夫れで病人にも淋病後の變化こ夫れから固有の淋疾この區別を充分に言ひ含めねばならんのでありまする所が此區別を確かめるこ云ふ事は餘り容易く無いのでありまする、ゴノコツケンを見付けました場合には卽ち診斷は確かでありますが之れを見付けない時には果して其ゴノコツケンが無くなつたものか或は其數の少い爲めに唯だ見付からないのであるかが難かしいのでありまする、それで度々其分泌物を檢べまして場合によりましては時々强い硝酸銀液を注入して刺激をして其分泌物を促し或はグラムの染方を用ひ或は尙培養等も試みて宜しいのでありまする然し培養は斯樣な場合には難かしいのでありまする斯樣に種々の檢査を行つてさうして淋病後の尿道加答兒こ診斷を下した者に尙何處かに此ゴノコツケンが潛んで居りましたならば最早や人間の力の及ばない所であります。

尙淋病を除いた外に黴菌性の尿道加答兒、攝護腺炎、粘膜の浸潤並に狹窄の有無等を檢べる事は申す迄も無いのであります。

淋病の療法

御承知の通り淋病は非常に多い病氣でありまするから例へ專門家で無くても實地家は多少共其手當を心得て置く必要があるのであります何れにしましても、淋病の療法は其病氣の時期や模樣によりまして種々手加減をしなければならぬものでありますす

急性淋病の療法

まづ之には養生法が必要でありますそれで第一に飲食物に注意せねばなりませんの即ち多量の牛乳を與へまして其外には成る可く植物性の喰物を攝らせて餘り鹽氣の少いものを擇ぶものであります、種々鹽類の多い物を遣りますと結局尿中に鹽類が出て刺激されるものであります、酢の物を厭がる傾きがありますか之は餘り障らない樣でありますが、尚肉類は之も成る可く少いが宜しい樣でありますが餘り肉類を餘計にやりますと云ふと其性分が小便の中に多量に出る爲めに尿道を刺激する其外に情慾を助ける爲めに間接にも障碍をする譯けでありますが全く肉類を廢めると云ふ事は六ヶ敷い事でありますから成る可く鹽氣の少いものを用ゐると云ふ風にするのであります、魚に就ても同じ事でありますが成る可く淡白な物を擇び用ひますこれは牛肉等よりも幾分か宜しいのでありますが、隨分中には鰻を食べると分泌が非常に增すと云ふ樣な事は事實ある樣であります。

更らに難かしい問題は飲み物で總てアルコールの這入つた物は全く用ゐないが宜しいのでありますが、僅かの麥酒を飲んだ爲めに後戻りをする事は少くないのであります、濃いお茶コーヒー等も惡い樣でありますが之は餘り亢奮させるからでありますす併し乍ら其他の飲物でありますると寧ろ利尿を促しまして尿量を殖す爲めに用ゆるのが都合が善い樣であります。

尚夜寢る前に三時間許りは餘り飲み喰いをしないが宜しいのでありますが、夜遲う餘り飲喰いを致しますると云ふと何うしても陰莖の勃起を助ける爲めに間接の障碍となるのであります。

次ぎに成る可く靜かにせねばならぬのであります總て激しい運動を致しますると淋病の經過を惡くする丈けで無く種々の合併症を起し易い、夫れで踊り、ダンス、自轉車乘り、馬乘り、水泳等は凡て惡い樣であります斯樣な運動の後で副睾丸炎を起す事が非常に多い、無論副睾丸炎を防ぐ爲めに提睾帶を用ゐる事になつて居りますが之を用ゐた所で運動しても良いと云ふ譯けではなく提睾帶には夫程の効能がないのであります。

身体の運動の外に尚精神上の養生をも注意しなければならんのであります其情慾を促す事は生殖器の充血を來しまして從つて淋病の經過を惡うしますから避けねばならんのであります、交接の惡い事は無論の事であります、夫れで又情慾を促す

様な書物を讀んだり或は斯様な場所に遊ぶこと云ふことも宜敷くない譯けであります。

次ぎに必要な事は清潔を守ること云ふ事であります即ち膿汁の附いた所の綿なぎは妄りに投げ捨てない様に患者に注意しなければならんのであります殊に眼に傳染しない様に之も八釜しく注意して置かねばならんのであります、然う云ふ譯けでありますから陰部に觸れた後には手を石鹸で洗つて置く様にしなければならぬのであります、尙着物や褌及び手巾等に膿汁の附かない様に注意させまして尙陰莖を包んで置くが良いのであります、又放尿の際に包皮を全く翻轉して十分龜頭を現はす様にさせる、放尿の後に成る可くは龜頭及び包皮を硼酸水で洗はして後に綿或はガーゼを包皮の入口に挾み込んで置くのであります、其外尙病人に用ゐる機械卽ち尿道注入器之れも絕ゑず清潔にして殊に其尖きを毎日アルコールで消毒させる様にするのであります。

若し後部尿道炎になりまして尿意瀕數、血尿、熱發並に疼痛等を來しました場合には殊に注意致しまして全く安靜に寢かせ、然うして成るべく淡白な輕い飲食物を攝らせるのであります、夫れで又主に牛乳を多量に用ゐるのが宜しいのであります、副睾丸炎を起しまする場合にも同じ事でありまして其熱發並に痛みのある間には絕對的に安靜を命ずるのであります尙前部尿道痳に於きましても急性炎症のありま

する間には自ら出來るなれば就床させまして然うして牛乳療法を用ゐるが宜しいのであります隨分それに依つて病氣の經過が佳くなるものであります。

次ぎに淋病に用ゐまする藥劑に就きましては其數が非常に多いのでありますのみならず殆ど毎日の様に後こ後へ新しい藥が出て參りまして數へるに暇が無い位であります併し乍ら其内で著明に効くこと云ふ藥は甚だ少いので又理想的に効く藥は無い様であります、其藥劑を内服藥こ局所に用ゐるものこに區別する事が出來る様であります、其内で内服藥こしましては第一にバルサンム劑を用ゐるのでありまして例へば白檀油、ゴノロール、ゴノサン或はゴノサルピン、セスタリン等を用ゐて居りまする之を用ゐるこ多少痛みの輕くなる事は事實であります殊に後部尿道炎の時に其効力が稍々著明であります併し乍ら其内服藥丈けでは夫程効能がある譯けではありません唯少し痛みが樂になるのこ多少膿汁の分泌を減ずる事もあります尙白檀油を多量に用ゐまするこ時こして腎臓を刺激して輕い蛋白尿を洩らす事もあります、又斯様な内服藥は腸胃を障碍しまして腹痛、下痢等を來す事もあります或は其爲めに紅斑様の發疹物を見る事もあるこ云ふ事であります、以前から非常に用ゐられましたのはコツバイバルサンムであります殊にコツバイバルサンムこキユペバ或はキユペバヱキスこ合せました物が盛んに用ゐられましたものであります

が確かに多少の奏効を見る様ではありますが惜しい事には腎臓並に腸胃を害し易

いのと、發疹物を見る事が多いのであります。

次ぎに用ゐまする内服藥はサリチル酸製劑であります。その尿消毒藥としまして此サリチル酸製劑が働くのは確かで種々試驗をした結果一番力が強い位であります併し乍ら之も多少腎臓を刺激しまして蛋白尿を來す事のあるのは注意すべき事であります此サリチル酸製劑は殊に膀胱加答兒と後部尿道炎に宜敷い樣であります其内でサリチル酸ナトリウム(二、〇乃至四、〇)ザロール等は(二、〇乃至三、〇)多く用ゐられる樣であります無論ザロールを用ゐまする場合には絶ゑず小便の色に注意して石炭酸の中毒を防がねばなりません併し乍ら此小便の色が小便の出た後で變はりまするのは構はない樣であります。

尚痛みの強い場合にはアスピリン、サルピリン等を用ゐます。

種々の藥が澤山ありますがサリチル酸と白檀油と結び付けたものがザロザンタール及びザンチール等であります

夫れからホルマリン製劑を用ゐる之にはウロトロピンにヘルミートル、ボロベルチン、ベクサールと云ふ樣な藥があります化膿性膀胱加答兒に此ホルマリン製劑の効きまする事は確かであります淋病に向つては其割合に効かないのは不思議な事であります、夫れで化膿性膀胱加答兒、必竟淋病以外の膀胱加答兒が起りまするか或は膀胱頸部加答兒がありまするか若くは淋病の外に化膿菌の傳染を兼ねた場合に

はウロトロピン等を用ゐるが良い譯であります、併し中には又ウロトロピンを用ゐた爲めに却つて刺激症狀が殖ゑるのもある樣であります。

昔から今に用ゐられて居りまするのはウワウルシ葉の煎劑であります尿中に出てからの殺菌力に就きましては極めて弱いもので殆んど其力は無いと云ふても宜しい位でありますが寧ろ利尿劑として働く樣であります、實際に澤山の小便を洩らしますること詰り極めて無刺激性の小便で絶ゑず尿道を洗ふ譯けになりまして淋病の經過も輕くなる樣であります以前極く新しい淋病に唯だ毎日多量の冷茶を喰ませまして靜かに寢かして置いたのでありますが所が一週間餘りで全く分泌物もゴノコツケンも見ゑなくなりまして唯だ僅かに粘液樣の分泌物を殘した丈けになつたので唯だ一回〇、〇三%の硝酸銀で尿道を洗つた所が綺麗に癒つたのであります腹具合の許す限りに於て麥茶を多量に飲むのもよいのであります。

又殊に後部尿道炎に於きまして尿意瀕數を伴つて非常に痛む場合には麻醉藥を用ゐる必要があります、それにはモルヒューム、オピユーム、ヘロイン等の座藥を用ゐます或はアンチピリン、アスピリン、アダリン、ベロナール等を服ませたり或はアンチピリンとヘロインの座藥も宜しい樣であります(アンチピリン二瓦と塩酸ヘロイン〇、〇二五をカカオに混ぜまして座藥四個とす)

尚勃起を防ぐ爲め多量のブローム製劑をも用ゐる必要があります。